

14.5-817



1200501218739

14.5

7

X  
複写



始





PL 5M 42

# 會社四季報

145  
817

東洋經濟新報社編

昭和十五年第三輯



公社債、株式の引受募集及び賣買  
コール、手形の仲介其他金融業務

# 藤本ビルブローカー証券株式會社

本店 大阪市東區北濱五丁目  
東京支店 東京市麴町區大手町二丁目  
支店 横濱・静岡・福島・小樽・秋田・名古屋  
金澤・京都・神戸・岡山・廣島・松山  
門司・福岡・臺北・京城・新京・奉天

有價證券業  
大株一般・國債・實物取引員

# 武田證券株式會社

大阪市東區北濱一丁目  
大阪東郵便局私書函第九十號  
電話北濱(2)345676869代表六四五(6)  
市外專用大阪(24)2526272829125



14.5-817

編社報新濟經洋東

# 報季四社會

輯三第年五拾和昭

融金・式株・債社・債公

## 社會式株券證村野

目丁二町土安區東市阪大 店本

店支

松高・島廣・山岡・戸神・都京・屋古呂・京東  
城京・幌札・岡靜・瀧新・澤金・岡福・司門

## 社會式株券證村野洲滿

連大京新 店支 天奉 店本

### 目種業營

會計の検査	財産に關する遺言執行	貸付並保證	不動産信託	有價證券信託	金錢信託
-------	------------	-------	-------	--------	------

# 託信同共

### 大阪本店

東區今橋三丁目一番地  
電話北濱(23)代表三四〇一番  
振替口座大阪七九九〇〇番

### 東京支店

麹町區内幸町一丁目七番地  
電話銀座(57)三四八六番  
振替口座東京八四六六三番











日本ニッケル.....二九	日本皮草.....二八三	日本發送電.....二〇七	日本ビストリゲ.....八四	日本ベイント.....一三八	日本硫黃.....一三二	日本油類.....一三六	日本郵船.....一三一	日本理化學工業.....一三二	日本レイヨン.....一七六	日本輕金屬.....二七六	日本バルブ工業.....四四	日本バルブ製造.....一〇七	日本米穀.....二七八	日本化成工業.....一九	熱河開墾.....三五	熱帶產業.....二六六	博多株式取引所.....二八一	函館船渠.....五五	發動機製造.....七四	早山石油.....一五〇	哈爾濱セメント.....一五一	阪神急行電鐵.....一四六	阪神電氣鐵道.....一四六	阪和電氣鐵道.....二四九	日立製作所.....五六	日立電力.....二一八	
日出紡織.....一六七	廣島株式取引所.....二八一	廣島電氣.....二二五	廣澤製作所.....一〇五	弘中商工.....一〇三	東朝鮮鑛業.....三四	東滿洲產業.....一九〇	福島電燈.....二二二	福島紡績.....一六六	富士瓦斯紡績.....一六〇	不二越鋼材工業.....七一	富士鋼管フィルム.....一三六	富士電機製造.....五九	富士電力.....二二〇	富士山麓電氣鐵道.....二四五	古河電氣工業.....二四	北越製紙.....一四〇	豐國セメント.....一四八	鳳泉無煙炭礦.....四四	北鮮製紙.....一四二	化學工業.....一四二	北海水力電氣.....二二二	北海普達.....二二五	北海道瓦斯.....一九九	北海道製糖.....二二九	北海道製糖.....一九九	北支煙草.....二七五	
保土谷化學工業.....二二三	ボルネオ護謨.....二六八	松下乾電池.....一三七	松屋吳服店.....二五七	丸善石油.....四九	馬來護謨公司.....二六七	滿洲化學工業.....一五	滿洲鑄物.....二二	滿洲工廠.....六五	滿洲重工業開發.....一八五	滿洲車輛.....一〇四	滿洲セメント.....一五〇	滿洲煙草.....三三	滿洲電信電話.....二五五	滿洲亞細亞煙草.....二七五	滿洲パルプ工業.....一四三	滿洲麥酒.....一〇三	滿洲毛織.....一九〇	三河鐵道.....二五二	三菱鐵道.....二五六	三菱鑛業.....三九	三菱重工業.....五一	三菱電機.....五八	三菱製紙.....一四〇	南滿洲瓦斯.....二三〇	南滿洲鐵道.....二八六	高製鐵所.....一七	
宮田製作所.....八六	武藏野鐵道.....二四三	名港土地.....二六三	明治製菓.....二〇〇	明治製糖.....一九六	明治紡績.....一六八	明電管.....八一	森永製菓.....二〇〇	矢作水力.....二一七	積取引所.....二七八	芳澤化機工業.....一〇二	橫山工業.....八九	ラサバル工業.....三四	ラサバル工業.....三四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四	龍山工作.....一四四
理研アルマイト工業.....九八	理研製造.....一〇〇	和歌山紡織.....一七一	ワシノ製機商事.....一一	附錄統計	株式稅引利廻表.....二九二	株式配當手取金表.....二九二	實物金融指定銘柄.....二九四	株主特典.....二九五	東株長期委託	本證據金表.....二九六	東株短期委託	本證據金表.....二九六	東京株式取引所	委託手取料表.....二九七	株價一覽表.....二九七												

公社債株式賣買・募集引受

大阪商事株式會社

本店 大阪市東區高麗橋三丁目  
支店 東京市日本橋區江戸橋一丁目  
滿洲大商證券株式會社  
奉天市大和區加茂町第六號



株式公社債賣買・募集引受

大阪・本町二丁目

電話本町

(市内専用) 一六二五〇一六三〇  
(市外専用) 六四三〇一六五一



株式  
會社

大阪屋商店

東京出張所 麹町區有樂町二丁目東日館

電話丸之内

六三三三七・六三三八

神戸出張所 神戸區三宮町三丁目

電話三宮 三二一〇四・三五四〇

### 株式と財界

「大戦擴大の影響」我國には從來一の迷信があつた。それは歐洲に戦争が勃發すると、我國に對し神風の好影響を與へると言ふ考へ方である。昨年九月に第二次歐洲大戦が突發するや、我財界に樂觀氣分が起り、株式は軒並みに暴騰したことによつても、右の考へ方が信じられてゐたことが判る。然るに、實際の経過に徴すると、大戦の擴大は必しも我國に對し好影響を與へないのみか、逆に經濟的には悪材料として働いて來るやうになつた。元來第一次歐洲大戦の時でも、最初は我が財界も決して好くはなく氣迷的であつた。それは大戦の擴大によつて我國が如何なる影響を蒙るかが不明であつたからだ。爲めに株價も大正三、四年は低迷を辿つてゐた。然るに、戦争も後半に入り聯合軍の旗色が好くなり、且つ貿易を通して我財界が非常に惠まれるに至つて、株價も未曾有の活況を呈するに至つたのである。

「會社業績の下行」處が今回の第二次大戦は、今日では獨逸の壓倒的勝利の下に戦が續けられてゐるが、そのことは同時に大戦も案外短期に終るのではなへかと言ふ觀測を生ぜしめてゐる。この危惧が我が財界をして警戒的ならしめ、株界にも暗雲を深はしてゐる。更に經濟的には我國に對し注文は殖えてゐるやう

だが、併し今日の經濟狀態では、殘念乍らそれに應ずる力に乏しい。加ふるに、大戦の擴大は歐洲方面よりの我國への物資輸送を不可能ならしめてをのみならず、米國も禁輸品を益々増加せしめてをり、我が物資不足をして益々窮屈ならしめてゐる。それでなくても、昨年來生産力の増加停頓によつて、會社業績も停頓乃至は悪化の傾向を辿つてゐる。大戦の擴大はこの傾向に却つて拍車をかける結果を及ぼしてゐるので、株價も振はな

いのが當然である。搦て、加へて陸軍の利潤統制は、株式に對し一層妙味を減殺せしめてゐる。  
「投資株の嚴選」五月下旬から六月初にかけての株式暴落は、以上の原因を集中的に表はしたものと考へる。而も今後に於ても右の状態は改善されるどころか、更に悪化すると見透す外ない。無論株價は底無しに下るものではない。利廻の關係もあるから適當の位地にまで下れば喰止められる。また下落する場合には玉石を混淆して一齊に下るものであるから、中には既に過ぎて下落してゐる株もあらう。従つて株價が下れば下る程、そこに選擇の必要性も増して來る。要するにこれからは益々會社の研究を必要とし、その基礎の下に於て選擇投資を行はねばならない。

(六月七日記)



### 凡例

- 【決算期】 決算期中三、末より八月末決算迄を上期とし、九月末より翌年二月末決算迄は下期とす。
- 【單位】 統計欄「資産負債」「收支勘定」は千圓。「利益率」「配当率」は割、「構成比率」は%、「株價」は圓を單位とす。
- 【株主資本】 期末拂込資本、各種積立金準備金及引當金(但し社員積立金、法定退職手當準備積立金に類する勘定は控除)前期繰越益金及び当期利益金(繰越損失金及び当期損失金は負數にて加ふ)の合計を以て株主資本とす。
- 【社外負債】 社債、借入金、支拂手形、諸未拂金、預り金等の他便宜上、前受金、假勘定、未決算勘定、繰越勘定等をも含む。
- 【使用總資本】 株主資本と社外負債の合計で、又固定資産、投資勘定及流動資産の合計に一致す。
- 【固定資産】 土地建物、機械諸設備、什器、建設假勘定、増設假拂金等の他、特許商標權地上位營業權等の無體資産をも含む。
- 【投資勘定】 子會社及び關係會社に對する出資金、貸付金或は取引上の貸金、其他營業直接の目的でなく、利殖の爲に所有する不動産、長期に互つて所持する有價證券を含む。

- 【流動資産】 使用總資本中より固定資産、投資勘定を除いた殘額を便宜上流動資産と見做す、猶使途不詳の假拂金も流動資産に合算す。従つて此の中には假拂金、未經過保險料、預り有價證券の如き會計學上流動資産と認め難いものも若干包含す。
- 【收入・支出】 收入中には前期繰越金、積立金準備金等の戻入、財産評價益、他社合併益等を含まず。又各種消却金、賞與金、弔慰金、減資損金は支出中より除く。然し、鐵工業其他の會社の法定退職手當準備積立金、瓦斯會社の報償金は經費と看做す。
- 【利益金】 利益金は前述の如く消却金、賞與金等控除前のものである。従つて之等を支出にて落せるものに就ては、之をそれぞれ資産負債の當該勘定に還元す。
- 【利益率】 對平均拂込資本利益率。
- 【消却年率】  $(\text{消却除} \times 2) + (\text{國定資産} - \text{建設中勘定})$
- 【構成比率】 流動比率  $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債} + \text{株主資本}}$   
固定比率  $\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{株主資本}}$   
負債比率  $\frac{\text{負債}}{\text{負債} + \text{株主資本}}$
- 【株價】 東長は東株長期相場、大長は大株長期相場の略、長期株價中の△印は實物相場。

## 日本製鐵株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内郵便ビル(電九ノ内二三四一九)

【鐵鋼利潤の低下】 事變後鐵鋼價格の引下で鐵鋼會社の利益は減少傾向にあつたが、殊に昨年の秋の歐洲大戰勃發以後は輸入屑鐵の暴騰があり、かてて原材料の入手難から操業率は低下し、ためにコストが著しく昂騰し鐵鋼採算は極度に悪化した。かくて鐵鋼價格引上問題は今や緊急且つ重大の問題と化してゐる。生産停滯の傾向はひとり原料難のみに止まらず、採算の點に負ふ處も見逃し得ないからだ。

【三月期減益顯著】 日鐵は鉄鋼一貫作業が完備してゐる關係から鋼材に於ては未だ相當の利益を擧げ得るが、鉄鐵に於ては採算は著しく悪いため、減益は相當に顯著になつてゐる。去る三月期も、二百四十七萬圓の減益となり、固定資産の償却後、七分配當を行ふため特別積立金を八百萬圓減ぜざるを得なかつた。尤も減益と云つても利益率は二割一分五厘で七分配當に不安を與へる如きものではないのだが、當社はこの利益金を以て擴張計畫を進めてゐるのだから、この影響は相當に大きい譯だ。

【やがて増資か】 値上が實現しても前期以上の利益は期待は出來ぬし社債發行にも限度があるので、結局は増資に進まざるを得ぬ筋合にある。資金の手當が出來、擴張が完成すれば、幾分裕りが出ることは云ふ迄もない。兎も角擴張期にある今が一番苦しい處だ。

【設立】	昭和九年一月	【資本金】	公稱 250,000 拂込 250,000
【決算期】	三月、九月	【株數】	政府 50,000 民間 200,000
【事業】	鐵鐵、鋼材、板、其他製鐵副製品	【役員】	會長 平生 三郎 社長 中松 貞一
【株主】	大藏大臣 5,000 釜石鐵山 100,000	正副 飯田 九郎 渡邊 義介 景山 廣	
【事業規模】	主要工場 大阪製鐵所	山辰 夫 吉田 豊彦 松田 貞治 郎 松本 健	
【事業成績】	八幡製鐵所、釜石製鐵所、瀨西製鐵所	次郎 荒城 二郎 尾形 次郎 福田 廣雄	
【事業成績】	鐵鐵生産(千トン) 十一年下 1,033	田尻 生五 北村 保太郎 監査 榊山 愛	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 十一年下 1,033	輔 原邦道 鑄谷 正輔 小倉 正恒	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 十二年下 1,033	【株主數】	十一年下 1,299
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 十三年下 1,033	十一年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 十四年中 1,033	十二年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 十五年中 1,033	十二年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 十六年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 十七年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 十八年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 十九年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十一年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十二年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十三年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十四年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十五年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十六年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十七年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十八年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 二十九年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十一年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十二年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十三年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十四年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十五年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十六年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十七年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十八年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 三十九年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十一年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十二年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十三年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十四年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十五年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十六年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十七年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十八年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 四十九年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十一年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十二年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十三年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十四年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十五年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十六年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十七年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十八年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 五十九年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十一年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十二年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十三年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十四年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十五年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十六年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十七年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十八年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 六十九年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十一年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十二年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十三年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十四年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十五年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十六年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十七年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十八年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 七十九年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十一年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十二年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十三年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十四年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十五年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十六年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十七年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十八年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 八十九年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十一年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十二年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十三年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十四年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十五年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十六年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十七年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十八年中 1,033	十三年上 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 九十九年中 1,033	十三年下 1,299	
【事業成績】	鋼材生産(千トン) 百年中 1,033	十三年上 1,299	



# 日本鋼管株式會社

(本社) 神奈川県川崎市渡田字若尾新田(電川崎 三三二)  
(出張所) 東京市麹町區丸の内一ノ二大川田中ビル(電丸ノ内 三七一五)

【最終拂込徴収】 當社の最終拂込徴収が去る五月十三日付を以て當局より許可された。拂込額は新一株につき十七圓五十錢、總額一千五百六十四萬五千圓で、その徴收期日は来る八月一日だ。これで當社は資本金一億圓全額拂込済となる。この資金は云ふ迄もなく目下建設中の〇〇越高城の建設費に充てられる。當社は更に第二次擴張として〇〇越高城並びに大管工場の建設等を計畫してゐるが、鐵鋼業は目下原料難と収益減退期に見舞れてをるので、それが急速に具體化するかどうかは判らぬ。

【合併問題】 右の第二次擴張が具體化するとすれば當然増資となるがその時期は恐らく鶴見製鐵造船との合併終了後の明春邊りであらう。この合併は愈よ来る九月十二日と決定した。資金調整局へ提出した正式認可申請書によると、その合併比率は鶴見製鐵十株に對し鋼管株八・五株の割合である。

【下期二分減配か】 同業他社同様當社も愈よ減配が予想される。手持の安値原料を使ひ盡した今日となつては、大戦後の原料高が直接にコスト高となつて収益減を喚ぶからだ。鐵鋼價格引上げの可能性は強いが、それと同時に利潤統制も強化される方針だ。當社の一割二分配當も當然問題だ。多分下期には二分減配するであらう。

# 株式 神戶製鋼所

(本社) 神戸市兵庫區福祿町一丁目三一(電神合 二〇、二六〇)  
(出張所) 東京市麹町區丸の内一ノ二臺灣銀行ビル内(電丸ノ内 三七一五)

【擴張工事進捗】 予て建設工事中の宇治山田工場は愈々近く第一期工事を終り、六月中には操業を開始し得る段取となつた。製品は電機類だ。山口縣長府工場も既に第一期計畫に屬する分は昨秋來運轉して居るし、その第二期工事も着々進行して居る。

【社債發行】 建設資金は株金及び社債に依り賄ふ意圖で、既に新株は第三回の拂込を徴收済だし、社債も昨年九月に發行予定額五千萬圓の中一千万圓を發行したところだが、更に近々二千万圓程度の社債發行が實現するものゝ如くである。が、建設計畫は頗る老大な規模なのだから、今後の資金需要も旺盛であり、従つて最終拂込も案外近い筈である。

【惠れた地位】 鐵鋼機械部門に於ても亦重點主義が採用され、原料の供給、資金の調達その他の取扱に於て輕重の差別を設けられたが、當社は重盤の圈内にあることだから、優遇を受けること勿論だ。然しながら、原材料の全体的供給逼迫が大なり小なり當社に影響を及ぼすことは固より覺悟すべきである。

【利潤統制】 一方利潤統制も著かざるを得ないから、長府工場、宇治山田工場の運轉から増産の利益が期待されるにしても、今後の収益狀況は今迄程良好ではあり得ない。が、現配當は無論不動だ。

【鐵鋼事業】

【設立】	明治四十五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	鋼管、丸、平、角鋼、山形鋼、特殊鋼
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 844,355
【株数】	新(五〇) 1,000,000 舊(三三) 844,355
【重役】	社長 白石元治郎 常務 長久 大橋 進一 取締役 香田 五郎 藤谷 正輔 田田 清藏 高松 誠 今泉 嘉一郎 西野 惠之助 田川 義八郎 川崎 芳照
【株主数】	十三年下 二、二〇〇 十三年上 二、二〇〇 十三年下 二、二〇〇
【大株主】	鐵鋼證券 九、三六五 第一 鐵兵 五、八六六 川崎重工業 三、〇〇〇 大川合名 三、〇〇〇 富國鐵兵 三、〇〇〇 帝國生命 三、〇〇〇 日本鐵兵 二、七三三 三井物産 二、〇〇〇 【生産高】(噸) 十三年上 十三年下 十三年上 鋼管及鋼材 三、三三三 三、三三三 三、三三三 合 計 一、六八四 一、六八四 一、六八四
【投資會社】	昭和鐵業、日本瓦斯管、鐵鋼證券、南洋鐵業、日滿鐵管
【資本異動】	十三年各新株發行開拂込徴収 十月各新株發行開拂込徴収十四年五月各新 七圓五拂込徴収

【資産負債】	十二月中 十四年中 十五年中
株主資本	二五、七九六 二五、七九六 二五、七九六
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
借入金	九、九〇〇 九、九〇〇 九、九〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動比率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
固定比率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
負債比率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
平均損益	一〇〇 一〇〇 一〇〇
利益率	一〇% 一〇% 一〇%
【名義書換】	十四年中 十五年中 十六年中
高値	八八八 八八八 八八八
安値	八八八 八八八 八八八
【新券交付】	三十錢

【設立】	明治四十四年九月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	鋼材、線材、伸鋼、電氣機械、並に一般機械類の製造、販賣
【資本金】	公稱 2,000,000 拂込 1,775,000
【株数】	新(五〇) 2,000,000 舊(三三) 1,775,000
【重役】	社長 田中 有造 常務 森本 幸一 川上 義弘 取締役 浅田 長平 監査 南 久壽丸 土屋 行藏 佐々木 義彦 小田 島修三 井上 雄三 和田 信房 井上 雄三
【株主数】	十三年下 十三年上 十三年下 總 數 (名) 四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇
【大株主】	臺灣銀行 一、〇〇〇 三太陽産業 一、〇〇〇 日商株式會社 二、〇〇〇 第一生命 八、八〇〇 川崎信託 五、〇〇〇 富國鐵兵 四、〇〇〇 帝國生命 三、〇〇〇 日本生命 三、〇〇〇
【事業規模】	平爐設備、電氣爐設備、工場所在地 神戶山手工場、東海岸工場、西海岸工場、長府工場、島村工場、名古屋工場、門司工場、島村工場
【事業成績】	十三年上 十三年下 十三年上 販賣高(千圓) 三、八七五 三、八七五 製造費( ) 三、八七五 三、八七五
【投資會社】	播磨造船所、滿洲鐵鋼所、高知電氣工業、日本エヤープレキ
【資本異動】	十四年一月、五月、九月、開増資第一 回三圓五拂込徴収、七月第一回三圓五拂 込徴収十五年一月三圓五拂込徴収

【資産負債】	十二月中 十四年中 十五年中
株主資本	二五、七九六 二五、七九六 二五、七九六
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
借入金	九、九〇〇 九、九〇〇 九、九〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動比率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
固定比率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
負債比率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
平均損益	一〇〇 一〇〇 一〇〇
利益率	一〇% 一〇% 一〇%
【名義書換】	十四年中 十五年中 十六年中
高値	八八八 八八八 八八八
安値	八八八 八八八 八八八
【新券交付】	五十錢







# 大同製鋼株式會社

(本社) 名古屋市港區龍宮町一〇(電 南六五三)

【倍額増資】五千二百萬圓への倍額増資認可を得て、六月一日その第一回拂込金六百五十萬圓を徴収した。この資金は主として星崎、築地兩工場の擴充費に充當される。事業の性質上具體的な計畫に觸れないが、前記兩工場の擴充は今後もそのテンポを緩めず、さらに其の他工場もまた全面的な擴充過程にあることとして、當社の資金需要は前途なほ極めて旺盛だ。資材手當の關係からその時期は予想困難ながら、現在のテンポで擴充が進行し得る以上、尠くも年内に増資の第二回拂込徴収があつて然るべきだし、社債發行余力約一千万圓(現發行一千六百五十萬圓)の行使も速からぬ日にあるものと予想される。かくて順調に行けば、今回増資分の拂込徴収は成績の伸力と脱み合せて、矢張り早に行はれる模様である。

【九分配當繼續】かやうに當社の拂込資本は急膨張の筋合にあるが、近來の資産内容は良好だし、その製品もまた既に定評のあるところであり、殊に特殊鋼需要の將來性を考へ合せれば擴充の前途に大きな懸念はない。たゞ最近の資材不足から擴張が予定より遅れることは止むを得まい。問題の利潤統制も當社の如く可なり強行生産を行つてゐるところにあつては、相當の考慮が拂はれることが想像される。現行九分配當は今後も繼續可能である。

# 日本特殊鋼管株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内南有樂館内(丸ノ内三三三)

【増資決定】當社は予て千五百万圓増資を申請中であつたが、去る五月初千二百万圓増資の内認可が下つた。増資新株は七月五日現在の株主に對し五對三の割合で割當る。新株第一回拂込は八月二十日一株二十圓、總額四百八十萬圓を徴収する。更に同じく申請中だつた鋼路炭鐵の合併も内認可に接した。

【特殊鋼一貫体制整備へ】今回の増資資金の用途は戸田工場の特殊鋼の製造、鍛造、壓延設備の建設と大湊工場の埠頭及び砂鐵鑛採集運搬設備の擴張であるが、この中主力を向けるのは云ふまでもなく戸田工場の特殊鋼設備である。當社は從來、製管用の材料を自給するため砂鐵製鍊事業に乗り出したもので、製鍊設備の完成に次いで製鋼設備の建設に向ふは既定の事實であつたのだが、當社の砂鐵鑛は特殊鋼原料として非常に優良な品質を有するため、これを原料に利益の多い特殊鋼製造に向ふこととなつたのである。當社は製鋼設備の外に鍛造、壓延設備も建設するから既設の製管設備と相伴つて特殊鋼の一貫作業會社となる譯だ。この完成は來年一杯かゝる。

【やがて再増資か】砂鐵製鍊のコスト低下に成功したのでこの収益は増大する筋合にあり、現行九分配當は餘裕裡に握置かれる。今回の増資が内輪な點から見ても、やがて再増資が期待される。

【鐵鋼事業】

【設立】	昭和十年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	鋼管、鋼塊、製鐵並に之に必要なる諸業
【資本金】	額定資本金 50,000,000 払込資本金 30,000,000
【株主】	橋本圭三郎 取締役 戸澤 芳樹 中島 統一 取締役 高橋 正之 常務 榎垣平太郎 監査 近藤 眞一 取締役 藤山愛一郎 石坂 泰三 梅津 七藏 相談 安川雄之助 梅津 七藏 相談 安川雄之助
【大株主】	中島 統一 一八、〇〇〇 日本 債券一六、〇〇〇 安田 信託 一〇、〇〇〇 安川雄之助 三、〇〇〇 第一生命 一〇、〇〇〇 山一證券 六、〇〇〇 山丸商會 四、〇〇〇 平岡鐵三郎 三、〇〇〇
【事業規模】	砂鐵製鍊工場 東京市南砂町 戸田製鋼工場 埼玉縣戸田市 川口鑛物工場 埼玉縣川口市 大湊製鐵及製洗工場 青森縣大湊町
【事業成績】	十一年上 十一年下 十二年上 製品売上高(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 製造原價(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 資本異動 十一年十一月千五百萬圓増資 十三年六月及十一月各三回拂込徴収十 四年六月三回拂込徴収十月三回(徴 終)拂込徴収

【資産負債】	十二年度 十四年度 十五年
株主資本	三三、〇〇〇 三三、〇〇〇 三三、〇〇〇
外部負債	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動負債	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
固定負債	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
固定比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
負債比率	一〇〇 一〇〇 一〇〇
平均拂込	一〇〇 一〇〇 一〇〇
利率	一〇 一〇 一〇
配當率	一〇 一〇 一〇
【名義書換】	十錢【新券交付】三十錢

【役員】	社長 川崎會恒三 取締役 高木 益壽 常務 野村 秀三 取締役 山田 健彦 中村 恒夫 監査 下田 平太郎 齋藤 直武 監査 高橋 忠次 志水 秀一 相談 安東 昌吉 小野 忠雄 相談 勝野 正魚 坂下 忠雄 相談 安東 昌吉
【株主】	十一年上 十一年下 十二年上 東邦興業 六三、〇〇〇 愛知銀行 三、〇〇〇 東邦電力 一七、〇〇〇 木曾川電力 七、〇〇〇 日本生命 一五、〇〇〇 下出義雄 六、〇〇〇 千代田生命 一〇、〇〇〇 常關銀行 五、〇〇〇
【生産能力】	千圓(十二年九月現在) 鋼管 一〇〇、〇〇〇 鋼塊 一〇〇、〇〇〇 鋼管 一〇〇、〇〇〇 鋼塊 一〇〇、〇〇〇 鋼管 一〇〇、〇〇〇 鋼塊 一〇〇、〇〇〇
【事業成績】	十一年上 十一年下 十二年上 製品売上高(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 製造原價(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【投資】	築地製鐵、大湊製鐵、東海電機、矢作製鐵 三重製鐵、大同機械製作、富水鋼業其他
【資本異動】	十五年四月五圓(最終)拂込 徴収、六月倍額増資第一回二二圓五拂込

【資産負債】	十四年度 十五年
株主資本	三三、〇〇〇 三三、〇〇〇
外部負債	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動負債	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
固定負債	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動比率	一〇〇 一〇〇
固定比率	一〇〇 一〇〇
負債比率	一〇〇 一〇〇
平均拂込	一〇〇 一〇〇
利率	一〇 一〇
配當率	一〇 一〇
【名義書換】	五錢【新券交付】二十錢



### 日本高周波重工業株式會社

【本社】朝鮮京城府黃金町二ノ九(電本局 二八二)  
【支社】東京市麹町區内幸町一ノ二(東拓ビル)(電銀座 一九三)

【上期成績と今後】五月份的利益金は前期と大差ないが、利益率に於ては前期の十一割五から六割臺に急低下した模様である。何分、平均拂込資本が七百万圓から一千三百八十三万圓に急膨脹したからで、当期配當は増資當時の某方面との約束により一分減の九分配當に内定した。つまり減配はしたが、それは成績から来たものでは無いのである。然し、これから先の成績は必ずしも樂觀一方では無い。それと云ふのは本年三月廿五日に五倍増資を實施し、このため今後の未拂込徴収は頻々と行はれ、豫定通りに行けば年内に最終拂込徴収の上、再増資の發表となる事情にある。現に第二回拂込一株十七圓半は六月廿八日徴収された。斯うした資本の急膨脹からして必然的に未動資本は累加し、その壓迫を蒙る事にならう。當然、資本金一千萬圓時代の如き高収益は望まれない。況や、利潤統制の打撃も考慮してをく必要がある。恐らく、再増資と關聯して更に一程度減配は餘儀ないであらう。

【當社の性格】屑鐵に依らず独自の砂鐵及粉鐵に依る一貫作業を強味とし、その完成へと急ぎつつあるが、未だ製品は世に云はるゝ程に優秀ではなく、電力關係からコスト必ずしも低廉でない事が漸次に分つてきた。某方面の力で強引に押上げられた會社である。

【設立】	昭和十一年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	高周波電流應用各種金屬製錬
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	新(三五) 800,000
【重役】	社長 高橋光三 取締役 小林秀雄 専務 高橋省三 常務 野村增平 安村和清 監査 立川宮一 土橋國利 監査 菊池一徳
【株主数】	廿年下 廿年上 廿年下
【大株主】	高橋省三 80,000 砂田重政 43,000 有賀光三 35,000 利原鐵山 30,000
【事業規模】	工場所在地 咸北城津邑及浦町 城津工場 咸北城津邑及浦町 富山工場 富山縣射水郡新湊町 北品川工場 東京市品川區北品川 練行橋區 昇雲鐵山、馬峰鐵山、徳亭 鐵山、東海鐵山(以上朝鮮)、高濱 砂鐵(新潟) 苗木鐵山(岐阜)
【事業成績】	十三年下 十四年上 十四年下 賣上高(千圓) 5,525 13,732 15,566 賣上原價(千圓) 3,732 11,732 15,566
【資本異動】	古年九月最終三圓拂込徴収、 五年三月千萬圓に増資第一回三圓五拂 込徴収

【資産負債】	十二年 十四年 十五年
株主資本	六,三三三 九,五五五 一七,六六六
積立金	一,七七七 二,二二二 二,二二二
外部負債	四,三三三 五,九九九 五,九九九
借入金	三,三三三 三,三三三 三,三三三
流動負債	一,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇
流動資産	三,三三三 三,三三三 三,三三三
現金預金	三,三三三 三,三三三 三,三三三
【收支動向】	十二年下 十四年上 十四年下
収入	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
支出	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【構成比率】	十二年下 十四年上 十四年下
流動比率	三三三 三三三 三三三
固定比率	三三三 三三三 三三三
負債比率	三三三 三三三 三三三
平均拂込	三三三 三三三 三三三
【株價】(買物)	高値 株 安値
十五年	五五〇 五五〇 五五〇
十四年上	五五〇 五五〇 五五〇
十四年下	五五〇 五五〇 五五〇
【名義書換】	十錢 【新券交附】 五十錢

### 尼崎製鋼所

【設立】昭和七年四月  
【決算期】三月、九月

(本社)兵庫縣武庫郡大庄村中濱新田五六(電福島 三六一)

【最終拂込】去る五月一日新一株に付二十五圓宛、總額三百十五萬圓の最終拂込を徴収した。この拂込金は尼崎製鐵への拂込金を準備すると共に、手許資金を増加するためのものであるらしい。順序からは次の増資も考へられはするが、當面不可能と云つてよい。

【業績悪化】上期計上利益は百四十三萬七千圓、利益率三割四分八厘だ。配當は三分減の一割二分に落して居る。當社は純然たる平爐會社だから、屑鐵の昂騰及びその入手難からは、今後の成績も決して樂觀を許さない。鐵鋼價格の引上が實現すれば息をつけようが、それにしては業績の向上は期待薄で、場合に依ては更に減配か。

【資本金】	拂込済 七,七五〇,〇〇〇
【株数】	(五〇〇) 100,000
【重役】	社長 井上長太夫 末兼要 常務 淺野義夫 取締役 井上三郎 取締 井上好三郎 監査 森下彌三郎 井上金三郎 監査 島田徳太郎 千葉金三郎 監査 多田甚太郎 八井田四郎
【大株主】	十五年三月期 一、英名 井上光治 六、大西井上長太夫 三、三、三 井上好三郎 七、四九井上清五、三、三
【事業規模】	工場所在地 武庫郡大庄村、大阪
【名義書換】	十錢 【新券交附】 五十錢

【資産負債】	十四年 十五年
株主資本	三,三三三 三,三三三
外部負債	三,三三三 三,三三三
借入金	三,三三三 三,三三三
流動負債	三,三三三 三,三三三
流動資産	三,三三三 三,三三三
現金預金	三,三三三 三,三三三
【株價】(買物)	高値 安値
十四年中	九七〇 八二五
十四年下	九七〇 八二五
十五年上	九七〇 八二五
十五年下	九七〇 八二五
【名義書換】	十錢 【新券交附】 五十錢

### 徳山鐵板

【設立】昭和三年二月  
【決算期】四月、十月

(本社)大阪市東區高麗橋四丁目三五第一ビル(電北濱 九二)

【凡調】去る四月份計上利益は八十五萬一千圓で、此の利益率二割一分三厘に當る。前期に比し一萬四千圓の増益だが、利益率では三厘を低下して居る。これは平均拂込資本の増嵩に基くところだ。配當は依然一割二分据置としたが、若干窮窟の感を免れない。

【弱點】當社は曩に特殊鋼製造設備を建設し、特殊鋼界に進出したけれども、専門は依然壓延で、薄板、中板、帶鐵其の他の製造に當つて居る。が、壓延會社の今後は原料難が激化する懸念が多いから、従て業績も逆路し難い。含みの多い會社だから速かに轉落することはあるまいが、然し一割配當に落して將來に備へるが得策だ。

【資本金】	拂込済 八,〇〇〇,〇〇〇
【株数】	(八〇〇) 160,000
【重役】	社長 岩井雄二郎 村喜三 専務 友田一太 取締役 村喜三 取締 平野亮平 監査 岩井豐治 下田伊三郎 監査 永井繁
【大株主】	十五年四月期 一、英名 岩井商店 八、〇〇〇 川合純一 〇、〇〇〇 山口合資 八、〇〇〇 日本日産 〇、〇〇〇
【工場所在地】	徳山工場山口縣大津村
【事業】	薄鐵板、中鐵板 帶鐵
【名義書換】	十錢 【新券交附】 三十錢

【資産負債】	十四年 十五年
株主資本	九,〇〇〇 九,〇〇〇
外部負債	九,〇〇〇 九,〇〇〇
借入金	九,〇〇〇 九,〇〇〇
流動負債	九,〇〇〇 九,〇〇〇
流動資産	九,〇〇〇 九,〇〇〇
現金預金	九,〇〇〇 九,〇〇〇
【株價】(買物)	高値 安値
十四年中	七〇〇 五八〇
十四年下	七〇〇 五八〇
十五年上	七〇〇 五八〇
十五年下	七〇〇 五八〇
【名義書換】	十錢 【新券交附】 五十錢







111 14.5-8/7

### 宮製鋼所

〔設立〕昭和十年十月  
〔決算期〕三月、九月

(本社) 東京市城東區南砂町六ノ四一 (電本所三三六)

〔二分減配〕去る三月末締切の本年上期決算では、豫想の如く二分減配を断行した。当期の利益金は百五萬九千圓で、前期に比べて五萬圓の減益だ。拂込資本の増加で利益率は更に低下して四割五分七厘となつた。業績低下とは云へ尚ほ一割三分配當は可能であつたが、將來の事態を見越しての善處策であつた。

〔増資・減配か〕去る四月一日最終拂込を徴収した。新計畫もあり倍額増資を豫定してゐるが、増資が實現すれば、利潤統制強化もあることゝして、その際一割配當まで引下げられよう。原料入手難の今日、當社と聯繫ある報國砂鐵製鍊の存在は強味だ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】新 500 (500)
【重役】社長 高橋 俊秀
常務 濱野 長松 取締役 萩原 善太
取締 千田 武彦 監査 高妻 秀三郎
神水 敏吉 千葉 三郎
【大株主】十四年九月期 五名
大株主 俊秀 3,000 大谷 米太郎 10,000
川島屋商店 8,000 濱野 長松 5,000
【事業成績】十三年下 十三年上 十三年下
売上高(千圓) 7,937 10,000 8,927
売上原價(千圓) 7,335 8,386 8,927
【工場】本社工場
【名義書換】十錢 〔新券交付〕五十錢

【資産負債】
株主資本 九十二年 三十四年 九十四年
外部負債 2,691 2,691 2,691
使用資産 2,691 2,691 2,691
流動資産 2,691 2,691 2,691
平均拂込 2,691 2,691 2,691
【業績】平均拂込 2,691 2,691 2,691
十三年下 2,691 十三年上 2,691 十三年下
十四年中 2,691 十五年中 2,691
【株價】(實物) 株 2,691 2,691 2,691
十四年中 2,691 十五年中 2,691
四月 2,691 五月 2,691

### 特殊製鋼

〔設立〕昭和四年六月  
〔決算期〕四月、十月

(本社) 東京市日本橋區通一丁目二ノ一 (電日本橋五四八四一六)

〔利潤統制と當社〕當社の製品は陸軍規格統用鋼をはじめとして、海軍造船機部品材、陸海軍用防衝鋼、航空機用構造部品材である。當社はかく純然たる軍需工場で、今回の利潤統制の影響を全面的に受ける譯だ。一割三分といふ現行高率配當は當然問題となる。加ふるに大戦の本格的擴大で特殊鋼原料が逼迫すれば、業績低下もまた避け難い。この點からも減配が豫想される。

〔配當一割〕陸軍の統制算式を以て推算すれば、適正配當率は一割となる。本年下期邊りまでに結局三分減配して一割配當となりさうだ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】新 100,000 (100,000)
【重役】社長 石原米太郎
常務 鈴木和志 取締役 渡邊 政人
取締 山下 英治 監査 松島喜市郎
清水 昇 竹内勝之助
【大株主】十四年十月期 八名
石原米太郎 7,000 鈴木和志 7,000
川崎共済會 2,000 定額會 2,600
【機械設備】十二年十月末現在 六基
蒸汽鍋其他 八基 プレス機 一基
【名義書換】二十錢 〔新券交付〕五十錢

【資産負債】
株主資本 十二年 十四年 十四年
外部負債 2,600 2,600 2,600
使用資産 2,600 2,600 2,600
流動資産 2,600 2,600 2,600
平均拂込 2,600 2,600 2,600
【業績】平均拂込 2,600 2,600 2,600
十三年下 2,600 十三年上 2,600 十三年下
十四年中 2,600 十五年中 2,600
【株價】(實物) 株 2,600 2,600 2,600
十四年中 2,600 十五年中 2,600
四月 2,600 五月 2,600

〔鐵鋼事業〕



【重 鋼 事業】

# 東 海 鋼 業

【設立】大正五年十二月  
【決算期】五月、十一月  
（本社）東京市麹町區丸ノ内一ノ二（電九ノ内一六八）  
（出張所）大阪市西區江之子島西町

【業績低下せん】當社は純然たる壓延會社だ。製品は鋼板、條鋼、軌條で所謂時局關係品を主とし、日鐵から鋼塊の供給を受けてゐる。だが輸入屑鐵の價格が昂騰し、それに最近の如く屑鐵不足が著しくなると、高能率重點主義は一層強化される。その結果は日鐵からの鋼塊供給も當然減る恐れがある。さうなれば當社も勢ひ操短を免れ得ない譯だ。問題の鐵鋼價格引上げは、大体實現必至と見られるが、コスト高による業績の低下も避け得ない。

【今後】當社は最近内容の充實に意を用ゐて来たとは云へ、鐵鋼業界は斯く不況だから、現行一割配當もそのまゝ樂觀は許されぬ。

【資本金】公稱 2,000 拂込 2,250	【株数】(株) 100,000	【重役】社長 田中榮八郎 取締役 伊藤九萬一 常務 白石元治郎 監査 長谷川太郎 岡崎久次郎 岡崎 良輔	【工場設備】工場 九州若松 加熱爐 壓延機 軋板機 加熱爐 軋板機 加熱爐 軋板機 加熱爐 軋板機
【資産負債】	【株主資本】	【業績】	【工場設備】
株主資本 1,200,000	外部負債 1,000,000	平均拂込 2,250	製鋼設備(鹽基性平爐、弧光式電氣爐、高周波電氣爐)
流動資産 1,200,000	固定資産 1,000,000	利金率 1.6%	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十四年中 1,200,000	十五年中 1,200,000	十四年中 1,200,000	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
五月 七五〇	五月 七五〇	五月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
七月 七五〇	七月 七五〇	七月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
九月 七五〇	九月 七五〇	九月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十一月 七五〇	十一月 七五〇	十一月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十二月 七五〇	十二月 七五〇	十二月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)

# 東 邦 鋼 業

【設立】昭和十三年十一月  
【決算期】五月、十一月  
（本社）東京市足立區沼田川端町（電駒込 三九六）

【世に出る】當社は安宅商會をバックとする新進鐵鋼會社で、舊鐵株式の一部が世に出たばかりだ。最初鐵鋼回收屑を原料に鐵鐵、進んで鋼材を生産すべく足立區下に工場を新設したが、鋼材加工方面も行ひ、製鐵事業法の許可會社の資格を得た。自家製鐵の外にスクラップ及び鉄鐵の供給を受け、良好なる成績を挙げてゐる。

【増配】六月一日新株に第二回拂込廿五圓づゝ、總額二百七十五萬圓を徵收した。上期は一分増の八分配當を行ふ見込だが、下期からは全設備稼働の筋合にあり収益を高めよう。たゞスクラップ手當難は避け難いので、某鐵鋼製會社との提携を企畫してゐる。

【資本金】公稱 2,000 拂込 1,920	【株数】(株) 110,000	【重役】社長 相川道之助 取締役 浪川貞次郎 常務 坂井田義任 監査 竹村久平 大庭 順次 相談 藤田 文一	【工場設備】製鋼設備(鹽基性平爐、弧光式電氣爐、高周波電氣爐)
【資産負債】	【株主資本】	【業績】	【工場設備】
株主資本 1,920,000	外部負債 1,000,000	平均拂込 1,920	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
流動資産 1,920,000	固定資産 1,000,000	利金率 1.6%	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十四年中 1,920,000	十五年中 1,920,000	十四年中 1,920,000	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
五月 七五〇	五月 七五〇	五月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
七月 七五〇	七月 七五〇	七月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
九月 七五〇	九月 七五〇	九月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十一月 七五〇	十一月 七五〇	十一月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十二月 七五〇	十二月 七五〇	十二月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)

【重 鋼 事業】

# 日 本 砂 鐵 鋼 業

【設立】昭和九年十二月  
【決算期】五月、十一月  
（本社）兵庫縣加古郡高砂町字向島（電高砂毛 七〇）  
（出張所）東京市麹町區丸ノ内九ビル（電丸之内 五〇七）

【拂込徵收】當社は七月一日第二回拂込として一株十二圓半、總額三百七十五萬圓を徵收することに決定した。この拂込金は、目下擴張中乃至新設中の工場建設費の一部に充當せられることになつてゐる。擴張工事は極めて大規模だから、殘る拂込の徵收も續々斷行されることにならう。

【前途】擴張工事に用ゐる物資は大體手當濟みとは雖も、その所要量は極めて大きいから、工事を進めて行くのは仲々容易ではあるまい。殊に八戸新工場の建設は大變だ。當分一割配當を續けるにしても、成績は今迄のやうな好調は期待出來なくなるだらう。

【資本金】公稱 2,000 拂込 2,250	【株数】(株) 100,000	【重役】社長 石崎長八郎 取締役 松尾 常務 佐々木義彦 監査 菊池武夫 若林秀雄 相談 津田信吾	【工場設備】工場 兵庫縣高砂 飾磨港
【資産負債】	【株主資本】	【業績】	【工場設備】
株主資本 1,200,000	外部負債 1,000,000	平均拂込 2,250	製鋼設備(鹽基性平爐、弧光式電氣爐、高周波電氣爐)
流動資産 1,200,000	固定資産 1,000,000	利金率 1.6%	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十四年中 1,200,000	十五年中 1,200,000	十四年中 1,200,000	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
五月 七五〇	五月 七五〇	五月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
七月 七五〇	七月 七五〇	七月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
九月 七五〇	九月 七五〇	九月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十一月 七五〇	十一月 七五〇	十一月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十二月 七五〇	十二月 七五〇	十二月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)

# 大 阪 特 殊 製 鋼

【設立】昭和十三年九月  
【決算期】四月、十月  
（本社）大阪市東區唐物町四ノ二九（電船場 三〇一）

【上期増配】當社は去る四月期決算に於いて一分増の八分配當を斷行した。成績は利益金三十四萬九千圓で、利益率は四割一分だ。この成績からみれば一分増配は極めて妥當な決算であつた。

【前途】特殊鋼界は配合元素と屑鐵の減少で安心ならぬ事態に當面してゐる。然し當社は優秀な性能を持つ木炭鉄の自給を行つてゐるし、配合元素も相當手持ちしてゐるから、まだ心配する所までは行つてゐない。愈々配合元素が不足して來れば、高炭素鋼の製造に轉換する強味を有してゐることは、少なからず前途の不安を緩和することに役立つ。

【資本金】公稱 2,000 拂込 2,250	【株数】(株) 100,000	【重役】専務 生悦任貞太郎 常務 加納博義 大洞鏡三 取締役 後藤一平 寺谷新一 三輪元次郎 監査 西本利政 平三郎 袴宇市之助 常務 西本利政 監査 奈良誠二 相談 北澤三郎	【工場設備】製鋼設備(鹽基性平爐、弧光式電氣爐、高周波電氣爐)
【資産負債】	【株主資本】	【業績】	【工場設備】
株主資本 1,920,000	外部負債 1,000,000	平均拂込 1,920	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
流動資産 1,920,000	固定資産 1,000,000	利金率 1.6%	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十四年中 1,920,000	十五年中 1,920,000	十四年中 1,920,000	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
五月 七五〇	五月 七五〇	五月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
七月 七五〇	七月 七五〇	七月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
九月 七五〇	九月 七五〇	九月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十一月 七五〇	十一月 七五〇	十一月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)
十二月 七五〇	十二月 七五〇	十二月 七五〇	鋼材製造設備(中厚板、中型、小型)



【鐵鋼事業】

### 小島電気製鋼

【設立】昭和七年一月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市日本橋區通一丁目四ノ三(電日本橋五七一六)

【利潤統制】特殊鋼の公價改定問題はどうかまだ判然しない。然し公價改定も大きな問題だが、原料不足の方が一層大きな問題だ。スクラップは不足するし、配合元素たるニッケル、バナヂウム、コバルト等も少い。斯うなつては相當の減産減益を覚悟せねばなるまい。然し此所に利潤統制の問題を考慮に入れる必要がある。陸軍の利潤統制の算式に依ると、當社は八分配當程度は行ひ得る計算となる。一割二分の現行配當は早晩引下げを免れないが、八分以下に陥ることもあるまい。最近増資が問題とされてゐるが、これが實現すれば減配もそれと共に行はれよう。増資額は二分の一と見られる。

【資本金】	拂込済	50,000	100,000
【株数】	(西) (〇)	100,000	100,000
【重役】			
社長	高田健三郎	取締役	大森 繁
専務	小島 嘉六	井上 米三郎	井上 清祐
常務	小島 嘉七郎	井上 米三郎	井上 清祐
常務	吉田 和夫	井上 米三郎	井上 清祐
常務	陶山 繁雄	井上 米三郎	井上 清祐
【大株主】	十五年十一月期	交名	交名
小島 嘉六	15,000	山一證券	4,000
新榮産業	10,000	仁壽生命	3,000
【事業規模】	高崎工場(鑄鋼) 平塚工場(製鋼、車輪) 浦田工場(鑄鋼) 平塚工場(製鋼、車輪) 浦田工場(製鋼)		
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

【資本金】	公稱	100,000	拂込	75,000
【株数】	新(西) (〇)	100,000	100,000	
【重役】				
社長	田中 徳松	取締役	福田 次郎	東代清太郎
専務	小森 高作	監査	古家 拓治	古家 拓治
常務	打浪 吉朝	監査	古家 拓治	古家 拓治
【大株主】	十五年三月期	交名	交名	交名
田中 徳松	15,000	東代清太郎	4,000	4,000
【事業規模】	亞鉛鍍加工及帶鐵の製造販賣			
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

### 日亞製鋼

【設立】大正七年三月  
【決算期】三月、九月

(本社) 兵庫縣武庫郡大庄村中瀬新田字南西ノ切(電福島盛三)

【建設】當社は目下輕軌條工場の建設を急いで居る。資材關係の自由さから工事は捗々しくないが、年末迄には完成を見よう。此の資金を賄ふため五月一日新株の第二回拂込を徴収した。完成までは第三回拂込も必要だが、年内には實現困難かも知れぬ。

【業績】鋼鐵の獲得難から、平爐會社の今後は多分の懸念をもたれるが、當社は鋼塊を擧げて特殊需要に向けて居るから、優遇を受け得る立場にある。一方帶鐵、亞鉛鍍、釘、針金等の輸出も可なり活況を來して居るから、業績は當面心配ないが、配當制限、利潤統制等の建前から、結局一割配當に落さねばなるまい。

【資本金】	公稱	100,000	拂込	75,000
【株数】	新(西) (〇)	100,000	100,000	
【重役】				
社長	田中 徳松	取締役	福田 次郎	東代清太郎
専務	小森 高作	監査	古家 拓治	古家 拓治
常務	打浪 吉朝	監査	古家 拓治	古家 拓治
【大株主】	十五年三月期	交名	交名	交名
田中 徳松	15,000	東代清太郎	4,000	4,000
【事業規模】	亞鉛鍍加工及帶鐵の製造販賣			
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

### 昭和特殊製鋼

【設立】昭和十二年三月  
【決算期】五月、十一月

(本店) 横濱市鶴見區生麥町神明前二〇三六(電鶴見三三三)

【増資停滯】かねてより計畫中の倍額増資は、一向に許可が下りぬので、未だ實現を見ない。建設資材、原材料不足の折柄、特殊鋼生産にも重點主義が行はれ、當社の如き新進會社は自然優遇されぬのである。従つて餘裕が生ずれば、増資も許可されることと思ふが、當分は悲觀的である。

【業績】昨年下半年は拂込急増の爲、業績は低下した。五月份は期央に電力不足があり、能率は低下したが、プレス工場の運轉が開始され、又拂込が増加してゐないから、前期並みの利益率は擧げうる見込みである。

【資本金】	拂込済	80,000	100,000
【株数】	(西) (〇)	80,000	100,000
【重役】			
會長	棚橋實五郎	取締役	根本富士雄
専務	佐野 隆一	大塚 忠治	佐野 隆一
常務	石川 重紀	佐野 隆一	佐野 隆一
常務	西脇 清三郎	廣田 傳一	廣田 傳一
常務	近藤 賢一	廣田 傳一	廣田 傳一
【大株主】	十四年十一月期	交名	交名
日本キヤンセル	20,000	佐野隆一	10,000
棚橋實五郎	10,000	住友生命	10,000
【工場】	横濱市鶴見區生麥町		
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

【資本金】	公稱	100,000	拂込	75,000
【株数】	新(西) (〇)	100,000	100,000	
【重役】				
會長	山本 東作	取締役	藤田 勘兵衛	藤田 勘兵衛
専務	山本 弘之	監査	山本 愛蔵	山本 愛蔵
常務	山本 弘之	監査	山本 愛蔵	山本 愛蔵
常務	吉川 誠藏	監査	山之内 赴	山之内 赴
【大株主】	十五年三月期	交名	交名	交名
山本 東作	15,000	山本商店	4,000	4,000
山本 弘之	10,000	住友生命	10,000	10,000
【事業規模】	ヘアリング鋼材及各種特殊鋼の製造販賣			
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

### 山陽製鋼

【設立】昭和九年十二月  
【決算期】三月、九月

(本社) 大阪市西區立賣場北通二丁目三番地

【増資期待】當社はヘアリング鋼材メーカーとして一般水準を抜く優秀會社である。當局の増産命令により、既に第一期擴張を了し、引續き第二期擴張に着手した。建設資金は概算三百五十萬圓の豫定だ。之は株金で賄ふことになつてをり、近く倍額増資の氣運にあるのも、その爲めである。

【前途】ヘアリング鋼材の需要は頗る旺盛である。従つて増産完成の曉には、収益力の向上は必至であるが、配合元素乃至層鐵の窮乏化は、相當業績向上を阻むことになる。それにしても當社の収益力は比較的高いから、一割配當は續けられる。

【資本金】	公稱	100,000	拂込	75,000
【株数】	新(西) (〇)	100,000	100,000	
【重役】				
會長	山本 東作	取締役	藤田 勘兵衛	藤田 勘兵衛
専務	山本 弘之	監査	山本 愛蔵	山本 愛蔵
常務	山本 弘之	監査	山本 愛蔵	山本 愛蔵
常務	吉川 誠藏	監査	山之内 赴	山之内 赴
【大株主】	十五年三月期	交名	交名	交名
山本 東作	15,000	山本商店	4,000	4,000
山本 弘之	10,000	住友生命	10,000	10,000
【事業規模】	ヘアリング鋼材及各種特殊鋼の製造販賣			
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢	

【鐵鋼事業】



【鐵鋼事業】

### 東京製鐵

【設立】昭和九年  
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市麹町區三ノ二(電丸ノ内三〇七)

【利潤統制の影響】當社の利益の半ば近くは自社の木炭銑を原料とする特殊鋼によつて收められてゐると見てよい。この特殊鋼のうちどれ位が軍部に納入せられ、従つて利潤統制の影響を蒙るかは詳でないが、多少響くことは免れまい。

【一割配當持續か】併し今下期からは大沼製鐵所の×十×融爐一基が運轉し、木炭銑を出すことになる。それだけ未動資産が業績に寄與して来る譯だ。火入れ早々から充分な成績は期待し得ないが買収した平電氣鋼所の寄與もある。薄板輸出には問題もあるが、一割配當は持續可能であらう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株主数】新(五〇) 古(三〇) 計(八〇)
【重役】社長 岩崎 清七 専務 南 俊二 取締役 安宅 武 取締役 高橋 彦二 監査 河端 政吉 大谷 米太郎 古賀 春一	【役員】
【大株主】十四年十一月期 三三〇名 新株主 10,000 南 景樹 3,000 山中 淳三 1,000 大谷 米太郎 5,000 南 合 名 八,000 大谷 米太郎 5,000	【事業規模】特殊鋼製鐵工場、炭素鋼、ニッケル鋼、マンガン鋼、クロム鋼
【投資会社】大阪造船所、クローム鋼	【名義書換】二十錢【新券交付】五十錢
【資産負債】	【事業計画】
株主資本 1,000,000 外部負債 1,000,000 使用総資本 2,000,000 固定資産 1,000,000 流動資産 1,000,000	第一期所要資金 概算 2,000,000 第二期所要資金 概算 2,000,000
【業績】平均損益 利益率	【株價】(實物) 高値 安値
十四年上 三三〇 利益率 三三・〇	十四年上 三三〇 利益率 三三・〇
十四年下 三三〇 利益率 三三・〇	十四年下 三三〇 利益率 三三・〇
十五年上 三三〇 利益率 三三・〇	十五年上 三三〇 利益率 三三・〇
十五年下 三三〇 利益率 三三・〇	十五年下 三三〇 利益率 三三・〇
十五年 三三〇 利益率 三三・〇	十五年 三三〇 利益率 三三・〇

### 滿洲鑄物

【設立】昭和十二年十月  
【決算期】一月、七月

(本社) 奉天市大和區東街五段第一〇五號  
(支社) 東京市麹町區有樂町一ノ二東日會館(電丸五九六)

【成績良好】去る一ヶ月の成績は利益金三十六萬六千圓で、利益率は三割六分六厘であつた。配當は一割五分を据置いたが、この限り決算は決して窮乏とは云へぬ。

【前途】新工場は着々と進行してをり、九月頃までには大體第一期工事が完成し、年末迄には本格的運轉を始める筈だから、さうなれば成績は更に向上しよう。尤も當社は近く拂込をとり、更に増資の筋合にあるから、資本の膨脹も急である。故に利益率は思ふやうに向上しないかも知れないが、それにしても一割五分配當は續けられやう。尤も増資すれば或は多少の減配を行ふことになるだらう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株主数】新(三〇) 古(一〇) 計(四〇)
【重役】社長 根本 富士男 取締役 道下 靜雄 専務 根本 富士男 取締役 佐野 隆雄 取締役 松岡 清一 監査 山本 盛太郎 大谷 米太郎 古賀 春一	【役員】
【大株主】十四年七月期 三三〇名 新株主 10,000 根本 富士男 3,000 日本工 命 六,000 田中 富士男 5,000 大阪商店 命 六,000 田中 富士男 5,000	【事業規模】鑄物、鍛造、工作機械及
【投資会社】可鍛鑄鐵、工作機械及	【名義書換】十錢【新券交付】三十錢
【資産負債】	【事業計画】
株主資本 1,000,000 外部負債 1,000,000 使用総資本 2,000,000 固定資産 1,000,000 流動資産 1,000,000	第一期所要資金 概算 2,000,000 第二期所要資金 概算 2,000,000
【業績】平均損益 利益率	【株價】(實物) 高値 安値
十四年上 三三〇 利益率 三三・〇	十四年上 三三〇 利益率 三三・〇
十四年下 三三〇 利益率 三三・〇	十四年下 三三〇 利益率 三三・〇
十五年上 三三〇 利益率 三三・〇	十五年上 三三〇 利益率 三三・〇
十五年下 三三〇 利益率 三三・〇	十五年下 三三〇 利益率 三三・〇
十五年 三三〇 利益率 三三・〇	十五年 三三〇 利益率 三三・〇

【金屬工業】

### 住友金屬工業株式會社

(本社) 大阪市此花區島屋町三七(電土佐堀五七七)

【拂込機運】當社は去る四月一日新株の第二回拂込として總額二千五百萬圓を徴収したが、擴充計畫の進展から、更に第三回拂込も案外遠いことではないと想像される。年内に斷行されることは殆んど間違のないところであらう。

【建設】擴充計畫は兵庫縣下の神崎及び名古屋に於て行はれて居る。兩工場の製品種目は時局柄詳細にし得ないが、時局關係のものであることに變りはない。工場規模は兩者共頗る大なるものである。一方當社は過般和歌山市の郊外に廣大な土地を手當した模様で、此處に新規の擴充計畫を斷行する肚の如くだ。斯様なわけだから、當社の資金需要は當面頻繁である筈だ。

【強味】古い歴史、優れた技術、住友財閥と云ふ大きな背景一かうした強味を有するのであつて見れば、當社が重點主義の圈内にあり而も筆頭の部類に屬するものと云つてよい。従つて原材料の配給その他に於て優遇を受け得ることは確實だ。

【横道か】然し原材料の逼迫は當社に於ても影響を蒙る筈だし、一方利潤統制も亦響かざるを得ない。反面擴充の進捗に伴ふ増産の利益も莫大だから、當面の業績は無論悪い筈はなく、従つて現配當も無論維持可能だが、それにしても横道の感は覆へない。

【設立】大正十五年七月	【決算期】三月、九月
【事業】伸銅、亜鉛、銅管、鑄鋼品、鐵鋼品、壓延品、特殊兵器	【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】新(五〇) 古(三〇) 計(八〇)	【重役】
【大株主】十四年上 三三〇名 十四年下 三三〇名 十五年上 三三〇名 十五年下 三三〇名 十五年 三三〇名	【役員】
【事業規模】	【事業計画】
伸銅所 大阪此花區島屋町五六一 製鋼所 大阪此花區島屋町二四八 製鋼所 大阪市東區西之町二九 製鋼所 熱間冷間社上鋼製鋼管類 製鋼所 熱間冷間社上鋼製鋼管類	【資産負債】
【業績】平均損益 利益率	【株價】(實物) 高値 安値
十四年上 三三〇 利益率 三三・〇	十四年上 三三〇 利益率 三三・〇
十四年下 三三〇 利益率 三三・〇	十四年下 三三〇 利益率 三三・〇
十五年上 三三〇 利益率 三三・〇	十五年上 三三〇 利益率 三三・〇
十五年下 三三〇 利益率 三三・〇	十五年下 三三〇 利益率 三三・〇
十五年 三三〇 利益率 三三・〇	十五年 三三〇 利益率 三三・〇











【金屬工業】

### 日本輕金屬

【設立】昭和十四年三月  
【決算期】五月、十一月  
（本社）東京市芝區田村町一ノ一東電ビル（電銀座三〇）

【一部操業期】愈々一部の操業開始期が近づいたと言はれてゐるが七月の豫定期は更に繰延べられ、早くとも八月以後とならう。而もこれは蒲原工場に於る電解部の一部操業であつて、所要アルミナは既設會社のものに依存する外はない。豫定の建設を終へ、一貫作業の開始となるのは來年下期以後のことであらう。

【工場完成期】政府の特別扱に依つて建設資材の五割乃至七割を先取してゐるが、それらで尙資材は不足し工場建設は豫定の如くに運ばない。蒲原工場は今夏七月、清水アルミナ工場は年内、新瀉工場は明春に夫々操業開始の豫定だが恐らく更に遅れることにならう。

【資本金】公稱100,000 拂込55,000

【株数】(株) 10,000

【重役】社長 小林一三 副社長 中川末吉 田邊七六 常務 上島清藏 山田宏太郎 取締役 岡部榮一 新井彰治 橋本枝 西田傳五郎 山下太一郎 村千太郎 田中良雄 山下太一郎 監査 杉本五十鈴 萩原泰吉 大澤佳郎 鈴木與平 大河原榮之助

【大株主】東電證券五三、六古河電工五〇、〇〇〇 多買富藏三〇、〇〇〇 山下太郎三〇、〇〇〇

【收支計算】収入 支出 利益 配當率

【名義書換】二十錢【新券交付】五十錢

【起業費要項】發送電設備費 100,000

各種工場建設費 100,000

附屬建築家及諸設備費 50,000

特許及設計費並運送費及試作費 30,000

建設準備費並流動資金 100,000

【事業規模】製法 パイヤ法（熱式法）

年産能力 アルミニウム 100,000

原料 ビンタン 島ボークーサイト

【株價】(買物) 高値 安値

十四年中 六・九 二・九

十五年 三・三 一・八

四月 三・四 三・一

五月 三・四 三・一

### 朝鮮理研金屬

【設立】昭和十三年九月  
【決算期】六月、十二月  
（本社）朝鮮嶺南浦三和町三（電嶺南浦七五）  
（出張所）東京市京橋區銀座二ノ二（電京橋六三）

【粗製アルミ販賣】當社は嶺南浦でアルミとマグネを、仁川で鐵鋼をそれぞれ生産するものだが、アルミの第一次工場は既に運轉中で、精製工場、電氣工場も遅くとも來春迄には完成する。だが、アルミの増産が急がれるため、當面アルミナのみ、他社に販賣することを認通されてゐる。尙、マグネ工場は明春操業の段取にあり、仁川の鐵鋼工場は理研鋼材と同様ロータリーキルンで目下試運轉中である。

【初配當五分期待】今期決算は六月末締切だが、アルミナの販賣益に有價證券賣却益と配當収入が加算され、利益金約三十萬圓が擧げられる。この利益率は八分に當り、初配當五分が期待される。

【資本金】公稱150,000 拂込75,000

【株数】(株) 10,000

【重役】會長 大河内正敏 取締役 島村 收三 加藤平太郎 常務 田中 寛 監査 明石 徳一 河村 運藏 大塚 萬丈 河村 運藏

【大株主】十四年十一月期 理研金屬 100,000 富國工業 50,000 理研精米 50,000 理研重工業 50,000 理研研究所 50,000 理研重工業 50,000

【工場及製法】仁川工場 鐵鋼 嶺南浦工場 アルミナ、マグネシウム

【名義書換】二十錢【新券交付】五十錢

【事業豫算】嶺南浦工場購入費 150,000

工場建設費 100,000

關係特許實施設備費 50,000

豫備金 運轉資金 30,000

其他共計 10,000

【收支計算】収入 支出 利益金

十四年中 平均拂込 利益金 未配

十四年上 七、五〇〇 三、〇〇〇

十四年下 七、五〇〇 三、〇〇〇

【株價】(買物) 高値 安値

十四年中 元・三 二・三

十四年上 元・五 二・五

十四年下 元・五 二・五

五月 元・五 二・五

【金屬工業】

### 日本ニッケル株式會社

（本社）東京市日本橋區吳服橋三ノ七電日本橋吳六一九

【増資と減配】倍額増資に決定した。現在資本金一千五百萬圓を三千萬圓とするのである。この増資新株三十萬株は、六月二十五日現在の株主に對して一對一の割合で割當てられ、八月一日を期して一株十二圓半の第一回拂込が徴收される。けれども、この倍額増資を機會に二分の減配をやらねばならぬ。畢竟するに、減配を條件に倍額増資が許されたのだ。その減配期は來る十月期からだ。この事態から見て、いかに時局下に重要不可欠の役割を受けつつ當社でも利潤統制の本流から逃れ去る術はなかつた事が看取される。

【擴張本格化】増資は擴張本格化のためである。資金用途の内容は選鑛設備の擴張費九百萬圓、餘熱利用の自家發電所建設費四百萬圓、新鑛區買収費百萬圓、豫備金百萬圓であるが、その中心をなすものは選鑛設備の大擴張である。技術的前進に依つて鑛石品位を一舉二倍に引上げる事に成功したので、選鑛方法を改め總ての設備をこれに適合せしめんとするのが増資の目的である。同時に懸案となつてゐる四國の新鑛區開發にも手を染める順序であらう。

【上期成績】四月締切の本年上期は利益金百四十五萬三千圓を擧げ、利益率二割二分の成績で一割配當の据置だつた。併し、これが最後で次期からは八分の配當となるが、其の持続性は確かである。

【設立】昭和十一年十一月

【決算期】四月、十月

【事業】鑛物の採掘及製鍊、ニッケル及ニッケル合金及其副成物並ニッケル鋼其他特殊の製造加工及販賣

【資本金】公稱1,500,000 拂込1,500,000

【株数】(株) 100,000

【重役】社長 芝辻 正晴 取締役 杉本好太郎 常務 高津 奈良 監査 橋本 久吉 宮崎 五夫 相談 淺野 桂之助 取締 渡邊昇太郎 相談 淺野 八郎

【株主数】十四年上 十四年下 十五年上 總数(名) 一、八六八 二、四三九 二、七三三

【大株主】日本ニッケル 1,000,000 高津 合名 100,000 芝辻 正晴 100,000 山二 株式 80,000 渡邊昇太郎 60,000 石川 朝英 50,000 松本 睦男 30,000 新田伸太郎 20,000

【事業規模】製鍊所及製鋼所 鬼石製鍊所 群馬縣多野郡鬼石町 若泉製鍊所 若泉村 鑛區面積………六、〇〇〇千坪 主要製品純ニッケル、含ニッケル鐵鐵 含ニッケル特殊鋼

【事業成績】十四年上 十四年下 十五年上 賣上益(千圓) 八八 一一・一 一、八四七

【資本増助】十三年五月日本スチール合 併五〇〇萬圓増資、八月七圓拂込徴收 十四年一月二〇圓拂込徴收七月三〇圓(最終) 拂込徴收、九月日本ニッケル鐵業合併五 百萬圓増資、十五年一月萬ニッケル鐵業 の新増資(最終) 拂込徴收

【資産負債】

株主資本	十四年	十四年	十五年
積立金	六、九六	三、〇〇	一、七〇
外部負債	八、四九	八、一〇	九、七〇
借入金	三、〇〇	一、〇〇	一、七〇
支拂手形	三、二七	一、〇〇	一、七〇
使用總資本	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
固定資産	六、〇九	九、〇〇	一、〇〇
流動資産	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
現金預金	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
【收支勘定】			
収入	十四年上	十四年下	十五年上
支出	八、三三	一、二一	一、七〇
利益	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
【比率】			
固定比率	十四年上	十四年下	十五年上
流動比率	一、三三	一、三三	一、三三
負債比率	八、二七	一、二一	一、七〇
【業績】			
平均拂込	十四年上	十四年下	十五年上
利益率	一、三三	一、三三	一、三三
【株價】(買物) 高値 安値			
十四年中	六・五	一・八	一・八
十四年上	六・五	一・八	一・八
十四年下	六・五	一・八	一・八
五月	六・五	一・八	一・八
【名義書換】二十錢【新券交付】五十錢			







【金業】

### 帝國産金興業株式会社

(本社) 東京市京橋區銀座八ノ一 (電銀座八八・六八〇)

【前途の見透しつく】 當社の内紛は營業方面にも相當影響を與へ、業績は芳しいものとはなり得なかつたが新重役陣の編成も終り三、四月頃より、漸く前途に對する見透しも建て得られる状態となつた。産金高も徐々ながら増加の傾向を辿つてゐる。この分で行けば、當社の今後も一概に悲觀するに當るまい。七月末を以て締切る今期の利益は大體百萬圓程度が豫想されるから、昨下期と略同様で、樂ではないが兎に角八分配當は出來よう。

【新抱負】 當社は最近新精鍊法を應用し、産金量の増加を計らんとする計畫を持つてゐる。それは従來の青化精鍊とは著しく趣を異にするもので、其の能率は相當高いものらしい。當局者は詳細な説明を避けてゐるが、建設資金三、四百萬圓を要するものらしい。現在の設備の改善に依つても或程度能率を高め得るのだが、これを改造すれば、其の期間設備が遊び自然現行八分配當を維持する利益が出なくなるので、舊設備はそのまま、使用して行く外ない。

【今後】 今後はどうなるか、新設備が出來れば業績は見直すかも知れぬが、急なことは行かぬ。株主から拂込を徴収して設備費を調達する事も出來ないから、結局借入に依ることにならうが、八分以上の配當を期待することは無理である。

### 日本産金振興

【設立】 昭和十三年九月  
【決算期】 六月、十二月

(本社) 東京市京橋區京橋三ノ二 (電京橋六六・一六)  
(支社) 京城市府竹添町一ノ九〇

【拂込徴收】 當社は七月一日に未拂込株金中、一千萬圓 (政府民間ともに一株十圓宛) を徴收することに決した。これにより政府からの借入金返済が行はれる善だ。

【十二月期決算】 昨年十二月期決算を見ると、利益金は前期と同額の二十二萬二千圓で、民間株主に四分配當を繼續した。當社はもともと採算を或る程度無視した國策會社故、収益の好轉は突速望めぬ。【金融から産金直營へ】 貸付残高は十二月期末に一億五十萬圓と前年同期に比し約三倍の膨脹だが、事業の重心は今後漸次金融部門から産金直營(金鑛業、製鍊業)、資材供給部門に向ふ模様である。

【資本金】 公稱 50,000,000 拂込 20,000,000

【株数】 政府 10,000,000 民間 10,000,000

【重役】 社長 田島 道治 理事 阿部 千一  
副社長 草間 秀雄 理事 村上 仲雄  
理事 高橋 周三 監事 武藤 盛雄  
理事 松本 彬 外山 知三

【大株主】 十四年十一月期 3,000,000 株  
大蔵大臣 50,000,000 株  
三井物産 10,000,000 株  
三井物産 10,000,000 株  
三井物産 10,000,000 株

【事業成績】 十四年十一月期 1,000,000 円  
内地貸付(千圓) 2,000,000 円  
朝鮮貸付(千圓) 2,000,000 円  
朝鮮貸付(千圓) 2,000,000 円  
朝鮮貸付(千圓) 2,000,000 円

【名義書換】 十錢 【新券交付】 五十錢

【資産負債】 十二年 十四年 十四年

株主資本 10,000,000 10,000,000 10,000,000

外部負債 10,000,000 10,000,000 10,000,000

流動資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000

流動負債 10,000,000 10,000,000 10,000,000

平均株金 10,000 10,000 10,000

平均利益 10,000 10,000 10,000

平均配當 10,000 10,000 10,000

平均配當率 10% 10% 10%

平均配當率 10% 10% 10%

平均配當率 10% 10% 10%

【金業】

【設立】 昭和九年一月

【決算期】 一月、七月

(本社) 東京市京橋區銀座八ノ一 (電銀座八八・六八〇)

【重役】 社長 長 延 連 取締役 上田源三郎  
常務 石川 博 監査 伊藤長次郎  
取締役 宮口 博 監査 田中 右橋  
取締役 遠藤 莊次郎 監査 松森 正之  
取締役 三宅 當時 監査 平兵衛

【株主数】 五年九 十四年七 十五年一  
總数(名) 二九三 三〇七 四一六

【大株主】 大阪商事 三、三三三 石川博資 八、〇〇〇  
石井駒次郎 三、〇〇〇 村谷久治郎 六、八〇〇  
上田源三郎 六、〇〇〇 中野剛正 三、八〇〇  
大日本麥酒 四、〇〇〇 中野剛正 三、八〇〇

【事業規模】 大仁鑛業所 金、銀、銅、硫化鐵  
北王鑛業所 金、銀、銅、水銀、砂金、銅  
北海道石狩、奈良縣大町 水銀、砂金、銅  
北海道石狩、大阪府庄内 水銀、砂金、銅  
北王鑛業所 四、三〇〇(千坪)  
北王鑛業所 三、三〇〇(千坪)  
北王鑛業所 三、三〇〇(千坪)  
北王鑛業所 三、三〇〇(千坪)  
北王鑛業所 三、三〇〇(千坪)

【資本興動】 昭和十三年三月千圓増資、  
第一回、十二月各三圓拂込徴收

【資産負債】 十二年 十四年 十五年

株主資本 10,000,000 10,000,000 10,000,000

外部負債 10,000,000 10,000,000 10,000,000

流動資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000

流動負債 10,000,000 10,000,000 10,000,000

平均株金 10,000 10,000 10,000

平均利益 10,000 10,000 10,000

平均配當 10,000 10,000 10,000

平均配當率 10% 10% 10%

平均配當率 10% 10% 10%

平均配當率 10% 10% 10%

### 朝鮮理研鑛業

【設立】 昭和十四年四月  
【決算期】 一月、七月

(本社) 朝鮮平壤府南町三七  
(出張所) 東京市京橋區銀座二ノ二 都ビル 電京橋六三・二五

【産金事業緒に就く】 前報に報じた如く、當社は新採掘法により、砂金事業に乘出した會社だが、その方法が獨特であり、鑛區も優良なので、産金國策の立場から總督府の支持も強く、將來有望視される。目下事業の建設を進めてゐるのは木浦附近の海中鑛區だがこの中押海島鑛區は干拓及び採金設備を完了し、この四月より本格的採掘に入つた。七月期は十五萬圓程度の利益を計上、一分増配の八分配當を行ふ模様だ。來年一月期以降は利益は倍増する筈。

【四倍増資か】 更に木浦鑛區の全面的採取を計畫してゐるので、今年中には四倍程度の増資を行ふ豫定だ。

【資本金】 公稱 50,000,000 拂込 20,000,000

【株数】 政府 10,000,000 民間 10,000,000

【重役】 社長 大河内正敏 取締役 島村 貞三  
副社長 林邊賢一郎 監査 伊藤 貞敏  
取締役 伊藤 孝三 監査 海野 信成  
取締役 大川 又三郎 監査 荒木 幸保  
取締役 矢部 又吉 監査 西川 彌牛治

【大株主】 十五年一月期 7,500,000 株  
富國 工業 七、九〇〇 株  
平山 源兒 一、〇〇〇 株  
花木 松太郎 一、〇〇〇 株

【事業成績】 十五年一月期 1,000,000 円  
朝鮮理研鑛業 1,000,000 円  
朝鮮理研鑛業 1,000,000 円  
朝鮮理研鑛業 1,000,000 円

【名義書換】 十錢 【新券交付】 五十錢

【資産負債】 十四年 十五年

株主資本 10,000,000 10,000,000

外部負債 10,000,000 10,000,000

流動資産 10,000,000 10,000,000

流動負債 10,000,000 10,000,000

平均株金 10,000 10,000

平均利益 10,000 10,000

平均配當 10,000 10,000

平均配當率 10% 10%

平均配當率 10% 10%

平均配當率 10% 10%

【金業】















# 北海道炭礦汽船株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内一ノ二(電丸ノ内三七八)

【増産確實】當社は茲二、三期は増産どころか逆に減産の傾向を辿つて來た。資材や勞力の不足に加ふるに炭價抑制の重壓を蒙つたからである。併し本年上期は此の減産傾向も喰ひとめられ、再び増産が期待される状態になつた。これは政府が重點主義に則つて資材勞力を大炭礦會社に振向け來たからであるが、それと共に當社の新礦區が漸やく稼行期に入つて來た爲めである。即ち早くから開採に着手してゐた平和坑と赤間坑の兩新坑の稼行がそれである。加ふるに昨年爆發事故を起した夕張坑も完全に回復してゐる。恐らく前期に比し一割四、五分の増産は確實と見られてゐる。

【配當問題】前期は普通配當九分の外に一分の特配を行つた。この特配は創立五十周年紀念の爲めであつた。本年上期の業績は前期より好いと思ふから、特配を普通配當に引直すことは可能であるが、ただ時局柄遠慮して九分とするであらう。そうした方が時局柄穩當な配當政策と思はれる。

【拂込期待】當社の増産計畫は今後も續く。右新坑の増産を始め、大規模な小平炭の開發がある。これ等の開發資金として一千五百萬圓の認可を得てゐる。この資金は一時借入金によつて賄はれようが、結局未拂込の徴収に俟つ外ない。

# 東邦炭礦株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内二丁目一八昭和ビル内(電丸ノ内三九七)

【炭價是正さる】懸案であつた當社九州炭の値上げは、去る四月中旬商工省によつて正式認可され、四月一日に遡つてこれを適用することになつた。適當り値上額は平均一圓七十錢だから、昨年夏頃、一度引上げられた趣九十錢と合すると、合計二圓六十錢の値上げとなり、謂ふ所の互助會並みの炭價に引上げられたわけだ。

【増益の程度は】ところで、この一圓七十錢の炭價是正によつて當社はどの位好影響を受けるかと云ふと、値上げの對象となつた九州炭は、北海道彌生礦を含めた當社全出炭の約七割に達するので、これによる利益増加は大抵年百五十萬圓と見られる。半期にして七十數萬圓だが、これは償却前の昨年十一月期利益金百十四萬一千圓に對し、六割七、八分の増益歩合に當る。然し當社九州炭は目下子會社の名儀で採掘してをり、更に最近に於ける著しいコスト高もあるので、右の利益その儘増益となつては現れぬ。だが子會社と云つても全株を當社所有する子會社だから、結局コスト高を差引いた値上げ分だけは當社の増益に寄與することゝなる。

【安定點】差當り五ヶ月は値上の恩恵を二ヶ月しか受けぬので、前期より成績は向上せぬ。記者は依然尠くも一分減の七分配當を主張する。七分なら下期以降は利益率も急向上しようから安定化する。

【設立】	明治二十二年十一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	石炭採掘販賣並同清業
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	新 1,100 名 舊 1,100 名 優先 1,100 名
【重役】	専務 島田勝之助 取締役 日比谷平左衛門 専務 三國庄三郎 取締役 古谷金一郎 専務 藤井七郎 取締役 長屋三郎 常務 加藤徳吉 監査 川島三郎 常務 赤野禮助 監査 横山友範 常務 禮助 監査 松岡勝民
【株主数】	十三年下 十四年上 十四年下
【大株主】	三井物産 2,000,000 井田山 3,000,000 三井信託 1,000,000 三井生命 3,000,000 三井生命 1,000,000 明治生命 1,000,000 和角田 萬字、登川、眞谷地、空知、幌内、機春別、赤間、探掘礦區 1,000,000
【事業成績】	(單位 1,000) 十二年十一月現在 採炭高 1,823 販賣高 1,848 投資會社 日本製鋼所、夕張鐵道、共立汽船、室蘭電燈、輪西鐵山
【資本異動】	十三年九月 圓拂込徴收 十三年六月新第六回 圓(最終)拂込徴收 十四年一月 七千萬圓増資第一回 三圓五拂込徴收

【設立】	大正八年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	石炭採掘
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	新 1,100 名 舊 1,100 名
【重役】	社長 赤司初太郎 取締役 足立盛夫 取締役 岡村左右松 監査 後宮信太郎 中島光五郎 監査 金澤冬三郎 加島安太郎 監査 太田清藏
【大株主】	大日本製糖 1,000,000 日本生命 1,000,000 大島喜代治 1,000,000 赤司初太郎 1,000,000 鐘淵紡績 1,000,000 竹村棉業 1,000,000 後宮信太郎 1,000,000
【事業規模】	事業地 北海道空知郡 蘆屋、北見、空知郡 蘆屋、北見、空知郡 蘆屋、北見、空知郡
【事業成績】	(單位 1,000) 十二年下期現在 出炭高 2,000 販賣高 2,000
【投資會社】	深坂炭礦、雨瀧炭礦、楠形炭礦
【資本異動】	十三年四月 倍額増資第一回 三圓五拂込徴收、新東邦、大谷炭礦を合併 十三年二月 三圓五(最終)拂込徴收、十一年 倍額増資第一回 三圓五拂込徴收

【資産負債】	十二月中 五十四年 十四年 株主資本 1,000,000 1,000,000 1,000,000 外債 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 固定資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支動定】	十三年下 十四年上 十四年下 収入 1,000,000 1,000,000 1,000,000 支出 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【構成比率】	十三年下 十四年上 十四年下 流動比率 100% 100% 100% 固定比率 100% 100% 100%
【業績】	十三年下 十四年上 十四年下 採炭高 1,823 2,000 2,000 採炭高 1,823 2,000 2,000
【株價】	十三年下 十四年上 十四年下 株價 100 100 100
【名義書換】	十三年下 十四年上 十四年下 名義書換 100 100 100

【資産負債】	十三年下 十四年上 十四年下 株主資本 1,000,000 1,000,000 1,000,000 外債 1,000,000 1,000,000 1,000,000 流動資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000 固定資産 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支動定】	十三年下 十四年上 十四年下 収入 1,000,000 1,000,000 1,000,000 支出 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【構成比率】	十三年下 十四年上 十四年下 流動比率 100% 100% 100% 固定比率 100% 100% 100%
【業績】	十三年下 十四年上 十四年下 採炭高 1,823 2,000 2,000 採炭高 1,823 2,000 2,000
【株價】	十三年下 十四年上 十四年下 株價 100 100 100
【名義書換】	十三年下 十四年上 十四年下 名義書換 100 100 100



〔石炭礦業〕

### 磐城炭礦

〔設立〕 明治二十六年十二月  
〔決算期〕 五月、十一月  
〔本社〕 東京市麹町區丸の内一ノ六ノ一 (電九ノ内六〇一三)  
〔礦業所〕 福島縣石城郡内郷村

〔八分は疑問〕 當社は昨下半年は遂に二分減配をした。資材、勞力の不足、コスト増嵩、増産停頓等の重壓を蒙つたからである。政府重點主義の下に石炭の増産對策を計つてゐるが、この重壓から仲々脱しきれない。その上昨年十一月長倉本坑の出水事故の爲め、本年上半年は減益を免がれない。問題は配當だが、八分配當を維持するかも知れぬか、併し減配を見込んでおいた方が安全である。當社は目下小名濱坑の開發に力を注いでゐるが、年内には着炭の見込だから、出炭高も増加しやう。本格的に立直るとすればそれから先であらう。

〔資本金〕	公稱 二五〇〇〇 拂込 二七、八〇〇	〔資産負債〕	十二月 三十四年
〔株數〕	新(三三) 三三、〇〇〇	株主資本	八、〇〇〇
〔重役〕	社長 淺野總一郎	外部負債	三、七六二
常務 前川益以	取締役 淺野良三	流動資産	三、三三三
副社長 岡部正樹	監査 齊藤三郎	固定資産	一、〇〇〇
取締 白田治助	監査 渡邊元一	業積	三、三三三
取締 阪谷芳郎	監査 渡邊元一	業積	三、三三三
〔大株主〕	十四年十一月期 三、〇〇〇名	〔株價〕	十四年中 七、〇〇〇
淺野同族九、〇〇〇	安田銀行三、〇〇〇	十五年 七、〇〇〇	十五年中 七、〇〇〇
事業規模	探掘區 八、二〇〇千坪	〔名義書換〕	十錢
〔名義書換〕	十錢	〔新券交附〕	五十錢

### 入山採炭

〔設立〕 明治二十九年二月  
〔決算期〕 五月、十一月  
〔本社〕 東京市京橋區銀座三ノ四大倉別館内 (電京橋 六二一八)  
〔坑務所〕 福島縣石城郡湯本町

〔増益顯著〕 當社の本年上半期は増益が豫想される。炭礦會社が一般的に業績低下に見舞はれてゐる折柄、當社の増益は注目値する。増益の原因は出炭の増加である。昨年半島人の入坑増加も役立つてゐるやうだが、一つは磐城の如く出水事故に祟られなかつたからだ。元々當社の經營は堅實であるが、その効果が最近の如く炭界不振の際には物を言つて来るものだと思ふ。増産は今後も着々進行する見込である。一割配當は十分持續せられやう。

〔資本金〕	公稱 一五〇〇〇 拂込 一八、二〇〇	〔資産負債〕	十二月 三十四年
〔株數〕	新(三〇) 三〇、〇〇〇	株主資本	一、〇〇〇
〔重役〕	社長 淺野總一郎	外部負債	三、七六二
常務 門野重九郎	取締役 大貫經次	流動資産	三、三三三
副社長 大野新吉	監査 本宿家全	固定資産	一、〇〇〇
取締 大野重九郎	監査 本宿家全	業積	三、三三三
取締 大野重九郎	監査 本宿家全	業積	三、三三三
〔大株主〕	十四年十一月期 一、〇〇〇名	〔株價〕	十四年中 七、〇〇〇
大倉組一、〇〇〇	河野政吉七、〇〇〇	十五年 七、〇〇〇	十五年中 七、〇〇〇
事業規模	探掘區 一〇、九〇〇千坪	〔名義書換〕	十錢
〔名義書換〕	十錢	〔新券交附〕	三十錢

### 太平洋炭礦

〔設立〕 大正九年四月  
〔決算期〕 五月、十一月  
〔本社〕 東京市日本橋區室町三井三號館内 (電日本橋五)

〔武佐坑を掘進〕 當社現在の所有鑛區は、探掘八百六十五萬坪、試掘四千一百萬坪に及ぶから、尙ほこれからの資源會社としての資格を充分持つてゐる。稼行坑は主力坑の春採以下、別保、新尾幌の三坑だが、最近前二坑の中間に新しく武佐坑を開けることになり、既に掘進を開始した。これが着炭すれば現在の出炭能力は、更に年三十萬噸から五十萬噸増加する見込だ。勞賃高、物價高の打撃があるが今年から助成金も交付されるので、採算はさまで心配ない。

〔資本金〕	公稱 二、〇〇〇 拂込 二、九六〇	〔資産負債〕	十二月 三十四年
〔株數〕	新(三〇) 三〇、〇〇〇	株主資本	一、〇〇〇
〔重役〕	社長 片山眞五郎	外部負債	三、七六二
常務 松方正熊	監査 清水源三	流動資産	三、三三三
副社長 大東三郎	監査 同本達三	固定資産	一、〇〇〇
取締 間瀬三郎	監査 同本達三	業積	三、三三三
取締 間瀬三郎	監査 同本達三	業積	三、三三三
〔大株主〕	十四年十一月期 九、七〇〇名	〔株價〕	十四年中 七、〇〇〇
三井鑛業三、〇〇〇	北興銀行三、〇〇〇	十五年 七、〇〇〇	十五年中 七、〇〇〇
事業規模	探掘區 一、〇〇〇千坪	〔名義書換〕	十錢
〔名義書換〕	十錢	〔新券交附〕	三十錢

〔石炭礦業〕

### 北樺太鑛業

〔設立〕 大正十五年八月  
〔決算期〕 三月(一年一回)  
〔本社〕 東京市麹町區丸の内九ビル内 (電丸ノ内六元)

〔配當復活〕 去る三月末に締切つた十四年度決算は前輯豫想の如く無配當から四分に配當を復活した。三年振りの配當である。復配はしたが無論積極的に利益があつたからではない。周知の通りソ聯側は依然として強硬態度に出で、當社の稼行を阻害してゐる。爲めに十四年度も事業益金はない。たゞ政府の補助金によつて損失は補償されてゐる。元來當社は準國策會社であり、而もソ聯の壓迫によつて無配に陥つてゐることは、株主にも氣の毒である。そこで十四年度は四分の配當をつけることにしたのである。今後ソ聯が態度を改めなくとも、利息の意味で配當は補償して貰へやう。

〔資本金〕	公稱 一〇、〇〇〇 拂込 二、五〇〇	〔資産負債〕	十二月 三十四年
〔株數〕	新(二五) 二五、〇〇〇	株主資本	一、〇〇〇
〔重役〕	社長 西原三井	外部負債	三、七六二
常務 橋本三郎	監査 松本健次郎	流動資産	三、三三三
副社長 河本三郎	監査 村山鹿之介	固定資産	一、〇〇〇
取締 橋本三郎	監査 村山鹿之介	業積	三、三三三
取締 橋本三郎	監査 村山鹿之介	業積	三、三三三
〔大株主〕	十四年三月期 一、〇〇〇名	〔株價〕	十四年中 七、〇〇〇
三井鑛業三、〇〇〇	住友本三、〇〇〇	十五年 七、〇〇〇	十五年中 七、〇〇〇
事業規模	探掘區 一〇、〇〇〇千坪	〔名義書換〕	十錢
〔名義書換〕	十錢	〔新券交附〕	五十錢



〔石炭礦業〕

### 鳳泉無煙炭礦

〔設立〕昭和九年二月  
〔決算期〕六月、十二月  
〔出張所〕東京市豊町區内幸町東拓ビル（電銀座五五）  
〔本社〕朝鮮平安南道价川郡北面鳳泉里一四六

〔業績益々良好〕前期は素晴らしい業績であつたが、本年上期も續いて良好の見込である。と言ふのは販賣高が一層増加するからだ。殊に木炭不足の補給として煉炭が重要視されるに至り、需要が一層殖えてをり、それに應じて當社も増産に務めてゐる。去る三月一日に拂込を徴収したが、六月期も一割配當は動かさない。

〔新會社設立〕東海電極と提携して朝鮮東海電極を設立することとなり、その認可申請を當局に手續中だが、近く許可の見込である。新會社への拂込資金に充當する爲め、今秋十月頃残りの未拂込を全部徴収する意向であるが、來年は増資の段取りとならう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000  
【株数】(150,000) 100,000

【重役】  
専務 福井武太郎 取締役 高木一郎  
取締役 伊藤竹之助 監査 片山義勝  
取締役 福川忠平 中川正左

【大株主】十四年十一月期 六名  
福井武太郎 300,000 東極礦業 100,000  
中谷商店 300,000 高木二郎 100,000  
中谷庄兵衛 300,000 櫻林順三 100,000

【事業地】朝鮮平安南道价川郡  
【名義書換】二十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】十三年 十四年 十五年

株主資本	2,833,000	2,900,000	2,900,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
平均株価	19.33	19.33	19.33
利益率	10.00	10.00	10.00

【業績】平均株価 利益率 配當率  
十三年下 2,833,000 10.00 10.00  
十四年下 2,900,000 10.00 10.00  
十五年下 2,900,000 10.00 10.00

【株價】(買物) 高値 安値  
十四年中 2,833,000 10.00 10.00  
十五年 2,900,000 10.00 10.00

### 三涉開發

〔設立〕昭和十一年四月  
〔決算期〕三月、九月  
〔本社〕京城府太平通一ノ一九（電本局 四六一七）

〔重ねて増配〕當社は日電が最も力こぶを入れてゐる會社で朝鮮で石炭事業を営む若い會社だ。昨年五月資本金五百萬圓から千五百萬圓に増資したのを機に、株式は公開され市場性がついてゐる。本年三月期の成績は利益率二割二分を挙げ、一分増の七分配當を行つた。九月期は更に成績が良くなるので、八分配當が豫想される。

〔資本的膨張〕當社の特色は創立後尙ほ四年しか経たぬのにその出炭力が、數年中に全鮮出炭量に迫る位大きいのと、山元から積出港までの運炭設備が比較的整つてゐることだ。増産實現のため近く二十五圓拂込を一舉徴収して、倍額増資に向ふであらう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000  
【株数】(100,000) 100,000

【重役】  
社長 熊喜 取締役 池尾芳藏  
専務 齋藤孝二郎 監査 小倉武利  
常務 藤井雄之助 監査 武藤嘉門

【大株主】十五年三月期 三名  
江原道三涉郡所連面及上段面  
江原道三涉郡所連面及上段面  
江原道三涉郡所連面及上段面

【事業地】朝鮮  
【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】十四年 十五年

株主資本	1,000,000	1,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000
平均株価	10.00	10.00
利益率	10.00	10.00

【業績】平均株価 利益率 配當率  
十四年下 1,000,000 10.00 10.00  
十五年下 1,000,000 10.00 10.00

【株價】(買物) 高値 安値  
十四年中 1,000,000 10.00 10.00  
十五年 1,000,000 10.00 10.00

### 九州探炭

〔設立〕昭和十年四月  
〔決算期〕五月、十一月  
〔本社〕福岡縣鞍手郡木屋瀬町  
〔營業所〕福岡市片土居町十五ビル内（電東五〇八）

〔擴張に邁進〕當社の稼行鑛區は新手續を主力として、長崎、岩崎土井の四鑛に亘つてゐる。長崎は昨年手に入れたばかりだが、最近新層に着炭したやうだから、これからの増産に期待される。岩崎及び土井鑛は先掘り出してゐるが、岩崎の方は年々出産増を示してゐる。新手續は一部で老朽化したと言はれてゐるが、此の程これに隣接する東邦所有の深坂鑛區を新しく手に入れたので、新手續の排水、掘進等に多大の利便を得、面目を改めたやうである。

〔統制と今後〕互助會系の中級炭鑛だから、日本石炭會社の營業開始によつて受ける影響は複雑微妙だが、現行一割配當は存続可能だ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000  
【株数】(100,000) 100,000

【重役】  
社長 藤井伊藏 副社長 今野見山  
専務 野見山 取締役 伊藤則文  
監査 徳倉充治 萬谷漸

【大株主】十四年十一月期 一名  
日滿鐵業 1,000,000 藤井伊藏 1,000,000  
日滿鐵業 1,000,000 藤井伊藏 1,000,000

【事業地】福岡縣(新手工、土井、岩崎)  
鑛區面積 約 100,000 坪  
【事業成績】  
炭代収入(千圓) 十四年下 1,000,000 十五年下 1,000,000  
【名義書換】十錢【新券交付】三十錢

【資産負債】十二年 十四年 十五年

株主資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
平均株価	10.00	10.00	10.00
利益率	10.00	10.00	10.00

【業績】平均株価 利益率 配當率  
十二年下 1,000,000 10.00 10.00  
十四年下 1,000,000 10.00 10.00  
十五年下 1,000,000 10.00 10.00

【株價】(買物) 高値 安値  
十四年中 1,000,000 10.00 10.00  
十五年 1,000,000 10.00 10.00

### 日滿鑛業

〔設立〕大正八年五月  
〔決算期〕五月、十一月  
〔本社〕東京市豊町區丸ノ内三ノ三三三二一號館（電丸ノ内 四七〇）

〔株式公開〕前報所報の如く當社舊株(五十圓拂込)五万株が、去る三月上旬廿五圓のプレミアム付で賣出された。六分配當を開始したばかりだが、將來性を好感して相當の人氣を呼んだ。

〔増配・増資〕五月期は一分増の七分配當を行ふ筈で、早晚増資の筋合にもある。尙九州探炭との合併説もあるが、今後の動きには注目を要する。子會社日滿洲鉛鑛も、事業を進めてゐる。

〔滿洲鉛鑛〕同社は昨年度に初配當六分の外に特配一割八分をつけ、四月に四百萬圓を三千万圓に増資し、第一回拂込六百五十萬圓を徴収した。揚家杖子鉛亞鉛鑛山の擴充を遂げるためだ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000  
【株数】(100,000) 100,000

【重役】  
社長 白城定一 代表 藤井則文  
専務 五十嵐澄夫 常務 藤井則文  
取締役 高島誠一 吉田敬太郎 西本弘光 松永芳市 相談 竹田源次郎  
顧問 山田復之助

【大株主】十四年十一月期 三名  
白城定一 300,000 藤井伊藏 300,000  
森岡金藏 300,000 大平鐵業 300,000

【事業地】  
滿洲 揚家杖子鑛山(新、亞鉛、石炭)  
滿洲 揚家杖子鑛山(新、亞鉛、石炭)  
滿洲 揚家杖子鑛山(新、亞鉛、石炭)  
機械、日本タイプ、羅津探鑛等、日東

【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】十二年 十四年 十五年

株主資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
平均株価	10.00	10.00	10.00
利益率	10.00	10.00	10.00

【業績】平均株価 利益率 配當率  
十二年下 1,000,000 10.00 10.00  
十四年下 1,000,000 10.00 10.00  
十五年下 1,000,000 10.00 10.00

【株價】(買物) 高値 安値  
十四年中 1,000,000 10.00 10.00  
十五年 1,000,000 10.00 10.00

〔石炭礦業〕











〔石油 礦業〕

### 早山石油

〔設立〕昭和十年五月  
〔決算期〕六月、十二月  
〔本社〕東京市麹町區丸の内二ノ一六(電九ノ内三二一五)  
〔支店〕大阪市北區濱通堂島ビル

〔拂込徴収と増資〕七月一日に拂込一株につき一舉二十五圓を徴収した。これで金額拂込済だ。大部分が工事中のデユオソール、コンダクト・リランの新プラント建設に使はれる。尙明年度においてもこの爲の資金約百五十萬圓を要し、また借入金金の返済もあるから、明年度は二分の一或ひは四分の一の増資は不可避だ。新プラント稼働の明秋頃から高級機械油を主とする経営への轉換が實現されやう。〔値上げと増益〕石油値上げは六月期業績に百万圓位の増収を齎す。利益金は百六十萬圓を超えやうから、利益率も三割五分程度とならう。現行九分配當は今後、資本負担が増しても安泰だ。

【資本金】	公稱	11,000,000	拂込	11,000,000
【株数】	新	(50,000)	旧	(100,000)
【重役】	社長	早山三郎	取締役	松本三郎、伊藤三郎、森田三郎、川崎三郎、山崎三郎、石井三郎、小泉三郎、幸三郎
【大株主】	十四年上期	1,000,000	十四年下期	1,000,000
【事業成績】	十四年上期	1,000,000	十四年下期	1,000,000
【名義書換】	十錢	新券交付	五十錢	新券交付

### 朝鮮石油

〔設立〕昭和十年六月  
〔決算期〕四月、十月  
〔本社〕京城府黃金町一ノ一八〇(電本局六七)  
〔事務所〕東京市麹町區丸の内日東鐵道汽船内(電九ノ内五五五)

〔向上顯著〕四月期決算を見ると、収入は若干減力したが、それよりも作業合理化に依る経費減少の幅の方が大きかつた爲、却て業績は相當の向上を示した。即ち利益金は二百九十八萬七千圓と前期に比し八十七萬八千圓の著増を示し、利益率は八分一厘増の三割九分八厘となつた。前期に引上げた九分配當は慎重に据置いた。〔新工場活躍〕過般來建設中であつた元山工場の高級機械油精製装置は三月末に完成し、愈々一貫作業を開始する運びとなつた。四月の石油価格の引上げの結果を相俟つて、これが十月の業績に大きく寄與するから、原油の入手難にも拘らず、當社の前途は明るい。

【資本金】	公稱	11,000,000	拂込	11,000,000
【株数】	新	(50,000)	旧	(100,000)
【重役】	社長	橋本三郎	取締役	野口三郎、小倉三郎、村野三郎、山崎三郎、金三郎、大井三郎、大島三郎、大島三郎
【大株主】	十四年上期	1,000,000	十四年下期	1,000,000
【事業成績】	十四年上期	1,000,000	十四年下期	1,000,000
【名義書換】	十錢	新券交付	五十錢	新券交付

### 三菱重工業株式會社

〔本社〕東京市麹町區丸の内二ノ四(電九ノ内三三一九)  
〔支店〕東京市蒲田區中丸子町三三

〔株價堅調〕五月下旬來の一般株價低落の中にあつて、當社株の下げ程度が少く堅調を辿つてゐることは注目し得る所だ。流石と思はせる。七分配當には最早や上進の期待はないにせよ、それ以下に引下げられる憂ひもない。此の點は興味薄と言へる反面、華公債的な安定性を持つものと見るべきだ。

〔重點會社〕昨年十二月末の受註残高は五億六千萬圓を越へた。今年上期末には更にそれを上廻る見込だ。毎月の引渡高より新規受註が多いからであること言ふ迄もない。海陸空に亘る各種製品に亘り、設備、技術、経営上の重點會社たるの風格を、今や益々發揮してゐる譯である。勿論老大な受註を圓滑に消化するのは原材料不十分など今日容易な業でなく、而も單價引下げの影響がある。然し當局者の巧みな経営と努力は、よくこの難局を切開いてゐる。

〔本年上期〕去る三月一日、一億二千萬圓増資の第一回拂込六千萬圓を徴収し、一部を借金返済、大部分を設備擴充に向けた。本年上期はこの拂込負擔を考慮せねばならぬが、何分利益率の實體は三割台と見られるから、表面上多少低下を示すにしても何等懸念はない。尙陸軍利潤算定方法による當社の可能配當率は九分を越へてゐる。此の點からも現行七分配當には問題はない。

〔造船 船渠 渠〕

【設立】	大正六年十月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	船舶、汽機、航空機、各種車、自動車、各種機械並鐵工品
【資本金】	公稱 11,000,000 拂込 11,000,000
【株数】	新 (50,000) 旧 (100,000)
【重役】	會長 新渡孝四郎 常務 岩崎小波、元良信太郎、原耕造、取締役 谷登、伊藤清彦、笹本三好、大橋、高井、小三郎、牛丸、藤田、松次、加藤、武男、山室、宗文、武藤
【大株主】	三菱 社 1,000,000 日本郵船 社 700,000 明治生命 社 500,000 第一相互 社 500,000 日本生命 社 500,000 海上火災 社 500,000 東京海上火災 社 500,000 明治火災 社 500,000
【事業規模】	十二年下期現在
【工場】	長崎(造船、製鋼) 神戸(造船) 横濱(造船) 名古屋(航空機、發動機) 東京(品川、蒲田、多摩川(機器))
【事業成績】	十四年上期 十四年下期
【投資會社】	郵船、商船、日本電池、日本光學、日本製鐵、東京鋼材、東京計器、大日本塗料、滿洲航空、滿洲機器
【資本異動】	十五年三月倍額増資第一回 三五圓拂込徴収

【資産負債】	十四年上期	十四年下期	十四年上期	十四年下期
株主資本	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動比率	100%	100%	100%	100%
固定比率	100%	100%	100%	100%
平均株價	220	220	220	220
配當率	7%	7%	7%	7%
【名義書換】	十錢	新券交付	五十錢	新券交付



# 川崎重工業株式会社

(本社) 神戸市湊東區川崎町二丁目(電兵庫天谷三〇〇)

【拂込徴収】 當社は六月一日第二回分として一株十二圓半總額三千万圓の拂込を徴収した。斯くて當社の増資新株の拂込額は一株三十七圓半總額九千万圓となり、あと三千万圓で一億二千万圓拂込となる譯だ。この拂込金は當社自体の擴張費に當てられること勿論であるが、その一部は仔會社の拂込金に充當することになつてゐる。

【仔會社活躍】 當社は仔會社に川崎汽船、川崎車輛、川崎航空機を持ち、之等仔會社は何れも一流會社の貫録を持つてゐる。就中車輛、航空機の兩社は時局以來擴充を續けてをり、航空機は遂に倍額増資を斷行した。續いて車輛、汽船も増資態勢にあるから、近く具体化されるだらう。さうなると當社は之等仔會社の株を略百パーセント持つてゐることだから、その拂込だけでも仲々大變である。

【轉身問題と配當】 そこで當社は持株會社に轉身することに決定したのであるが、未だ正式の認可を得るに至つてゐない。何れは持株會社となるだらうが、當分は現狀の儘で經營して行くことになつてゐる。所で五月末締切りの本年上期の配當だが、成績から見ると七分配當も可能と思はれたが、結局當期決算では、昨年十二月の甲種和議債務約二千三百万圓完済の結果、普通及び優先株とも六分配當と決定した。

# 浦賀船渠株式会社

(本社) 東京市麴町區丸ノ内海上ビル内(電丸ノ内一六六一)

【受註旺盛】 海運界は船腹不足緩和に大童だが、擴充策としては結局新船の建造以外にない。自然新造船計畫は昂揚し、當社の如きも受註高七千万圓内外に達し、一期間製作高千六、七百万圓の四倍半に達する。新規註文も續き、一ヶ月數百万圓宛増加して居る。受註内容はXXを始め、商船の建造及び修理が八割で、他は製鐵機械、船舶機械等の陸上工事だ。

【一割繼續】 右の如く受註旺盛を前に、業界一般の例に洩れず資材入手難、勞力不足で、その消化に悩んで居る。過般の鋼材値上げ問題も、結局歩引廢止となり四、九月の二期間に亘り暫定的に板物一應二十圓、條物三十圓の値上げが行はれた。が併し大体船主側の負擔となるから、造船側の痛手とならない。更に資材入手難も當社の場合、特殊需要が多いから、若干救はれよう。結局六、七期製作引渡高は前期と變らず千五百万圓揃みで、成績は三割台の高利益率を以て一割配當に問題はない。當社の所謂適正配當率は九分九厘と出て来るので、此の點からも一割配當は妥當な社外分配と云へる。

【拂込・増資接近】 浦賀工場の設備改善、横濱工場の整備、青島船渠の擴充の爲、最終拂込二百萬圓の徴收も近い。年内と見て良からう。最終拂込に續いて再増資が具体化する筋合にある。

<p>【設立】 明治二十九年十月</p> <p>【決算期】 五月、十一月</p> <p>【事業】 船舶建造修理、諸機械、鐵工品</p> <p>【資本金】 公稱 100,000 拂込 120,000</p> <p>【株数】 新(五〇) 1,200,000</p> <p>【重役】 社長 川崎 芳雄 正輔 皆川 多三郎          専務 川崎 保貞 監査 植村 甚吉          吉岡 守一 寺田 幹太          岩倉 道守 杉坂 田          三輪 小十郎 富</p> <p>【大株主】 大坂商船 100,000 山下 汽船 100,000          川崎汽船 36,000 藤本 三三 36,000          大倉 鐵業 36,000 北 興業 36,000          寺田 甚吉 17,000 第一 電兵 16,000          岸和田 紡績 13,730 大阪 貯蓄 12,000</p> <p>【事業規模】 船渠(一) 造船廠(八) 工場(製鐵) 神戸市 聯合區 神戸市 林田區 東尻池(製鐵)</p> <p>【投資會社】 川崎車輛、川崎汽船、日本鋼管、川崎航空機工業、日本製鐵</p> <p>【資本異動】 十四年十二月一億二千萬圓増資第一回二五圓拂込徴收</p>	<p>【設立】 明治三十年六月</p> <p>【決算期】 六月、十二月</p> <p>【事業】 船舶、艦艇兵器建造修理</p> <p>【資本金】 公稱 100,000 拂込 100,000</p> <p>【株数】 新(五〇) 1,000,000</p> <p>【重役】 社長 寺島 健 取締 中川 大郎          常務 山本 幹之助 監査 山下 禮三郎          甘泉 盛豊 相談 山下 禮三郎          足立 盛夫 相談 山下 禮三郎</p> <p>【大株主】 汽船 100,000 山下 株式 100,000          第一 相 互 100,000 昭和 興業 100,000          富國 鐵業 100,000 愛知 銀行 100,000          富國 鐵業 100,000 福徳 生命 100,000</p> <p>【事業規模】 造船廠(二) 十二下期現在</p> <p>【工場】 浦賀、横濱、青島船渠(委託經營)</p> <p>【事業成績】 十三年下 十四年上 十四年下          工事収益 1,300,000 2,400,000 2,300,000          投資會社 大日本兵器 日本鐵釘          【資本異動】 十二年十二月八百萬圓増資第一回、十二年十二月八百萬圓増資十一月第三回各三〇萬圓拂込徴收</p>	<p>【資産負債】 十二年 十四年 十四年</p> <p>株主資本 八、九七〇 一〇、五〇〇 一〇、五〇〇</p> <p>積立金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇</p> <p>外部負債 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇</p> <p>使用總資本 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇</p> <p>流動資産 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇</p> <p>流動負債 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇</p> <p>現金預金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇</p> <p>【收支勘定】 十二年下 十四年上 十四年下</p> <p>收入 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇</p> <p>支出 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇</p> <p>【構成比率】 十二年下 十四年上 十四年下</p> <p>流動比率 一〇〇 一〇〇 一〇〇</p> <p>固定比率 一〇〇 一〇〇 一〇〇</p> <p>負債比率 一〇〇 一〇〇 一〇〇</p> <p>【業績】 平均拂込 利益率</p> <p>十二年下 一〇〇 一〇〇</p> <p>十三年下 一〇〇 一〇〇</p> <p>十四年上 一〇〇 一〇〇</p> <p>十四年下 一〇〇 一〇〇</p> <p>【株價】 (東) 株 高値 安値 高値 安値</p> <p>十四年中 六九 五〇 六二 五〇</p> <p>十五年 六三 五〇 六三 五〇</p> <p>四月 二〇 二二 二二 二二</p> <p>五月 二〇 二二 二二 二二</p> <p>【名義書換】 十五錢【新券交附】三十五錢</p>
---	---	---



造船船渠業

株式 東京石川島造船所

(本社) 東京市京橋區個島五四(電報三三六一八) (出張所) 大阪市北區中之島三井物産ビル内

【上期堅調】 當社の受託は依然跡を絶たず、現在手持工事高は七千万圓に達する。受託内容は起重機、機械(主として××用エンジン)造船、發動機の順だが、第三位の造船部門の受託だけでも、東亞海運、日鐵等よりの汽船の注文五隻に上る。以て繁忙の一半は察し得よう。勿論受託消化能力に難點がない譯ではない。擴張過渡期の壓迫は別にしても鋼材入手難、勞力手當難は看過し難い。が、結局上期製作引渡高は前期並の千八百万圓程度、利益金は二百十萬圓を見込んで、現状維持と云ふ成績だ。五月の拂込徴収で、資本負擔は増すが、八分配當に不安はない。

【早晚増資の筋合】 當社は目下擴張に大童だ。まづ横濱航空發動機工場だが第一期工事は完成、現在第二期工事を進めて居る。第二期工事は下半期中に完成するものと予定されたが多少延びる模様だ。第二期工事を通じて八百万圓の資金を要する。第二に月島船渠擴充工事があり、第三に石川島工場の整備がある。前者に就いては船渠一基増設中で完成は來春とされ、百三十萬圓はかかる。後者に就いては起重機、水門工場の建設に多忙だ。敷地×万坪を買収したがその費用は百八十万圓に上る。當面緊急資金だけでも千万圓を突破し未拂込八百万圓も順次徴収、そして早晚増資が氣構へられる。

函館船渠

(設立) 明治二十九年十一月 (決算期) 六月、十二月 (本社) 函館市辨天町八八 (電報三三〇〇) (出張所) 東京市麹町區丸の内(電報九ノ内 三七五)

【上期好調】 造船會社の近狀は新造船より寧ろ修繕船の受託を歓迎する傾向にある様だ。當社は修理工事が得意だから、上期の業況は可なり順調に運んで居る。更に三月室蘭船渠を合併したから、少くとも七、八萬圓の増収は見込める。一割配當は安泰だ。【増資問題】 室蘭工場では船渠二基の建造計畫中だが、そのうち一基だけは許可され目下工事中である。船渠の建造と併行して構内諸設備も行はれるから、建設費は案外要る。完成は今年一杯の豫定だったが、建設資材の配給難その他の諸事情に制約されてまだのびる模様だ。當然増資が問題となるが、今の所具體化しては居ない。

Table with financial data for 函館船渠, including columns for 資本金 (Capital), 株主 (Shareholders), and 役員 (Officers).

Table with financial data for 函館船渠, including columns for 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主 (Shareholders), and 役員 (Officers).

造船船渠業

川南工業

(設立) 昭和十一年九月 (決算期) 七月、一月 (本社) 大阪市北區中之島二ノ二五(電報北南一四) (支社) 長崎市梅ヶ崎町四(電報五〇〇)

【拂込・増資】 當社は去る二月一日第三回の拂込を了し、引續いて五月一日に最終拂込を完了した。斯くて當社は千五百萬圓全額拂込済となり、次は増資の段取りと云ふ譯である。擴張工事の規模から見て、當面倍額増資が豫定されてゐるが、資金調整強化と物資不足の折とて、果して倍額を許可されるかどうか疑問がある。【前途】 造船部と炭礦部の好調に恵まれて成績は至極順調を示してゐる。材料の昂騰は單價の増高を招來し、採算悪化の導火線となるが、それにしても一割配當ならばまだ續行して行かれる見込みだ。尤も倍額増資ともなれば政策的に多少の減配が必要かも知れない。

Table with financial data for 川南工業, including columns for 資本金 (Capital), 株主 (Shareholders), and 役員 (Officers).

Table with financial data for 川南工業, including columns for 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主 (Shareholders), and 役員 (Officers).

Table with financial data for 東京石川島造船所, including columns for 設立 (Establishment), 決算期 (Fiscal Year), 事業 (Business), 資本金 (Capital), 株主 (Shareholders), 役員 (Officers), and 資産負債 (Assets and Liabilities).

Table with financial data for 東京石川島造船所, including columns for 株主 (Shareholders), 役員 (Officers), and 資産負債 (Assets and Liabilities).



〔機械製作業〕

### 株式 日立製作所

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ二(電九ノ内五九)  
(營業所) 大阪市西區土佐堀通一ノ一(大同ビル)(電土佐堀元七)

【重點主義と當社】當社は機械工業界に於て、重點主義政策にあてはまる典型的會社の一つである。電氣機器から發足した日立工場を始め、多賀、龜戸、龜有、尼崎、安來、若松、深川、戸塚、笠戸、木津川、戸畑の十二工場をもち、更に桑名、宇部、木次、島上に分工場があり、大型諸機械を中心に特殊鋼、鑄鐵等の原料生産まで行ひ一貫作業を營んでゐる。直屬子會社を入れると、製品は航空機、工作機械、自動車、車輛、船舶から、建築用機、電氣機器等、あらゆる種類に及び、海外品にあまり劣らぬ精度の高いものを製作し、綜合製作會社の体型を整へてゐる。而もその技術が純國産であり、外國品に頼らぬことを主眼とする點に當社の特色がある。

【禁輸の影響】米國工作機械の對日禁輸問題が重大化してゐるが、これなども當社から見れば、別に大きな比重をもつ問題でないやうだ。今次歐洲大戰の勃發後、高精度機械類が輸入難に陥り、ために當社の眞價が却て認められるに至つた過去の事實から想像すれば、これからの重點主義は寧ろ當社の如きものに採用されねばならぬ。

【増資と配當】尤も今後は原料資材の極端な不足から、重點主義會社と雖も樂觀は許されぬ。二下期成績は一割二分配當の踏襲に何等支障はなかつた。利潤統制の折柄、増資後二分減配せん。

### 東京芝浦電氣株式會社

(本社) 東京市京橋區銀座西五松田ビル(電銀座五七〇)

【増資實現】懸案の倍額増資が愈々實現した。新株百七十四万株は四月廿日現在の株主に舊一株對新一株の割合で割當てられ、五月卅日第一回十二圓半總額二千七百七十五万圓の拂込が徴收せられた。昨十二月一日社債千五百万圓の發行を見、更に暮には一千四百六十二万五千圓の拂込をとつてをり、此の所當社の資金手當は可成り類繁である。芝浦と合併後の時局對策實現のためである。

【擴充方向】事業の擴充は自社のものと傍系諸會社のものとに分れる。前者では川崎、鶴見及三重の三工場の擴張と府中工場の新設とを主とし、發送電用大型電氣機械、金屬製鍊用機器、化學工業用及無線電信用機器、軍需用機械等が増産の目標となつてゐる。後者では芝浦工作機械(大型工作機)、芝浦共同工業(壓延機)、其他主要子會社の拂込乃至増資資金とする。尙一部は運轉資金に廻されるが、兎も角増資額の過半を自社の擴充費に向ける方針である。

【成績順調】前期末の注文残高は約二億圓に上る。事變後舊東京電氣側の製品は、所謂平和産業關係が多い爲め伸び悩んでゐるが、舊芝浦側の収益増で之をカバーし得、今度の増資による事業再編成と相俟つて、大体順調な成績を維持するであらう。三割台の利益率は動くまいと思はれ、利潤統制の上からも一割配當なら安泰だ。

〔機械製作業〕

【設立】	大正九年二月
【決算期】	二月、八月
【事業】	電氣機械器具、電線、自動車、機關車、車輛、一般機械及金屬材料
【資本金】	拂込済 二〇〇,〇〇〇,〇〇〇
【株主数】	五〇〇
【役員】	社長 鮎川義介、副社長 高尾直三郎、常務 馬場榮夫、秋田政一、取締役 六角三郎、山下千代田、大庭滿平、森島貞一、横田千伊藤文壽、監査 山田敬亮、木村雄次、玉河久雄
【株主数】	十三年下 十四年上 十四年下 總数(名) 三三〇 一六九 二〇九
【大株主】	滿洲重工業 八〇,〇〇〇、戸畑物産 六〇,〇〇〇、高國重兵衛 三〇,〇〇〇、帝國生命 三〇,〇〇〇、第一生命 三〇,〇〇〇、日本生命 三〇,〇〇〇、千代田生命 三〇,〇〇〇、安田生命 三〇,〇〇〇、事業規模工場所在地 日立、多賀、龜戸、龜有、深川、戸塚、木津川、尼崎、安來、笠戸、戸畑、若松
【事業成績】	十三年下 十四年上 十四年下 前期繰越(全) 一、七〇〇、〇〇〇、元 当期受注(全) 一、三〇〇、〇〇〇、元 当期發送(全) 一、三〇〇、〇〇〇、元 当期繰越(全) 一、三〇〇、〇〇〇、元
【投資會社】	大阪鐵工所、國産精機、滿洲日立製作所、日立兵器、日立航空機、日立工作機、東京機器工業其他
【資本異動】	十四年一月二億圓に増資第一回六月、十月、十五年一月六月、各一三〇萬圓拂込徴收

【資産負債】	十四年 十四年 十五年		
株主資本	一八、〇〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
社債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
使用資金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
【収入勘定】	十三年下 十四年上 十四年下		
支出	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
収入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
【支出勘定】	十三年下 十四年上 十四年下		
支出	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
収入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
【名義書換】	十三年 十四年 十五年		
高値	一〇〇	一〇〇	一〇〇
安値	一〇〇	一〇〇	一〇〇

【設立】	明治三十七年七月
【決算期】	四月、十月
【事業】	發電機、變壓機、配電制御機、電氣機關車、電氣調整器、其他電氣機器
【資本金】	公稱 二〇〇,〇〇〇,〇〇〇、元 新(三三) 一、七〇〇,〇〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 山口喜三郎、取締役 清水與七郎、副社長 山本三郎、新開廣作、津守豊治、百田貞次、久保正吉、監査 大塚榮吉、金子堅太郎、相談 古田正康、小林康治、顧問 平田篤次郎、朝吹常吉、顧問 W.K.クラウ
【株主数】	十三年下 十四年上 十四年下 總数(名) 一、七〇〇 一、七〇〇 一、七〇〇
【大株主】	ING電氣 五〇〇,〇〇〇、三井合名 三〇〇,〇〇〇、第一生命 二〇〇,〇〇〇、日本電氣 一〇〇,〇〇〇、長富八重子 一〇〇,〇〇〇、三井物産 一〇〇,〇〇〇、吉川元吉 一〇〇,〇〇〇、三井物産 一〇〇,〇〇〇、受注(高) 一〇〇,〇〇〇、元 受注(中) 一〇〇,〇〇〇、元 受注(低) 一〇〇,〇〇〇、元 工場 川崎、鶴見、桑名、仁川、小倉、大阪、大連、川口
【投資會社】	芝浦工作機械、石川島芝浦、芝浦マツダ工業、電業社、奉天製作所、昭和電球、日本電氣工事、東京電氣
【資本異動】	十四年十一月三〇日(最終) 拂込徴收、同月七、七、五萬圓減資、十五年五月倍額増資第一回三〇萬圓拂込徴收

【資産負債】	十三年 十四年 十五年		
株主資本	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
社債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
使用資金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
【收支勘定】	十三年下 十四年上 十四年下		
支出	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
収入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
【名義書換】	十三年 十四年 十五年		
高値	一〇〇	一〇〇	一〇〇
安値	一〇〇	一〇〇	一〇〇







【機械製作業】

### 株式新鴻鐵工所

(本社) 東京市麹町區丸ノ内南有樂館内(電九ノ内二二三一志)  
(出張所) 大阪市北區中之島朝日ビル(電北濱三三二一志)

【擴張盛行】當社は時局の要求に應ずべく、これまで諸工場の大擴張を行つて来た。例へば、車輛、工作機、造船に主力を注ぐ新鴻工場を始めとして、内燃機關を主とする蒲田工場、石油關係諸機械の製作に注力する長岡、柏崎の兩工場等々の擴大増設、浦和の兵機専門工場の建設等がそれである。從來當社は量的な増産よりも寧ろ質の向上に力を入れて来た。其の爲、製品は何れも優秀で、特にディーゼル機關の如きは軍に依つて其の優秀な事を折紙づけられてゐる。従つて當局者が好むと好まざるとに拘らず、今後も擴張は強行されるものと見るべきだ。

【利潤統制】當社は池貝に比べては軍に直接納入するものが多い。それは池貝が各事業を分離獨立せしめて別會社の形にしたのに反して當社はそれを一會社の中に抱擁してゐるところから来るものであるが、此のため陸軍の利潤統制の影響を比較的多く受けるのである。記者の計算に依ると、當社が利益として配當に振り向け得る利潤は拂込資本に對比すると約八割となる。然し内容は優秀であるし、浦和工場の如き特殊兵器を造つてゐる工場もあるのだから、相當寛大な取扱を受け、九分配當は勿論可能で一割配當も許されるものと思ふ。五月份は順調な成績で一割据置に決定した。

【設立】	明治四十三年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	機械器具並車輛及船舶の製造 販賣計器の販賣
【資本金】	10,000,000
【株数】	100,000
【重役】	社長 佐村 吉郎 専務 長島 吉三郎 取締役 橋本 圭三郎 山口 誠太郎 監査 白野 孝次 大内 重男 中野 量作
【株主数】	1,232
【大株主】	山口 誠太郎 7,000 西協合名 1,500 帝國生命 2,000 富田 銀行 1,000 日本石油 9,000 富田 兵衛 1,000 中野 興業 6,000 佐村 吉郎 6,000
【事業規模】	新鴻工場 工作機械、鐵道車輛、船舶、空氣壓縮機、唧筒、ゼン機関、汽機汽鍋、鑿井製油機械 長岡工場 鑛山及化學機械、製鐵機械 柏崎工場 鑛山及化學機械、製鐵機械 東京蒲田工場 ディーゼル機關
【事業成績】	十三年上 十三年下 十三年上 受託高(圓) 14,300 15,300 引渡高(圓) 9,800 10,800
【投資會社】	新鴻製材所、新鴻鑄造所、 日本石油、東京重機製造其他
【資本異動】	十三年九月一千萬圓増資、 十月第一回十四年九月第二回十五 月第三回各二萬圓拂込徴收

【資産負債】	十三年 五十四年 十四年		
株主資本	11,000,000	11,000,000	11,000,000
積立金	2,000,000	2,000,000	2,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
支拂手形	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十三年上		
収入	14,300,000	15,300,000	14,300,000
支出	9,800,000	10,800,000	9,800,000
【内保】	十三年上 十三年下 十三年上		
流動比率	100%	100%	100%
固定比率	100%	100%	100%
負債比率	100%	100%	100%
【名義書換】	十三年 五十四年 十四年		
五月份	100,000	100,000	100,000
三月份	100,000	100,000	100,000
四月份	100,000	100,000	100,000
五月份	100,000	100,000	100,000

【機械製作業】

### 株式池貝鐵工所

(本社) 東京市麹町區有樂町一ノ十一東日會館(電九ノ内五二六八)

【擴張完成近し】川崎市溝の口工場は、當社最大の工作機械工場であつて、尙ほ擴張工事が續けられてゐる。大体本年一杯で完成を見る豫定だが、竣成の曉は未働資本が活動を開始するのだから、相當業績は向上するものと見てよい。

【利潤統制の影響】當社の製品は軍に直接納入されるものが比較的少い。然し軍以外の納入先は全部軍需工業會社であるから、間接的ながら軍需品の生産を行つてゐる譯だ。陸軍の利潤統制は直接にはあまり影響はないにしても、今後工作機械の公價引下げ等で、利潤率の低下は免れまい。今、参考の爲全製品を軍に納入するものと假定し、適正利潤率算定要領に従つて、當社の擧げ得べき利益を算出して見ると、配當に向け得る利益は年百四萬圓となる。これでは八分三厘の株主配當しか出来ぬ。然し乍ら當社は、資産内容が極めて優秀で、而も其の製精の精度は本邦随一とも言はれるものであるだけに、諸種の考慮條項に基き優遇されるものと見て間違ない。従て製品の全部が軍に納入されるとしても九分の配當は勿論、現行一割配當の維持も困難であるまいと思ふ。其の上、現實の問題として一般需要の方が遙に多いのだから、利潤統制は大して心配でない。

【自動車】自動車の増資が實現すれば、資金調達を爲拂込徴収か。

【設立】	大正二年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種工作機械、各種工具、内燃機關、高級印刷機械
【資本金】	10,000,000
【株数】	100,000
【重役】	社長 池貝 庄太郎 取締役 千葉 恒次郎 寺井 龍吉 池貝 秀雄 監査 池貝 三郎 坂田 三郎
【株主数】	1,232
【大株主】	池貝 庄太郎 7,000 池貝 秀雄 1,500 池貝 三郎 1,000 池貝 恒次郎 1,000 池貝 龍吉 1,000
【事業規模】	東京芝罘本芝 工場 川崎市戸手町 四國町
【事業成績】	十三年上 十三年下 十三年上 營業收入(千圓) 1,500 1,500 工場経費(千圓) 1,000 1,000 營業経費(千圓) 300 300
【投資會社】	池貝鑄造所 池貝自動車製造 池貝チャック 其他
【資本異動】	十三年九月六百萬圓増資第一回 十五年三月第二回二萬圓増資(最終) 拂 込徴収十四年九月一千萬圓増資第一回 三萬圓増資徴収

【資産負債】	十三年 五十四年 十四年		
株主資本	11,000,000	11,000,000	11,000,000
積立金	2,000,000	2,000,000	2,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
支拂手形	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十三年上		
収入	14,300,000	15,300,000	14,300,000
支出	9,800,000	10,800,000	9,800,000
【内保】	十三年上 十三年下 十三年上		
流動比率	100%	100%	100%
固定比率	100%	100%	100%
負債比率	100%	100%	100%
【名義書換】	十三年 五十四年 十四年		
五月份	100,000	100,000	100,000
三月份	100,000	100,000	100,000
四月份	100,000	100,000	100,000
五月份	100,000	100,000	100,000



【機械製作業】

### 株式 大隈鐵工所

(本社)名古屋市中區正字日進二七(電東八五七)

【倍額増資断行】準備中であつた倍額増資も愈々申請の運びとなつた。全面的な擴充過程にあるため、所要資金は目先のみにても六、七百萬圓を下らぬ。従つて増資後には矢繼早の拂込徴収があるものとみねばならない。豫定通り運ばば増資株は現在の株主に一對一で割當てられよう。

【全面的擴充】名古屋萩野工場および上飯田工場の整備充實、名古屋市外楠村に工具製作工場の新設、萩野工場に併置されてゐた東洋組網工場の分離、同旭村および九州小倉の特殊軍需品工場の建設および増設と、文字通り全面的な擴充が遂行されてゐる。旭村工場は今夏から順次操業開始のはずで、第一期工事の完成に引續いて第二期工事に着手する段取となつてゐる。

【業績と配當】資産内容は相變らず優秀ながら、最近の業績は稍々低下の傾向にある。積極的擴充に伴ふ未働資産の壓迫によるものであるが、この夏から秋にかけて旭村の新設工場と小倉工場の擴張部分が動き出し、更にその他工場の擴充も漸次モノをいひ出すことになれば、業績は次第に回復すべき筋合にある。これからは利潤統制も強化されるが、當社の資本構成に徴して之もさしたる心配はあるまい。一割配當の搖ぐが如きはあり得まい。

【設立】大正七年七月

【決算期】三月、九月

【事業】金屬工作用兵器製造用諸機械、工具、織機、其他一般機械

【資本金】... 拂込済 10,000

【株主数】... 五〇〇

【重役】社長 大隈 榮一  
 常務 村岡 嘉六 取締役 岡谷 惣助  
 前川芳之輔 監査 五味 末吉  
 渡邊 義郎 岩間 昌生

【大株主】

大隈榮一 一〇〇,〇〇〇 愛知銀行 七〇,〇〇〇  
 親愛商事 三〇,〇〇〇 愛知銀行 七〇,〇〇〇  
 大隈武雄 六〇,〇〇〇 山一證券 六〇,〇〇〇  
 渡邊義郎 四〇,〇〇〇 岡谷商店 三〇,〇〇〇  
 村岡嘉六 三〇,〇〇〇 徳川義親 二〇,〇〇〇

【事業成績】 十一年上 十一年下 十一年上  
 販賣収益(千圓) 六四八 五三六  
 販賣経費(千圓) 五九 六六  
 販賣利益(千圓) 五八九 四七〇

【資本異動】 十一年八月三〇日萬圓増資  
 十一年八月三〇日萬圓増資第一回十月第二回  
 十月第三回十一月最終各三萬圓拂込徴収

【資産負債】

項目	十四年	十四年	十五年
株主資本	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
積立金	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
社外負債	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
支拂手形	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
使用總資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
流動資産	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
固定資産	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇
現金預金	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
流動負債	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
固定負債	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇
負債比率	40%	40%	40%

【名義書換】 十 錢【新券交付】三十錢

【機械製作業】

### 東京自動車工業株式會社

(本社)東京市品川區東品川五ノ六(電高輪三三〇一四)

【倍額増資】當社の倍額増資は資金調整局の認可を得て確定した。新株は五月三十一日現在の株主に對して一對一の比率で割當て、その第一回拂込一株十二圓半、總額八百三十三萬一千圓は、七月一日に徴収された。之は擴張工事に充當される。

【擴充強行】當社は目下川崎工場、日野工場、朝鮮工場等の擴張を行つてゐるが、何れも七、八月頃までには完成し、運轉を開始する筈である。これ等諸工場の完成と共に運轉資金も必要となつて来るので、第二回拂込も近く實現するものと思はれる。然し當社の膨張はこれだけで止るものでは決してない。最近の歐洲戦争に於ける獨逸軍の目醒しき活躍が機械化部隊の威力に依ることは明かだ、我が軍當局も急速にして大規模なる軍機械化を敢行することに決した模様であるから、當社の今後は一層繁忙の度を加へ、擴張のテンポを早めねばなるまい。

【利潤統制】製品の殆ど全部は特殊需要だから利潤統制の影響を受ける。此の際當社にとつて不利なことは、創立日淺く、積立金が少いことである。記者の計算に依ると六分五厘程度の配當しか出來ぬことになる。然し急速な大擴張を必要とする上に製品が特殊なものだけに調辨価格は優遇され、大した減配はしなくて済む事にならう。

【設立】昭和十二年四月

【決算期】四月、十月

【事業】自動車製造

【資本金】... 拂込済 三〇,〇〇〇

【株主数】... 一〇,〇〇〇

【重役】社長 松方 五郎  
 取締役 石井 源三 三宮 吾郎  
 星 信太郎 弓削 清  
 大久保 正三 高橋 省三  
 松村 菊三 村上 正輔  
 松谷 知彰 安井 清

【大株主】

日立製作所 三〇,〇〇〇 第一生命 三〇,〇〇〇  
 東京石川島造船 三〇,〇〇〇 帝國生命 三〇,〇〇〇  
 東京自動車 一七,八三三 朝鮮殖産銀行 一〇,〇〇〇  
 東京芝浦電氣 八,六二五 有終會 七,二二六

【事業規模】 工場所在地

東京市品川、横浜市鶴見、川崎市下殿  
 擴張計畫 東京府下目野町、京城郊外  
 年産能力(單位II) 十一年十月末現在  
 川崎工場 二五,〇〇〇 大森工場 二〇,〇〇〇  
 鶴見工場 二五,〇〇〇 計 七〇,〇〇〇

【投資會社】 自動車部品製造

【資本異動】 十二年十一月自動車工業合併

十三年四月自動車工業合併

同月國産自動車工業合併

資、十月(國産)最終)拂込徴収、十二

月先に合併の國産自動車工業の未拂込

株五圓拂込徴収

【資産負債】

項目	十四年	十四年	十五年
株主資本	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
積立金	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
社外負債	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
支拂手形	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
使用總資産	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
流動資産	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
固定資産	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇
現金預金	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
流動負債	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
固定負債	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇
負債比率	40%	40%	40%

【名義書換】 十 錢【新券交付】五十錢



















【機械製作業】

# 日本精工株式会社

(本社) 東京市品川区東大崎二ノ三六三 (電大崎四二八六)

【ベアリング不足】 歐洲戦争の本格的戦闘段階への轉入で、當社は一段と事業の繁忙度を増すこととなつた。言ふまでもなくS・K・Fの製品が輸入出来なくなつたからである。此の爲目下建設中の多摩川工場、藤澤工場等が完成しない内に更に一段の増設を必要とする事にならう。拂込徴収も相次いで行はれ、來年末までには再増資と言ふ事になるかも知れぬ。

【原料難】 たゞ問題なのは原料特殊鋼の不足である。當社は川崎に特殊鋼の製造工場を建設中であるが、原料たるスクラップと配合元素が不足するから、どの程度の生産が出来るか疑問だ。尤もベアリングは機械工業の存立のためには不可欠のものであるから、原料は不足勝作らうにか間に合ふであらう。

【利潤統制】 當社の製品で直接軍に納入されてゐるものは比較的少ない。ベアリングは部品であるからだ。然しこの爲に當社の製品が利潤統制を受けると言ふことは出来ぬ。部品の価格は直ちに完成品の価格に影響するからだ。今假に當社の製品が軍に納入されるものとして、利潤統制の影響を考へるに、記者の計算には、九分配當を可能ならしめる数字が出る。現行一割配當比し一分低いが諸種の事情を考へ合せると一割配當の維持は可能と見られる。

# 東洋ベアリング製造株式会社

(本社) 大阪市南區末吉橋通新橋ビル内(電船場三六八) (支社) 東京市芝區田村町二丁目(電銀座三三三)

【膨張】 當社は日本精工と共に我が國に於けるベアリング業界の双璧をなして居る。事業前は規模も大したものではなかつたが、事業後急激な膨張を示し、今後ますますその過程を續ける情勢にある。擴張は桑名工場及び武庫川工場の双方に於て實施されて居り、前者は本年一杯、後者は明春それと完成を見る予定である。

【拂込期】 これ等の擴充費を支辨する意味から、去る三月一日合併新株(舊昭和ベア株)の第二回拂込總額七百五十萬圓を徴収したが、残り三百七十五萬圓も大体年内には徴収されることとならう。其の後に於ては増資も問題とならうが、資金調整嚴重化の折柄でもあり一方當社が借金らしいものを有せぬ關係からは、一應借入金に依つて賄ふこととなるかも知れない。

【業績】 原材料の逼迫懸念もありはするが、當社が重點の圈内にあるのを考慮すれば、さほど懸念する程のこともあるまい。が、利潤統制の断行からは、假令擴張の進捗に伴ふ増産の利益が期待されるにはしても、業績は大体横道と押へて置いた方が手堅いと思ふ。とは云へ現行配當は當面不安なきこと素よりだ。

【満洲ベア】 子會社滿洲ベアの二百萬圓増資も未だ認可を見ないが、遠からず實現の運びとならう。

【機械製作業】

【設立】	大正五年十一月
【決算期】	五月、十二月
【事業】	ボール、ベアリング、スチールボール、紡績用部分品、特需品部分品諸機械部分品
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	新 100,000 旧 100,000
【重役】	社長 高橋 是賢 取締役 宮司 謙次 専務 多胡 秀藏 監査 遠原 壽一 常務 山口 俊彦 監査 望月 勇一 近藤 静郎 監査 楊井 乙彦
【株主数】	五年下 十五年上 十五年下 總数(名) 一、七九八 一、七九五
【大株主】	安田銀行 四、七〇〇 高橋 是賢 三、三〇〇 望月 勇一 一、五〇〇 安田生命 一、八〇〇 多胡 秀藏 一、〇〇〇 日本農工銀行 一、〇〇〇 東京火災保險 一、〇〇〇 第一農工銀行 一、〇〇〇 九十八銀行 一、〇〇〇 帝國海上火災 一、〇〇〇
【事業規模】	商工省指定工場 工場所在地 東京(大崎、多摩川) 神奈川縣藤澤 神奈川縣鎌倉市(建設中)
【特色】	本邦ベアリング製作界に於ける最優秀會社
【取引銀行】	安田銀行、第一銀行
【資本異動】	十三年七月、十月、十四年五月、八月(最終)各三圓五拂込徴収、十五年四月三圓五拂込徴収

【資産負債】	十二月 十四年 十五年
株主資本	21,678 21,678 21,678
外部負債	1,000 1,000 1,000
社債	1,000 1,000 1,000
流動負債	1,000 1,000 1,000
流動資産	1,000 1,000 1,000
固定資産	1,000 1,000 1,000
現金預金	1,000 1,000 1,000
【收支動向】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十三年中 十三年末 十三年初
収入	1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000
【名義書換】	十 十 十

【設立】	昭和九年三月
【決算期】	二月、八月
【事業】	ボール、ベアリング、ローラ
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	新 100,000 旧 100,000
【重役】	社長 丹 羽 昇 取締役 佐田保一郎 専務 水木善四郎 取締役 木下 茂 常務 西園 富吉 監査 早瀬大郎 寺田 基吉 監査 大森吉五郎 長谷川 貫一 監査 岸本五兵衛
【株主数】	五年下 十五年上 十五年下 總数(名) 一、七九八 一、七九五
【大株主】	丹羽 昇 三、三〇〇 三和銀行 三、三〇〇 丹池信託 一、〇〇〇 野村信託 一、〇〇〇 住友信託 一、〇〇〇 山一證券 一、〇〇〇 日本生命 一、〇〇〇 安田信託 一、〇〇〇
【事業規模】	桑名工場 三重縣桑名市内堀 旋盤工場 三重縣桑名市其他 武庫川工場 兵庫縣武庫郡良之村
【事業成績】	十五年上 十五年下 十五年末 十五年初
【投資會社】	滿洲ベアリング製造
【取引銀行】	三井、住友、第一、安田、三井の諸銀行
【資本異動】	十四年三月昭和ベアリング合併、十五年三月合併新五圓拂込徴収

【資産負債】	十四年 十五年
株主資本	21,678 21,678
外部負債	1,000 1,000
社債	1,000 1,000
流動負債	1,000 1,000
流動資産	1,000 1,000
固定資産	1,000 1,000
現金預金	1,000 1,000
【收支動向】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十三年中 十三年末 十三年初
収入	1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000 1,000 1,000 1,000
【名義書換】	十 十 十







【機械製作業】

### 栗本鐵工所

【設立】昭和九年五月  
【決算期】昭和三年、九月

【成績良好】去る三ヶ月は利益金百四十六萬七千圓をあげ、拂込資本に對する利益率は四割四分二厘であつた。之を前期に比較すると利益率は約二分の低下となるが、之は増資による拂込資本の膨脹があつた爲めで、成績がしかく悪化した爲めではないと云つてよい。一割配當は決して窮乏でない。

【前途】擴張工事は比較的順調に進んでゐる。滿洲栗本鐵工の擴張も、大體豫定通りに進行してゐる。擴張状況からみて、まだ拂込徴收を續行の筋合にあるが、當社の収益力は優秀だから、一割配當は當分續けて行ける見込みだ。

(本社) 大阪市大正區新炭屋町七七(電機川一六八〇ノ六)

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000	【株數】新 100,000 舊 100,000
【重役】社長 栗本勇之助 常務 川谷恒規 取締役 阿部政次郎 阿部政次郎 阿部政次郎 阿部政次郎 阿部政次郎	【株主資本】二十四年 九十四萬九千九百九十九圓 二十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【大株主】十五年三月期 栗本勇之助 栗本勇之助 栗本勇之助 栗本勇之助 栗本勇之助	【外債】外部負債 二十四年 九十四萬九千九百九十九圓 二十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【工場】大阪府大阪市大正區新炭屋町七七	【流動資産】流動資産 二十四年 九十四萬九千九百九十九圓 二十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【事業成績】十四年上 六六六、七九七、九二五 十五年上 六六六、七九七、九二五	【株價】(實物) 十四年上 六六六、七九七、九二五 十五年上 六六六、七九七、九二五
【名義書換】十錢 新券交附 三十錢	

### 東京製網

【設立】明治二十年二月  
【決算期】五月、十一月

【適正配當率】當社は鋼線、鋼索、マニラ・ロープの製作で我が國の最高峰にある。勢ひ軍部との関係も他の同業會社より遙に密接で利潤統制の影響も多いが、今の處そのため配當維持に支障を生ずるとは考へられない。株金以上の積立金を持つてゐるので、機械工業會社の平均利回り五分五厘を基準に算定した推定適正配當率は一割四、五分になり、現行配當を遙に上廻る。

【原料難加はる】尤も原價計算に於てどんな取扱を受けるか判らぬし、特殊ワイヤ・ロッド、マニラ麻等の原料手當にも困難がある。が現行配當は先づ安定性あるものと見てよい。

(本社) 東京市日本橋區吳服橋三ノ五横町ビル内(電日本橋二五二一)

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000	【株數】新 100,000 舊 100,000
【重役】社長 赤松一 常務 赤松一 取締役 赤松一 赤松一 赤松一 赤松一 赤松一	【株主資本】十四年 九十四萬九千九百九十九圓 十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【大株主】十四年十一月期 赤松一 赤松一 赤松一 赤松一 赤松一	【外債】外部負債 十四年 九十四萬九千九百九十九圓 十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【工場】別年産能力 十一年下期現在	【流動資産】流動資産 十四年 九十四萬九千九百九十九圓 十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【事業成績】十四年上 六六六、七九七、九二五 十五年上 六六六、七九七、九二五	【株價】(實物) 十四年上 六六六、七九七、九二五 十五年上 六六六、七九七、九二五
【名義書換】五錢 新券交附 二十錢	

### 愛知時計電機

【設立】明治三十一年六月  
【決算期】五月、十一月

【拂込・増資】庄内川尻の新工場建設資金の一部を賄ふべく、六月一日新株拂込總額五百九十七萬圓を徴収した。更に資金の必要に迫られ、シンヂケート團から千四百萬圓を借入れるべく折衝中この程話が纏つた。新工場の建設を俟つて借入金は増資によつて振替へられることにならう。事業の特殊的性質から、利潤統制の適用を考慮に入れても、八分配當は安泰と見られる。

【市場性増す】由來當社は定款に徴し、株式裏書譲渡は重役會の嚴格な決議を必要としたが、五月初旬再諮議の結果、當該定款を削除したので、これからの當社株はそれだけ市場性がつけられよう。

(本社) 名古屋市熱田區千手船方一五(電南局七三)

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000	【株數】新 100,000 舊 100,000
【重役】社長 青木謙太郎 常務 青木謙太郎 取締役 青木謙太郎 青木謙太郎 青木謙太郎 青木謙太郎	【株主資本】十四年 九十四萬九千九百九十九圓 十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【大株主】十四年十一月期 青木謙太郎 青木謙太郎 青木謙太郎 青木謙太郎 青木謙太郎	【外債】外部負債 十四年 九十四萬九千九百九十九圓 十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【工場】名古屋築港四號地(發動機)	【流動資産】流動資産 十四年 九十四萬九千九百九十九圓 十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【事業成績】十四年上 六六六、七九七、九二五 十五年上 六六六、七九七、九二五	【株價】(實物) 十四年上 六六六、七九七、九二五 十五年上 六六六、七九七、九二五
【名義書換】十錢 新券交附 三十錢	

### 川西航空機

【設立】昭和三年十一月  
【決算期】三月、九月

【増資近し】當社は目下鳴尾工場の隣接地に新工場を建設中だし、またこれと併行して阪神沿線深江に補助工場の建設を急いで居る。一方、中國筋にも分工場を設置すべく準備を進めて居るから、これ等の擴充資金を調達するためには差當つて倍額程度の増資は不可避で、それは遅くも秋頃迄には實現を見られると思ふ。

【順調】資材、原料の不足状態は、當社にも無論影響するけれども、航空機事業法に基き許可會社であつて見れば、優遇を受けるところ妙くあるまい。また利潤統制にしても、當社の場合は別に大した打撃ともならず、現配當は當面充分維持可能だ。

(本社) 兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾字大東

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000	【株數】新 100,000 舊 100,000
【重役】社長 川西龍三 常務 川西龍三 取締役 川西龍三 川西龍三 川西龍三 川西龍三	【株主資本】十四年 九十四萬九千九百九十九圓 十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【大株主】十五年三月期 川西龍三 川西龍三 川西龍三 川西龍三 川西龍三	【外債】外部負債 十四年 九十四萬九千九百九十九圓 十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【工場所在地】北支那開發、中支那振興、大日本航空	【流動資産】流動資産 十四年 九十四萬九千九百九十九圓 十五年 九十四萬九千九百九十九圓
【事業成績】十四年上 六六六、七九七、九二五 十五年上 六六六、七九七、九二五	【株價】(實物) 十四年上 六六六、七九七、九二五 十五年上 六六六、七九七、九二五
【名義書換】十錢 新券交附 五十錢	

【機械製作業】















〔機械製作業〕

### 日本樂器製造

〔設立〕 明治三十年十月  
〔決算期〕 五月、十一月  
〔本社〕 静岡県濱松市中澤町二五〇（電濱松三六〇一四）  
〔支社〕 東京市京橋區銀座七ノ一（電銀座二二三）

〔擴張相次ぐ〕 明年九月完成目標の擴張計畫は着々進み、その一部は既に操業を開始し新規時局事業へのスタートを切つた。一方プロペラの増産に相俟ちベニヤ部門も天龍工場へ移轉後はその生産力を三倍に擴大、木工家具部門も軍需關係が嵩んで手一杯、樂器もまた獨逸品の世界的後退によつて繁忙を招來した。

〔利潤統制〕 資本金八百七十萬圓は全額拂込済となつてゐる。手許資金潤澤で差當りの賄ひはつくにしても、相次ぐ擴充資金の調達に増資は時期の問題とみてよい。本年上期の製品賣上高は一千万圓を超えるの好調。利潤統制を考慮しても一割配當に不安はない。

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込済 870,000

【株数】 10,000 株

【重役】 社長 川上嘉市 常務 林慶吉 取締役 中村圓一郎 中村藤吉 原四郎 中島又三 千谷虎雄 監査 小竹謙之助 山葉良雄

【大株主】 十四年十一月期 五名名  
濱松銀行 四七五,000 住友金庫工業 五〇,〇〇〇  
住友本社 三〇〇,000 住友生命 五〇,000

【事業規模】 本社工場 静岡県濱松市  
分工場 静岡県濱松市飯田村  
【事業成績】 十四年上期 十四年下期  
賣上高(千圓) 六,八六六 六,八三三  
材料及仕入品(千圓) 六,八三三 六,八三三

【名義書換】 五錢 〔新券交付〕 二十五錢

【資産負債】 十二年 十四年 十四年

株主資本 八四三,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇

外部負債 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

使用總資本 八五三,〇〇〇 一,〇一〇,〇〇〇 一,〇一〇,〇〇〇

流動資産 三三六,〇〇〇 三三六,〇〇〇 三三六,〇〇〇

固定資産 五一七,〇〇〇 六七四,〇〇〇 六七四,〇〇〇

平均拂込 九三九,〇〇〇 九三九,〇〇〇 九三九,〇〇〇

【業績】 平均拂込 利益率 配當率

十四年下期 四,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

十四年上期 五,六六六 二九,〇〇〇 一〇〇

十五年下期 六,七五五 二九,〇〇〇 一〇〇

十五年上期 六,七五五 二九,〇〇〇 一〇〇

【株價】 (實物) 高値 安値

十四年中 八三〇 七二〇

十五年中 八三〇 七二〇

### 日本ピストンリング

〔設立〕 昭和九年十二月  
〔決算期〕 六月、十二月  
〔本社〕 東京市芝區新橋田町一七（電銀座三〇一〇二）

〔最終拂込徴収〕 去る四月一日、一株十二圓五十錢、總額七十五萬圓の最終拂込を徴収し、全額拂込済となつた。目下擴張中の與野、川口の二工場は、今後も引續き擴張する計畫であるから、再増資は必至である。今夏頃最低倍額の増資が行はれよう。計畫によれば、倍半増資が必要だが、最近の金融情勢等よりして、倍額と見ておいた方が妥當であらう。

〔材料はどうか〕 リング素材の鑄鐵の供給も今後窮屈を豫想されるが、リング一本の所要量は僅かであり、而も重要な製品なるが故、配給量は確保される。たゞ建設資材供給は遅延を免れぬ。

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込済 600,000

【株数】 10,000 株

【重役】 社長 鈴木友調 取締役 山田清太郎 常務 田所 隆一 監査 遠山 忠勇 香取 俊太郎 野口清三郎 池田 杉二 野口清三郎

【大株主】 十四年十二月期 三名名  
田所 隆一 八八,〇〇〇 仁壽生命 六〇,〇〇〇  
鈴木友調 五七,〇〇〇 勝村市太郎 二〇,〇〇〇

【事業規模】 工場所在地 川口市  
製造品 航空機 自動車 その他  
エンジン、デゼルエンジン 其他

【事業成績】 十四年上期 十四年下期  
賣上高(千圓) 一,六五五 一,六五五

【名義書換】 十錢 〔新券交付〕 五十錢

【資産負債】 十二年 十四年 十四年

株主資本 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇

外部負債 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇

使用總資本 四,〇〇〇 四,〇〇〇 四,〇〇〇

流動資産 一,七三三 一,七三三 一,七三三

固定資産 二,二六七 二,二六七 二,二六七

平均拂込 二,九三三 二,九三三 二,九三三

【業績】 平均拂込 利益率 配當率

十四年下期 二,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

十四年上期 二,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

十五年中 二,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

【株價】 (實物) 高値 安値

十四年中 八三〇 七二〇

十五年中 八三〇 七二〇

### 小糸製作所

〔設立〕 昭和十一年四月  
〔決算期〕 三月、九月  
〔本社〕 東京市品川區東品川四ノ二（電高輪三九一〇二）

〔利潤統制の影響〕 當社の製作品は各種の照明機器であるが、最近の車輛不足に對處する爲の車輛の増産計畫とか、自動車の増産計畫等で益々當社の事業は忙しくなる。此の點非常に結構な話だが特殊照明器等々直接軍に納入する製品も少くないので、陸軍の利潤統制にも縛られざるを得ない。全製品を軍に納入するものと仮定して、當社の收め得る利潤を計算すると、配當に向け得る部分は僅少で、七分配當しか出来ない事になる。現行九分配當に比し二分低いから、民間への供給品も相當あるし、最近の業績は増配すら見込まれるものだから、減配の心配はないものと思ふ。

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込済 1,000,000

【株数】 10,000 株

【重役】 社長 小糸源六郎 取締役 池田 貞助 常務 山本 信吾 監査 森下 和廣 小糸榮一郎 監査 岩下 廣

【大株主】 十四年九月期 五名名  
小糸源六郎 三三〇,〇〇〇 川島屋商店 三三〇,〇〇〇  
山本 信吾 三三〇,〇〇〇 山本 俊子 三三〇,〇〇〇

【事業規模】 工場 品川

【投資會社】 眞空鏡工、大陸交通器材

【名義書換】 五錢 〔新券交付〕 五十錢

【資産負債】 十二年 十四年 十四年

株主資本 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇

外部負債 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇

使用總資本 四,〇〇〇 四,〇〇〇 四,〇〇〇

流動資産 一,七三三 一,七三三 一,七三三

固定資産 二,二六七 二,二六七 二,二六七

平均拂込 二,九三三 二,九三三 二,九三三

【業績】 平均拂込 利益率 配當率

十四年下期 二,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

十四年上期 二,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

十五年中 二,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

【株價】 (實物) 高値 安値

十四年中 八三〇 七二〇

十五年中 八三〇 七二〇

### 日本光機工業

〔設立〕 大正八年七月  
〔決算期〕 三月、九月  
〔本社〕 横浜市鶴見區潮田町一四二（電鶴見三二一〇二）

〔三月期低調〕 三月末締切りの決算は餘りよいものでなかつた。純益金は十九萬二千圓で、前の期より二萬七千圓程増加はしてゐるが、純益率は一割四分三厘から、一割三分六厘へと低下してゐる。資本負擔加重の當然の結果であり、一割配當は大分窮屈化した。

〔九月期如何〕 九月期は増設分が收穫期には入るので増益するであらう。當社製品は特殊向けが多いから、原料の配給も割合に多く受けられるからだ。只特殊向けが多いだけに利潤統制の影響を受け、今日の如き一割と言ふ高率配當は出来なくなる危険があることを忘れてはならぬ。記者の計算では大體七、八分見當となる。

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込済 1,000,000

【株数】 10,000 株

【重役】 社長 安田彦四郎 取締役 若月 謙 常務 河路 實三郎 監査 柳下 勤 安田 保善 若月 謙 若月 謙 若月 謙

【大株主】 十五年三月期 三名名  
安田彦四郎 三三〇,〇〇〇 安田 保善 三三〇,〇〇〇  
若月 謙 三三〇,〇〇〇

【事業規模】 本社工場、神奈川分工場、横濱機軸製作  
工場 元々 三三〇,〇〇〇 三三〇,〇〇〇

【投資會社】 眞空鏡工、大陸交通器材

【名義書換】 五錢 〔新券交付〕 五十錢

【資産負債】 十二年 十四年 十四年

株主資本 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇

外部負債 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇

使用總資本 四,〇〇〇 四,〇〇〇 四,〇〇〇

流動資産 一,七三三 一,七三三 一,七三三

固定資産 二,二六七 二,二六七 二,二六七

平均拂込 二,九三三 二,九三三 二,九三三

【業績】 平均拂込 利益率 配當率

十四年下期 二,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

十四年上期 二,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

十五年中 二,九三三 二九,〇〇〇 一〇〇

【株價】 (實物) 高値 安値

十四年中 八三〇 七二〇

十五年中 八三〇 七二〇

〔機械製作業〕



〔機械製作業〕

### 日新電機

〔設立〕大正六年四月  
〔決算期〕四月、十月

(本社) 京都市右京区梅津高島町二〇(電京都型九一四)  
(支社) 京都市鶴町區丸之内海上ビル(電丸之内五〇元)

【四月期増益】四月期の計上利益金は二十一萬二千圓、對平均拂込資本利益率は二割四分二厘で、八分配當の据置に問題なかつた。昨年十二月の最終拂込徴収で、資本負担は加重したが、利益金は昨年同期に比し四萬三千圓(二割五分)の増加となつたので、利益率は微増してゐる。償却金も下期に比し増額し、利益金處分も概ねゆとりを増してゐる。

【倍額増資問題】本社工場の第三次擴張工事も著しく進捗したから、今後は可成りの賣上増にめぐまれる筋合で、業績に不安はない。申請中の倍額増資は遠からず實現しさうだ。

【資本金】	10,000	10,000	10,000
【株数】	100,000	100,000	100,000
【役員】	社長 岩田 貞吉	取締役 岩田 貞吉	取締役 岩田 貞吉
【大株主】	岩田 貞吉	岩田 貞吉	岩田 貞吉
【事業規模】	工場所在地 京都、東京		

### 宮田製作所

〔設立〕昭和九年一月  
〔決算期〕五月、十一月

(本社) 京都市蒲田區六郷二ノ一九(電蒲田元三三)

【業績】近來の當社業績をみると利益率三割三分乃至三割六分を以つて一割配當を据置いて來た。従つて、償却も仲々手堅い。此の業績好調は××需要の航空機部品部の活躍に負ふ處が多いと同時に、近來に於ける擴張資金の大部分を株主資本に依らず、専ら借入金に依存した迄も見逃せない。

【見通し】だが、これからの擴張資金は株主資本を利用せずばなるまいから、結局近く増資實現の筋合になる。即ち、資本負擔の壓迫から業績の低下を免れ難いわけだが、他方、利潤統制の影響も考慮すれば、矢張り、從來の如き高利益率は訂正されるだらう。

【資本金】	10,000	10,000	10,000
【株数】	100,000	100,000	100,000
【役員】	社長 宮田 貞吉	取締役 宮田 貞吉	取締役 宮田 貞吉
【大株主】	宮田 貞吉	宮田 貞吉	宮田 貞吉
【事業規模】	工場所在地 京都、大分、福岡		

### 石井鐵工所

〔設立〕大正八年十一月  
〔決算期〕四月、十月

(本社) 京都市鶴町區有樂町一東日會館二階(電丸之内五三)

【上期三分減配】當社は四月期配當を三分減の一割二分と改めた。理由は専ら政策的見地に基き、成績悪化に依るのではない。受託は依然旺盛で、四月期末受託總額は三千四百四十八萬圓に上り、二年余の製作能力を充たして余りある。が、材料の配給不圓滑は著しく、製作引渡高は五百五十萬圓に止まり、製品益は百五十萬八千圓と前期に比し三萬九千圓の増だが、利益率は四割一分達する。

【拂込接近】蒲田月島第二工場擴張は完成し近く運轉するが、資金は手當済みだ。吉村式水素製造用觸媒も月末に事業化する豫定で、所要資金は三百萬圓に上るから拂込徴収も近い。

【資本金】	10,000	10,000	10,000
【株数】	100,000	100,000	100,000
【役員】	社長 石井 貞吉	取締役 石井 貞吉	取締役 石井 貞吉
【大株主】	石井 貞吉	石井 貞吉	石井 貞吉
【事業規模】	工場所在地 京都、東京		

〔機械製作業〕

### 荏原製作所

〔設立〕大正九年五月  
〔決算期〕五月、十一月

(本社) 京都市蒲田區羽田三丁目一三四一(電大森八三二)  
(営業所) 京都市鶴町區丸之内ビル(電丸之内三三)

【倍額増資】當社は去る五月一日一株廿五圓、總額三百五十萬圓の拂込を徴収したが、これで資本金は一千万圓の拂込済となり、引續き倍額増資が認可された。増資第一回拂込は九月一日に、一株十二圓半を徴収する豫定である。尚、此處で特筆すべきは、現行一割二分配當が、倍額増資の認可にも拘らず、當局から認められたことだ。

【擴張】五月一日に徴収した三百五十萬圓の拂込金は、羽田工場に於て人造石油の機械製造を目的とする工場増設費に充てられ、また増資々金は新設川崎工場に振向けられる。唯だ、川崎工場の完成期は明年末になるので、その間未働資本の壓迫は免れない。

【資本金】	10,000	10,000	10,000
【株数】	100,000	100,000	100,000
【役員】	社長 荏原 貞吉	取締役 荏原 貞吉	取締役 荏原 貞吉
【大株主】	荏原 貞吉	荏原 貞吉	荏原 貞吉
【事業規模】	工場所在地 京都、大分、福岡		



【機械製作業】

### 櫻田機械製造所

【設立】明治二十六年  
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市城東區北砂町六ノ五七(電本所三六八)  
(營業所) 東京市京橋區銀座櫻田ビル(電京橋〇二七)

【配當】前輯記者は、當社の一割二分配當は次の如き理由から引下げられる恐ありと述べた。即ち、重點主義必至の情勢から業績低下懸念にあり、且つ監督當局に於ても、一割二分配當は高率との理由から機會ある毎に減配を懲罰するだらうから、と。

【結局減配か】而も、利潤統制の發表から愈々當社の二分減配懸念は濃厚だ。それに、當社自身にしても、今後引續き拂込の徴収が想像されるのだから、此の際進んで二分減配し、資産内容に弾力性を付けることが肝要である。尚、子會社滿洲櫻田機械の設立認可は未だに下りないが、近く認可の模様である。

【資本金】公稱 〇〇〇〇 拂込済 〇〇〇〇

【株数】新(〇〇〇) 舊(〇〇〇)

【重役】社長 櫻田千太郎  
専務 小島 亮平 取締役 宮城重三郎  
取締役 河野 哲夫 監査 池田重三郎  
馬渡 操 兒玉 靜雄

【大株主】十四年十一月期  
櫻田千太郎 〇〇〇〇〇  
小島 亮平 〇〇〇〇〇  
高柳 房吉 〇〇〇〇〇  
洋灰機械起重機 〇〇〇〇〇  
津梁並鐵骨 〇〇〇〇〇  
洋灰機械起重機 〇〇〇〇〇

【事業成績】十三年下 十四年上 十四年下  
賣上高(千圓) 二六〇九 二九〇五 三三〇三  
製造費(千圓) 二一八四 二二四五 二五〇〇  
【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】

株主資本 三三〇〇〇  
外部負債 二五〇〇〇  
使用總資本 五八〇〇〇  
固定資産 一四〇〇〇  
流動資産 四四〇〇〇

【業績】平均拂込 利益率 配當率  
十三年上 二二五〇 三三〇 二二・二  
十三年下 二二五〇 三三〇 二二・二  
十四年上 二二五〇 三三〇 二二・二  
十四年下 二二五〇 三三〇 二二・二

【株價】(實物) 高値 安値  
十四年中 八八 三三  
十五年中 九〇 三三  
五四月 九〇 三三  
五五月 九〇 三三

### 月島機械

【設立】大正六年五月  
【決算期】四月、十月

(本社) 東京市京橋區月島通五ノ九(電京橋六〇一六)

【當社の内容】當社の特色はその經營の堅實さにある。化工機械の製造を中心に軍需品の製作も行つてゐる。時局の影響を蒙つて原料、勞力等の不如意は止むを得ないとしても、三菱系統の諸會社との關聯も厚く、技術も優秀である。

【見透し】四月期利益金は二十九萬六千餘で、昨年同期に比し小額の減少となつてゐるが、依然として四割強の利益率を挙げ、一割二分配當を据置いてゐる。今後は鶴見新工場能力も増加し、滿洲國には出張所開設を目論んでをり、第三國向輸出機械の研究並に製作にも力を注ぐことになるから、業績の維持に心配はない。

【資本金】公稱 〇〇〇〇 拂込 〇〇〇〇

【株数】新(〇〇〇) 舊(〇〇〇)

【重役】會長 大倉 發身 取締役 小川 只治  
専務 宮崎 好文 取締役 田川 六郎  
常務 黒板 駿策 監査 今井 善八郎  
取締役 木村 正五 岡田 金之助

【大株主】十四年十月期  
大倉 發身 〇〇〇〇〇  
黒板 駿策 〇〇〇〇〇  
田川 六郎 〇〇〇〇〇  
大倉 發身 〇〇〇〇〇  
黒板 駿策 〇〇〇〇〇  
田川 六郎 〇〇〇〇〇

【工場別年産能力】月島 〇〇〇千圓  
鶴見 〇〇〇千圓

【名義書換】十錢【新券交付】三十錢

【資産負債】

株主資本 二五〇〇〇  
外部負債 二五〇〇〇  
使用總資本 五〇〇〇〇  
固定資産 一八〇〇〇  
流動資産 三二〇〇〇

【業績】平均拂込 利益率 配當率  
十三年上 一四〇〇 二二六 一六・二  
十三年下 一四〇〇 二二六 一六・二  
十四年上 一四〇〇 二二六 一六・二  
十四年下 一四〇〇 二二六 一六・二

【株價】(實物) 高値 安値  
十四年中 五五 三三  
十五年中 五五 三三  
五四月 五五 三三  
五五月 五五 三三

【機械製作業】

### 國産電機

【設立】昭和六年七月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市豊島區高田南町三ノ七七(電牛込三五一八)

【拂込】去る五月廿日、二百七十萬圓増資新株の第二回拂込一株に付廿圓を徴収した。下落合に本社工場の分工場を設置し、原町工場は今秋完成豫定の下に擴張を行ひ、第二國産電機も擴充され、更に滿洲國産電機(資本金三百萬圓—株式七割を當社保有)の設立も目睫に迫つてゐる。右拂込金は其等資金に當てられる。

【成績】航空機及自動車工業の發展によりマグネットの需要は急増してをる。材料も殆ど官給だから手當の懸念は少い。上期も九分配當を踏襲した。増配期待薄乍ら、秋迄には最終拂込十七圓半を一舉に徴する見込で、早晚再増資に進むものと思はれる。

【資本金】公稱 〇〇〇〇 拂込 〇〇〇〇

【株数】新(〇〇〇) 舊(〇〇〇)

【重役】社長 若井 豐治 取締役 加藤 正俊  
取締役 阿部 一郎 監査 山本 義民  
徳川 守 野村 轉  
佐藤 柱助

【大株主】十四年十一月期  
若井 豐治 〇〇〇〇〇  
大川又三郎 〇〇〇〇〇  
岩井 英夫 〇〇〇〇〇  
加藤 正治 〇〇〇〇〇

【工場】本社、静岡縣原町、奉天

【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】

株主資本 三三〇〇〇  
外部負債 二五〇〇〇  
使用總資本 五八〇〇〇  
固定資産 一四〇〇〇  
流動資産 四四〇〇〇

【業績】平均拂込 利益率 配當率  
十三年上 二二五〇 三三〇 二二・二  
十三年下 二二五〇 三三〇 二二・二  
十四年上 二二五〇 三三〇 二二・二  
十四年下 二二五〇 三三〇 二二・二

【株價】(實物) 高値 安値  
十四年中 八八 三三  
十五年中 九〇 三三  
五四月 九〇 三三  
五五月 九〇 三三

### 横山工業

【設立】昭和十一年五月  
【決算期】四月、十月

(本社) 東京市豊島區内幸町二ノ二(電銀座三三三〇)

【擴張】擴張は依然活潑に續行中である。城東區に於ける大島各工場の擴張と併行して川崎工場の改・増築も急がれ、大分完成をみて居る。云ふ迄もなく當社は横山機械會社であるが、右の擴張分には兵器、鐵道、製鋼、製鐵の各工場の新設或ひは擴張が含まれる。これが擴張資金調達のため、近く第三回の拂込を徴収するが、引續き最終拂込を取る意圖である。もちろん、擴張の規模から推して、再増資を目論む模様だが、當社が従來経験した様に、擴張なり、資本増大なりが、これからは容易に運行しないことは注意を要する。

【資本金】公稱 〇〇〇〇 拂込 〇〇〇〇

【株数】新(〇〇〇) 舊(〇〇〇)

【重役】會長 吉村 有造 社長 横山 三浦嘉  
常務 船橋 武雄 取締役 三浦 嘉  
岡田 實 須田 政道 吉田 勇三 監査  
吉田 義輝 須田 政道 八田 理

【大株主】十四年十月期  
山一證券 〇〇〇〇〇  
山一證券 〇〇〇〇〇  
山一證券 〇〇〇〇〇

【工場所在地】城東區大島町、川崎市

【事業】鑄山、製糖、製紙、洋灰、土木、輸送用機械、起重機、唧筒其他

【資産負債】

株主資本 二五〇〇〇  
外部負債 二五〇〇〇  
使用總資本 五〇〇〇〇  
固定資産 一八〇〇〇  
流動資産 三二〇〇〇

【業績】平均拂込 利益率 配當率  
十三年上 一四〇〇 二二六 一六・二  
十三年下 一四〇〇 二二六 一六・二  
十四年上 一四〇〇 二二六 一六・二  
十四年下 一四〇〇 二二六 一六・二

【株價】(實物) 高値 安値  
十四年中 五五 三三  
十五年中 五五 三三  
五四月 五五 三三  
五五月 五五 三三



【機械製作業】

### 東洋機械

【設立】昭和十四年一月  
【決算期】四月、十月  
(本社) 大阪市北區宗是町一 大阪ビル(電土佐橋製元大)

【拂込・増資】去る六月一日第三回拂込として總額三百七十五萬圓を徴収したが、廣島縣祇園町の新工場を完成するには尙ほ尠からぬ資金を要するため、結局最終拂込を徴収するか、或ひは未拂込を残したまゝ倍額程度の増資を行ふことになるかも知れぬ。認可を得て見なければ判らぬこと乍ら、前途膨脹氣構の状況にあることは確實であらう。

【強味】高精度旋盤に於て定評があり、許可會社である點は強味と云つてよい。原材料需給の逼迫、利潤統制等々向上を阻む材料も多いが、八分配當を維持する位の業績は裕に擧げ得よう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,125,000

【株数】(株) 100,000

【重役】  
社長 小野 耕一 取締役 岸本 彦衛  
専務 高崎 達之助 監査 平塚 常次郎  
常務 野澤 弘幸 監査 勝田 永吉  
取締役 和田 義一 監査 中山 克巳  
取締役 間島 季道 小林 高佐雄

【大株主】十四年九月份  
東洋鋼板 10,000 東洋製 7,000  
田附政治郎 6,250 日本生 命 5,000

【工場】廣島縣安佐郡祇園町  
【事業】機械器具製造  
【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢

【資産負債】十四年 十四年

株主資本 4,000,000 8,131,000

外部負債 3,750,000 3,750,000

使用総資本 3,750,000 3,750,000

流動資産 3,840,000 9,180,000

固定資産 3,900,000 9,180,000

流動負債 3,900,000 9,180,000

固定負債 3,900,000 9,180,000

平均拂込 2,750,000 2,750,000

十四年中 哭 5 23.5 安値

十四年中 哭 5 23.5 安値

十五年 哭 5 23.5 安値

十五年 哭 5 23.5 安値

### 金城鑿岩機製造

【設立】昭和三年十月  
【決算期】三月、九月  
(本社) 名古屋市南區江戸町三ノ三三五

【増資・擴張】資源開發の第一線を行く當社は、現在資本金二百五十萬圓から一舉一千萬圓への増資案を撤回し、目下二倍四分の六百萬圓増資案を申請中である。この資金は、現工場隣接地に設立豫定の第二工場建設費と金城工業その他の傍系會社の擴張に充當する。最近日本精工(京城・資本金百萬圓)の株式を大半買収したことは、大陸進出計畫の具體化として注目される。

【業績】十四年下期利益率は三割二厘で、相變らず三割を持續してゐる。増資後の配當が、現行一割五分を維持出来るかどうか疑問である。今後の業績も資源開發と相俟つて好調を辿るであらう。

【資本金】公稱 2,000,000 拂込 2,000,000

【株数】(株) 200,000

【重役】  
社長 今岡 正一 監査 川吉 村  
取締役 藤井 三郎 監査 岡本 保治  
取締役 高田 三吉郎 監査 正樹 吉  
取締役 岡野 三郎 監査 小林 兵衛

【大株主】十五年三月份  
今岡正一 1,627,000 山崎 丈夫 312,000  
高田三太郎 2,800 小西 信藏 1,750  
金城工業 2,000 桑原 善吉 1,500

【事業】鑿山及土木用機械器具並兵器  
製作修理販賣

【資産負債】十四年 十四年 十五年

株主資本 1,180,000 1,180,000 1,180,000

外部負債 1,500,000 1,500,000 1,500,000

使用総資本 1,500,000 1,500,000 1,500,000

流動資産 1,500,000 1,500,000 1,500,000

固定資産 1,500,000 1,500,000 1,500,000

流動負債 1,500,000 1,500,000 1,500,000

固定負債 1,500,000 1,500,000 1,500,000

平均拂込 1,500,000 1,500,000 1,500,000

十四年中 哭 5 23.5 安値

十四年中 哭 5 23.5 安値

十五年中 哭 5 23.5 安値

十五年中 哭 5 23.5 安値

【機械製作業】

### 小松製作所

【設立】大正六年一月  
【決算期】六月、十二月  
(本社) 石川縣能美郡小松町字八日市  
(事務所) 東京市豊町區丸の内九ビル(電丸之内空二・八セ)

【擴張續行】去る三月一日に新株に二百萬圓(一株廿圓)の拂込を徴収した。小松、栗津兩工場の擴充を續行してゐるからで、資金計畫よりすれば、未拂込全額の年内徴収も氣構へられる。尙ハ爾資のトラクター工場の擴張並獨立組織化の方針もある。滿洲國の農業計畫に關聯する事業だから、發展性を持つてゐる。

【一割踏襲】當社は利益率高く、利潤算定率を當嵌めても、可能配當率は一割一分に近い。また固定資産回轉率は最近の擴張にも拘らず四一五回に及ぶ。六月決算も餘裕裡に一割配當が据置かれる。行先き増資しても、成績に關する限り減配の憂ひはない。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,175,000

【株数】(株) 100,000

【重役】  
社長 中村 稅 取締役 矢野 政義  
取締役 八十島 五郎 監査 各務 良幸  
取締役 森本 嘉一 監査 今村 信吉  
取締役 眞野 官一 監査 白石 多士良

【大株主】十四年十二月份  
住友生 命 1,000,000 日本生 命 600,000  
中村 稅 800,000 各務 良幸 600,000  
工場 石川縣小松町、栗津村、哈爾濱

【主要製品】鑄鋼、特殊鋼製品、兵器、  
プレスポンプ、バルブ、工作機械、  
【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢

【資産負債】十二年 十四年

株主資本 8,470,000 10,900,000

外部負債 6,850,000 6,850,000

使用総資本 6,850,000 6,850,000

流動資産 3,750,000 3,750,000

固定資産 3,100,000 3,100,000

流動負債 3,100,000 3,100,000

固定負債 3,100,000 3,100,000

平均拂込 2,750,000 2,750,000

十四年中 哭 5 23.5 安値

十四年中 哭 5 23.5 安値

十五年中 哭 5 23.5 安値

十五年中 哭 5 23.5 安値

### 小原鐵工所

【設立】昭和九年三月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 大阪市西淀川區佃町五五一(電福島天一九)  
(出張所) 東京市日本橋區吳服橋一三和ビル(電日本橋三〇元)

【重役陣の改選】前輯所報の通り、當社株總數の過半を東洋紡に於て保有することとなつたが、これによつて今同、重役陣の改選が行はれた。即ち取締役徳倉、中根、橋田、松本の四氏が辭任し、東洋紡系として専務に稻垣友枝氏、取締役に的場、西村、片岡の三氏、監査役に大野弘男氏の合計五名の新重役が就任した。かくて、當社は全く東洋紡の傍系會社として經營される。

【前途觀】佃本社工場の擴充、寶塚新工場の建設等も何うやら進んでゐる。技術は兎も角、設備機械は比較的新しい。東洋紡もこの點に目を付けて經營に乗出したのだから、將來は注目に値しよう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,180,000

【株数】(株) 100,000

【重役】  
社長 小原 敏一 取締役 松本 章  
取締役 九里 博武 監査 清水 喜三郎  
取締役 渡部 正治 監査 純 一

【大株主】十四年十一月份  
東洋紡 1,000,000 嘉納 正治 500,000  
渡部 正治 400,000 嘉納 純 300,000  
受託高(千圓) 1,000 嘉納 正治 500  
受託高(千圓) 1,000 嘉納 純 300  
引渡高(千圓) 1,000 嘉納 正治 500  
引渡高(千圓) 1,000 嘉納 純 300

【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢

【資産負債】十二年 十四年 十五年

株主資本 1,180,000 1,180,000 1,180,000

外部負債 1,500,000 1,500,000 1,500,000

使用総資本 1,500,000 1,500,000 1,500,000

流動資産 1,500,000 1,500,000 1,500,000

固定資産 1,500,000 1,500,000 1,500,000

流動負債 1,500,000 1,500,000 1,500,000

固定負債 1,500,000 1,500,000 1,500,000

平均拂込 1,500,000 1,500,000 1,500,000

十四年中 哭 5 23.5 安値

十四年中 哭 5 23.5 安値

十五年中 哭 5 23.5 安値

十五年中 哭 5 23.5 安値



【機械製作業】

### 加藤製作所

【設立】昭和十年一月  
【決算期】五月、十一月  
（本社）東京市品川區大井野町二二三三（電高輪二〇八）

【拂込増資】當社工場は大井、蒲田、千葉の三工場で、大井、蒲田兩工場は共に全能力で活動され、新鋭千葉工場の擴張は繼續中である。千葉工場は特殊製品と各種機關車の製造を目的とするが、既に第一期及第二期擴張を終り現在第三期擴張に進んで居る。第三期の擴張資金として約四百萬圓が豫定されてゐるが、これが資金調達の方法として此の夏に一株廿五圓の拂込が徴收される。だが、この總額は僅かに百萬圓でしかない。そこで、當然増資も斷行せねばならぬのだが、當局者もその意嚮で十一月頃には實現する模様だ。

【業績】拂込増資で資本負担は増大しても、一割配當は安泰。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 3,000,000	【株数】新 50,000 舊 200,000
【重役】社長 浦山助太郎 取締役 松下 榮 加藤秀三郎 常務 加藤辰次郎 監査 山下安太郎 松浦 文造 山岸計左助	【業績】平均拂込 利益率 配當率
【大株主】十四年十一月期 三六名	【株價】(實物) 株 安値 新 高値
【工場所在地】蒲田、千葉、大井	【資産負債】
【營業種目】ガソリン機關車、ディーゼル機關車、木炭瓦斯發生器	株主資本 1,200,000
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢	外部負債 3,500,000
	使用總資本 4,700,000
	固定資産 3,200,000
	流動資産 1,500,000
	十四年中 高値 安値 新 高値
	十五年中 高値 安値 新 高値
	十四年 高値 安値 新 高値
	十五年 高値 安値 新 高値

### 各和製作所

【設立】昭和九年五月  
【決算期】三月、九月  
（本社）東京市板橋區志村前野町一一一（電大塚五三）

【資本構成】宇都宮工場の第一期擴張は一段落付き、現在は第二期擴張を急いで居るが、當社は此の擴張費の大部分を借入金で賄つて来た。例へば、本年三月末の考課状に依ると、拂込資本百六十五萬圓に對し、借入金は約倍の三百二十萬圓に達する。如何にも借金の利用が多過ぎ、資本構成は不均衡だ。

【業績】従つて、これからの擴張資金は拂込徴收に依つて賄はねばなるまい。とすれば、最近決算に現れた如き利益率三割八分と云つた成績は、資本負擔増大の可能性からも、利潤統制の面からも、共に抑へられるものと覺悟せねばなるまい。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 10,000 舊 100,000
【重役】社長 各和 取締役 松井利三郎 和田 嘉衛 監査 森山 邦雄 取寄 和五郎 津田三郎 大株主 十五年三月期 八六名	【業績】平均拂込 利益率 配當率
【事業規模】板橋志村、陸海軍の指定工場、宇都宮、新設工場	【株價】(實物) 株 安値 新 高値
【營業種目】航空機部分品、兵器部分品、自動車部分品、精密螺子、其他一般精密機械	【資産負債】
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢	株主資本 1,200,000
	外部負債 3,500,000
	使用總資本 4,700,000
	固定資産 3,200,000
	流動資産 1,500,000
	十四年中 高値 安値 新 高値
	十五年中 高値 安値 新 高値
	十四年 高値 安値 新 高値
	十五年 高値 安値 新 高値

### 高砂鐵工

【設立】大正十二年十一月  
【決算期】五月、十一月  
（本社）東京市京橋區銀座四ノ三（電京橋三六・四〇）

【業績】物資統制の強化で原材料の入手が不如意な上に、昨夏以来の電力不足にたゞられて、昨年下半年業績は芳しくなかつた。即ち利益金六十七萬八千圓、利益率二割七分で、一割二分配當を据置いたのだから、此の種會社としては感心した成績ではない。

【見透し】尤も、昨年下半年は拂込資本の増加があつたから、収益状態そのものが急悪化したわけでないが、今後は原材料の不足が悩みの種となる。一方利潤統制の見地からも、當社の現行配當は高率に過ぎるので、好むと好まざるに拘らず、懸案の増資を機會に恐らく一割配當まで減配させられるのではあるまいか。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 50,000 舊 200,000
【重役】社長 原 邦造 取締役 喜多村實二 專務 砂谷 智博 柳町政之助 常務 關山 繁造 小川 久吉 取寄 關道 文彦 監査 原 駒井 三郎	【業績】平均拂込 利益率 配當率
【大株主】十四年十一月期 七六名	【株價】(實物) 株 安値 新 高値
【事業】計製作業	【資産負債】
【名義書換】十錢 【新券交附】三十錢	株主資本 1,200,000
	外部負債 3,500,000
	使用總資本 4,700,000
	固定資産 3,200,000
	流動資産 1,500,000
	十四年中 高値 安値 新 高値
	十五年中 高値 安値 新 高値
	十四年 高値 安値 新 高値
	十五年 高値 安値 新 高値

### 品川精機

【設立】昭和十一年十二月  
【決算期】五月、十一月  
（本社）東京市品川區東品川四ノ一〇（電高輪二〇三）

【新進會社】當社は創立が新しく資本金も少額だが、新進工作機メーカーとして注目されてゐる。經營者が經驗ある技術家であり、製作本位の操業を行ひ、優秀品の折紙をつけられてゐるからだ。低コストに自信を有することが何と云つても強味だ。

【増資含み】去る四月廿日の卅萬圓拂込で、資本金百五十萬圓全額拂込済みとなつた。工作機の許可會社たるの資格を得るためと、大型物及試作品の企業化のために目下倍額乃至三倍増資を計畫中だ。利潤統制の折柄、増資實現後は兎も角、當面の一割三分配當に懸念なし。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,100,000	【株数】新 37,500 舊 100,000
【重役】社長 池貝 哲夫 取締役 芝 周平 專務 池貝 次郎 監査 渡部 一夫 取寄 池貝 次郎 渡部 一夫	【業績】平均拂込 利益率 配當率
【大株主】十四年十一月期 七六名	【株價】(實物) 株 安値 新 高値
【事業】計製作業	【資産負債】
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢	株主資本 1,200,000
	外部負債 3,500,000
	使用總資本 4,700,000
	固定資産 3,200,000
	流動資産 1,500,000
	十四年中 高値 安値 新 高値
	十五年中 高値 安値 新 高値
	十四年 高値 安値 新 高値
	十五年 高値 安値 新 高値



【機械製作業】

### 鋼 板 工 業

【設立】大正十五年三月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 神奈川県川崎市九子一三五電田園調布(西丸)

【業績急低下】 當社の本年五月末決算は未だ発表されないうが、業績の急低下が想像される。産業界に於ける重點主義徹底化から當社の如き中小メーカーは材料の不圓滑に悩んで居ること、軍需品の單價引下げ並びに擴張過渡期から未働資本に壓迫され、特に價額約五十萬圓以上のクランク・プレス機が未だに充分運轉出來ぬこと等が減益理由となつてゐる模様だ。

【一分減配か】 先づ五ヶ月の利益率は一割二、三分見當に低下するのではなからうか。前期利益率に較べ四、五分の減少だ。とすれば二分減配か、少くとも一分減配は絶対免れぬだらう。

【資本金】	公稱 六〇〇,〇〇〇	拂込 四〇〇,〇〇〇
【株数】	新(五〇〇)	舊(一〇〇)
【重役】	代表 高橋治太郎	
常務	長 義 連 取締役 高橋 愛三	
	井口 定雄 常務 八幡 照三	
	黒川 多可 監査 逸見 知久	
【大株主】	十四年十一月期	
	丸之内興業三三〇〇 山武商會三三〇〇	
	逸見知久二六〇〇 石黒文吉二〇〇〇	
【事業規模】	工場敷地 一四、八九坪	建坪 四、四五坪
【工場敷地】	川崎鐵工	
【投資会社】	川崎鐵工	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 五十錢

【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇	拂込 二〇〇,〇〇〇
【株数】	新(五〇〇)	舊(一〇〇)
【重役】	代表 長谷川爲新	
常務	長谷川爲新 取締役 桑原 雅隆	
	石原 爲吉 取締役 小野 米二	
	木村 敬二郎 監査 秋山 茂四郎	
	江村 啓三 監査 小柳 六郎	
【大株主】	十四年十一月期	
	長谷川爲新三〇〇〇 木村敬二郎三〇〇〇	
	桑原商店三〇〇〇 石原爲吉三〇〇〇	
【事業規模】	工場敷地 一〇、〇〇坪	建坪 三、〇〇坪
【工場敷地】	東京市葛飾区	
【投資会社】	東京市葛飾区	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 五十錢

### 國 光 製 鎖 鋼 業

【設立】昭和九年五月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 大阪府住吉區濱口町四五(電機川六二五—六)

【増資期待】 當社は豫ねてより増資期待にあるが、最近愈々具體化する見込みだ。當局者の豫想によれば、三倍増資の申請に對し大體二倍半位に落付くのではないかと見てゐるらしい。

【前途】 當社の事業は特許「國光チェーン」を主力としてゐる。之は機械力によつて製造するもので、その設備は直に他の製品を造ることに轉換出来る。之が當社の強味である。重點主義強化の場合には、當社は當然その對象會社となるものだから、前途は安心してよからう。但し、二倍半増資の場合には、或は政策的に多少の減配を餘儀なくされるのではないかと思はれる。

【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇	拂込 二〇〇,〇〇〇
【株数】	新(五〇〇)	舊(一〇〇)
【重役】	代表 長谷川爲新	
常務	長谷川爲新 取締役 桑原 雅隆	
	石原 爲吉 取締役 小野 米二	
	木村 敬二郎 監査 秋山 茂四郎	
	江村 啓三 監査 小柳 六郎	
【大株主】	十四年十一月期	
	長谷川爲新三〇〇〇 木村敬二郎三〇〇〇	
	桑原商店三〇〇〇 石原爲吉三〇〇〇	
【事業規模】	工場敷地 一〇、〇〇坪	建坪 三、〇〇坪
【工場敷地】	東京市葛飾区	
【投資会社】	東京市葛飾区	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 五十錢

【機械製作業】

### 池 貝 自 動 車 製 造

【設立】昭和十二年六月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市對馬區有樂町東日會館(電九ノ内五六八)

【擴張は續く】 川崎市六郷工場の擴張は今年一杯で完成を見る筈だが、これとは別に、六郷川の埋立地三萬坪の買収を行ひ、ディゼル機關の専門工場を建設する筈だ。目下内務省に拂下げの申請中であるから速からず許可されよう。この建設には第一期として六、七百萬圓を投ずる筈だ。前の六郷工場の擴張費と合せると今後尙ほ相當の資金を必要とする。

【増資増配】 當然増資が要求されるが當局者は年末迄には倍額増資を實現せしめたい意嚮だ。八分への増配も軍當局が了解したと言ふから、或は十一月期には實現するかも知れぬ。

【資本金】	公稱 一〇〇,〇〇〇	拂込 一五〇,〇〇〇
【株数】	新(五〇〇)	舊(一〇〇)
【重役】	代表 池貝庄太郎	
常務	池貝 三郎	
	千葉恒次郎 取締役 正田善太郎	
	今井 四郎 監査 千葉 胤吉	
	常務 池貝 秀雄 千葉龍太郎	
【大株主】	十四年十一月期	
	川島屋商店三〇〇〇 池貝鐵工所三〇〇〇	
	千葉恒次郎七〇〇 住友生命七〇〇〇	
	池貝同族五〇〇 日本生命五〇〇〇	
【事業規模】	工場所在地 川崎市	
【名義書換】	十錢	【新券交付】 五十錢

【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇	拂込 二〇〇,〇〇〇
【株数】	新(五〇〇)	舊(一〇〇)
【重役】	代表 豊田利三郎	
常務	豊田利三郎 取締役 大島理三郎	
	伊藤七郎 取締役 藤野勝太郎	
	伊藤傳七郎 監査 池水 野郎	
	神谷正太郎 監査 伊藤省吾	
	吉田伊藤忠兵衛 成瀬達 岡部岩太郎	
【大株主】	十五年三月期	
	豊田利三郎八〇〇 東洋紡績三〇〇〇	
	豊田紡績三〇〇 豊田利三郎三〇〇〇	
【事業規模】	自動車、航空機、紡織機、一般機械製造、製鋼製造	
【名義書換】	二十錢	【新券交付】 五十錢

### トヨタ自動車工業

【設立】昭和十二年八月  
【決算期】三月、九月

(本社) 愛知縣西加茂郡豊母町大字下市場字前山八  
(出張所) 東京市對馬區有樂町一ノ一東日會館(電九ノ内一八六)

【収益期に入る】 昨年九月期に五分の初配當をつけ續いて本年三月期には一分増の六分配當を行つた。収益期に入り未働資産の壓迫に堪へて業績は漸次向上してゐるので、八分配當の實現は遠くない。

【多角的擴充】 倍増産目標の擴充は着々進捗しつゝあり、大陸の別働隊北支自動車工業の基礎も固まつた。素材の配給確保に豊田製鋼の創立を見、近く工作機製造會社も新立の筈。擴充は頗る多角的だ。

【近く拂込徴収】 擴充資金の一部に充當するため、本年中二回に分けて都合九百萬圓の未拂込金額を徴収する筈だ。収益力の向上を俟つて早晚、再増資があるものと期待してよいだらう。

【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇	拂込 二〇〇,〇〇〇
【株数】	新(五〇〇)	舊(一〇〇)
【重役】	代表 豊田利三郎	
常務	豊田利三郎 取締役 大島理三郎	
	伊藤七郎 取締役 藤野勝太郎	
	伊藤傳七郎 監査 池水 野郎	
	神谷正太郎 監査 伊藤省吾	
	吉田伊藤忠兵衛 成瀬達 岡部岩太郎	
【大株主】	十五年三月期	
	豊田利三郎八〇〇 東洋紡績三〇〇〇	
	豊田紡績三〇〇 豊田利三郎三〇〇〇	
【事業規模】	自動車、航空機、紡織機、一般機械製造、製鋼製造	
【名義書換】	二十錢	【新券交付】 五十錢







【機械製作業】

### 帝國精密工業

【設立】昭和九年三月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】神戸市林田區大池町四ノ二（電話三三三）  
【出張所】東京市豊町區丸之内有樂館四階

【最終拂込】當社は五月一日、最終拂込として一株十二圓半總額三十七萬五千圓を徴収した。之で當社は二百五十萬圓全額拂込済となり次は倍額増資の段取りとなる。  
【前途】擴張工事は既に第一期を終り、引續き第二期に着手中である。費用は概算八十萬圓の豫定で、之は株金と保留金で賄ふことになつてゐる。最終拂込金を徴収したのもそのためであつた。成績は伸々良好だ。航空機用精密機械類の受注は依然として多く、それに擴張分が、漸次運轉過程にあるからだ。第三次擴張計畫を持つてゐるから、先行き増資が問題となるかも知れない。

【資本金】 拂込済 三、五〇〇  
【株数】 (五〇〇) 五〇,〇〇〇

【重役】  
社長 山田多計治  
取締役 坂井新次 監査 服部鉄三郎  
取締役 田所義雄 齊藤恒一  
取締役 岡崎三郎

【大株主】十四年十一月期  
大阪興業作所 三〇、〇〇〇  
村上雄一 三〇、〇〇〇  
石原茂三 三〇、〇〇〇  
八木熊吉 三〇、〇〇〇

【主要製品】兵器、航空機、自動車各部分品  
工作機械、各種精密螺子及母螺特許自動機糸織結機

【名義書換】十錢 【新券交付】三十錢

【資産負債】

項目	十三年	十四年	十五年
株主資本	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇
外部負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
使用總資本	二、九〇〇	二、九〇〇	二、九〇〇
流動資産	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
固定資産	九〇〇	九〇〇	九〇〇
現金預金	八〇〇	八〇〇	八〇〇
平均拂込	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇
利益金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
配當率	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【業績】  
十三年上 一、二〇〇  
十三年下 一、二〇〇  
十四年中 一、二〇〇  
十四年上 一、二〇〇  
十四年下 一、二〇〇  
十五年中 一、二〇〇  
十五年上 一、二〇〇  
十五年下 一、二〇〇

### 理研アルマイト工業

【設立】昭和九年三月  
【決算期】三月、九月  
【本社】東京市京橋區銀座西二ノ三（電話三三三）

【三月期業績】電力飢饉で相當打撃を蒙るかと思はれた當社の三月期業績は、案外良好なものであつた。利益金は九十萬八千圓を數へ利益率は二割七分を示し、一割配當は樂に踏襲することが出来た。これと言ふのも、建設中の工場が稼働期にはいつたからである。  
【今後如何】周知の如く日本デイズと提携し、デイズ機關の輕合金化を計りつつあるが將來を期待してよい。増設工場の稼働、能率向上で今後利益は増すが、製品の大部分が軍需品であるから、利潤統制を受けねばならぬ。積立金が少いので不利だ。一割二分配當の維持は此のため早晚不可能になるのではないかと思ふ。

【資本金】 拂込済 七、〇〇〇  
【株数】 (一〇〇〇) 一〇〇,〇〇〇

【重役】  
社長 佐久間成一 池田寅一  
取締役 池田寅一 池田寅一  
取締役 池田寅一 池田寅一  
取締役 池田寅一 池田寅一

【大株主】十五年三月期  
池田寅一 一、〇〇〇  
佐久間成一 一、〇〇〇  
平沼登太郎 一、〇〇〇  
池田寅一 一、〇〇〇

【主要製品】アルマイト、各種電鍍  
アルマイト、各種電鍍

【名義書換】十錢 【新券交付】三十錢

【資産負債】

項目	十四年	十五年	十六年
株主資本	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
現金預金	九〇〇	九〇〇	九〇〇
平均拂込	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
利益金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
配當率	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【業績】  
十四年上 一、〇〇〇  
十四年下 一、〇〇〇  
十五年中 一、〇〇〇  
十五年上 一、〇〇〇  
十五年下 一、〇〇〇  
十六年中 一、〇〇〇  
十六年上 一、〇〇〇  
十六年下 一、〇〇〇

### 日本鍛工

【設立】昭和十二年八月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市日本橋區通一丁目二ノ一（電日本橋九四三）

【地位と實體】當社誕生の母體は舊恩加島鐵工所で、この技術と經驗を大きく生かすために昭和十二年今の川崎に主力工場を建設することになつたのだ。現在は東京、大阪に三工場を有し、最近は更に兵庫縣神崎にも新工場を建設中である。自動車、航空機部分品の鍛造を目的とするが、同業三社の中當社の技術及び設備は最も優れてゐる。記者は今日の如き原料不足時代にあつては、鍛造三社は大会同すべきだと思ふものだが、假にその時代が來ても當社は最も有利な條件を持つと云へる。成績は五期も一割を据置いたが、今後この維持に支障はない。目下増資計畫を進めてゐる。

【資本金】 拂込済 七、〇〇〇  
【株数】 (一〇〇〇) 一〇〇,〇〇〇

【重役】  
社長 柴柳新二 取締役 森上米太郎  
取締役 柴柳新二 柴柳新二  
取締役 柴柳新二 柴柳新二  
取締役 柴柳新二 柴柳新二

【大株主】十四年十一月期  
日本火工三三三 一、〇〇〇  
藤野野太郎 一、〇〇〇  
柴柳新二 一、〇〇〇  
藤野野太郎 一、〇〇〇

【主要製品】航空機、自動車各部分品  
工作機械、各種精密螺子及母螺特許自動機糸織結機

【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢

【資産負債】

項目	十三年	十四年	十五年
株主資本	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
現金預金	九〇〇	九〇〇	九〇〇
平均拂込	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
利益金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
配當率	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【業績】  
十三年上 一、〇〇〇  
十三年下 一、〇〇〇  
十四年中 一、〇〇〇  
十四年上 一、〇〇〇  
十四年下 一、〇〇〇  
十五年中 一、〇〇〇  
十五年上 一、〇〇〇  
十五年下 一、〇〇〇

### 東京鍛工所

【設立】大正七年四月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市品川區東大崎一ノ五四六（電大崎三七一）

【新工場擴張】國產自動車工業が國防國家建設の必須條件として採り上げられて以來、その部品鍛造を目指す鍛工界は相當目覺しい發展を遂げた。當社は先進日本鍛工に次ぐ鍛造會社で技術及び設備の點はとも角從來の収益率の點では寧ろ前者を凌いでゐる。工場は新設の川崎工場がこれからの主力工場で、大崎の第一、第二、第三工場は發展の餘地は無い。川崎工場は既に運轉を始めてゐるが、目下第二次、第三次の擴張を進めてゐるので、近く増資が行はれる。  
【安定配當】原材料は向ふ持ちだから、此の點減るにしても大きな心配は要らぬ。然し利潤統制の見地から、安定配當は一割だ。

【資本金】 拂込済 五、〇〇〇  
【株数】 (一〇〇〇) 一〇〇,〇〇〇

【重役】  
社長 難波又三郎 取締役 山口勝藏  
取締役 池田寅一 池田寅一  
取締役 池田寅一 池田寅一  
取締役 池田寅一 池田寅一

【大株主】十四年十一月期  
池田寅一 一、〇〇〇  
難波又三郎 一、〇〇〇  
住友生命 一、〇〇〇  
池田寅一 一、〇〇〇

【主要製品】自動車、各種電鍍  
自動車、各種電鍍

【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢

【資産負債】

項目	十三年	十四年	十五年
株主資本	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
現金預金	九〇〇	九〇〇	九〇〇
平均拂込	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
利益金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
配當率	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【業績】  
十三年上 一、〇〇〇  
十三年下 一、〇〇〇  
十四年中 一、〇〇〇  
十四年上 一、〇〇〇  
十四年下 一、〇〇〇  
十五年中 一、〇〇〇  
十五年上 一、〇〇〇  
十五年下 一、〇〇〇

【機械製作業】



〔機械製作業〕

### 理 研 鍛 造

〔設立〕昭和十三年四月  
〔決算期〕三月、九月

(本社) 東京市麹町区有楽町二ノ二(電報局支二)

〔増資申請〕當社は近日増資を申請する。現在の資本金五百萬圓がら一千萬圓へ、即ち、倍額増資である。當局者は九月中には認可される豫定だと云ふ。増資金は、前橋工場の擴張費に充てらる。前橋工場の一棟は既に稼行中であるが、所謂第二期擴張に當る他の一棟は建物完成したが、ハンマーは未だ二臺しか据付けられてない。残りのハンマーは何れも國産品であるが、×噸と云ふ大型のものも含まれ、従來の中型、小型の鍛造から大型鍛造に進出するものだ。

〔業績〕當局者は九月から此等の機械が試運轉すると云ふが、實際は据付に今年一杯掛るのではないか。だが、業績は漸次向上の見込。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】(株) 100,000
【重役】	【役員】
社長 大河内正敏 取締役 大塚 萬丈	専務 小谷 英雄 監査 星野 一也
常務 小林 三藏 取締役 大久保 八朗	取締役 荒木 重義 田中 重進
【大株主】	【株主】
千谷 合同 1,000,000 理研重工業 500,000	【株主】
【工場所在地】	【新券交付】
前橋、蒲田、品川	五十錢
【名義書換】	【新券交付】
廿錢	五十錢

### 住友電気工業

〔設立〕大正九年十二月  
〔決算期〕六月、十二月

(本社) 大阪市此花區恩惠島南之町六(電土佐堀三〇一三)

〔擴張進む〕本社工場の擴張と伊丹分工場の新設は大體豫定通り進行してゐる模様で、既に一部操業を開始してゐる。來春には全運轉可能の見込だが、その曉には製造能力は倍加する筈だ。當社の製造する電線及び電纜等の需要は益々増加する一方だから、業績の心配は餘りない。戦時需要が一服しても、製品の性質上多方面に需要を擁してゐるからだ。唯銅の價格がはげしく動搖すれば、影響も大きい。内容的にしつかりとしてゐるから、不安は少ない。

〔拂込徴収期〕未拂込は五百萬圓を残すのみだ。擴張と新設が進むにつれて最終拂込が具體化する。それは恐らく年内に實現する筈だ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】(株) 100,000
【重役】	【役員】
社長 小倉正恒 取締役 小畑 忠良	専務 別府 貞雄 監査 小畑 忠良
常務 西田 正一 取締役 藤原 貞一	取締役 古田 俊之助 監査 藤原 貞一
【大株主】	【株主】
住友 1,000,000 住友 1,000,000	【株主】
【工場所在地】	【新券交付】
大阪市此花區恩惠島	五十錢
【主要製品】	【新券交付】
各種電線、電機、金屬線並	五十錢
【名義書換】	【新券交付】
十錢	五十錢

〔機械製作業〕

### 大日本兵器

〔設立〕昭和十三年七月  
〔決算期〕六月、十二月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内ノ六(電丸ノ内五三一四)

〔八分配當繼續〕六月末締切の上期の業績はほぼ正確には判らぬが、製作注文高は一ヶ年を充たして余りある程だし、富岡工場は第一期擴張工事を昨年未了して運轉中だから当期利益は百五十萬圓を下るまい。拂込資本は千五百萬圓と前期に比し倍増であるがそれでも利益率は二割に達し八分配當は安泰だ。

〔拂込徴収接近〕當社の擴張工事は富岡、湘南兩工場併行して行はれて居り就中湘南工場の本格的操業は今年末の豫定だ。建設費は千五百萬圓と見込まれる。未拂込千五百萬圓は早晚徴収される筋合にあり、尠くとも半額七百五十萬圓は年末徴収を見よう。

【資本金】公稱 1,500,000 拂込 1,500,000	【株数】(株) 150,000
【重役】	【役員】
社長 寺島 健 取締役 石原 豐助	専務 近藤 昇次郎 監査 甘泉 三郎
常務 山下 太郎 取締役 甘泉 三郎	取締役 神田 千蔵 山下 龍三郎
【大株主】	【株主】
十四年十一月期 二、七〇七名	【株主】
【工場所在地】	【新券交付】
富岡、湘南	五十錢
【名義書換】	【新券交付】
十錢	五十錢

### 帝國鑄鋼所

〔設立〕昭和十二年五月  
〔決算期〕五月、十一月

(本社) 大阪市西淀川區島町一五六四(電島島五一一四)

〔大陸移駐〕當社は滿洲と提携し大陸に滿洲機械會社を設立し、將來當社は同社に包括移轉されることになつてゐる。活動餘地の多い滿洲に移駐することは當社將來の爲め甚だ有利と云つてよ。

〔成績〕當社は經營が比較的上手である。創立以來一割二分配當を續けてゐるのもその爲めだ。時局以來は一セット大物主義を採用してゐるので、採算關係は悪くない。この技術と經營に目をつけたのが滿洲である。滿洲の新會社は滿洲關係諸會社の所要機械を優先的に引受ける特權を持つてゐるのだから創立早々から相當の配當が可能とみられる。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】(株) 100,000
【重役】	【役員】
社長 竹中 治 取締役 本 秀進	専務 岸本 治左衛門 監査 林 基之丞
常務 岸本 治左衛門 取締役 林 基之丞	取締役 江坂 徳藏 島田 勉
【大株主】	【株主】
十四年十一月期 一、五〇〇名	【株主】
【工場所在地】	【新券交付】
本社工場、姫島工場、佃合金工場、神崎鍛造工場	五十錢
【主要製品】	【新券交付】
普通鑄鋼、鑄山用諸機械、各種プレス、特殊鑄鋼、各種輕合金、其他	五十錢
【名義書換】	【新券交付】
十錢	五十錢







【機械製作業】

### 滿洲車輛

【設立】昭和十三年五月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 滿洲國奉天市皇姑區大寶街

【次は増資】六月一日の最終拂込徴収に依つて、一千萬圓拂込済となつた。この資金は大連、奉天兩工場の擴張に充てられる。更に第二段の増産計畫を進めてゐるから、年内には増資の運びとならう。  
【前途】昨年十一月期は利益率九分六厘を挙げ、五分の初配當を行つた。本年上期は拂込資本の増加があるが、利益もそれにつれて増すので五分配當據置は勿論問題ない。工場擴張分が完成し、それが漸次運轉するに至れば、増配も期待されるであらう。懸念されてゐた資材関係も、車輛工組の設立によつて圓滑にならうし、それに製品に特殊向けが多いので、前途は寧ろ明るいやうだ。

【資本金】	拂込済	10,000
【株数】	(株)	100,000
【重役】	社長 秋山 正八 専務 野中 秀次 取締役 伊藤 達三 岩井 隆三 田中 太一 新田 政一 秋田 政一	取締役 坂井 清安 下田 貞吉 富田 文吉 寺山 孝二 松浦 孝二
【大株主】	日立製作所(株) 八〇〇〇 川崎車輛(株) 八〇〇〇 【工場用地】 奉天市皇姑區大寶街 九、八〇〇 【名義書換】 十錢 【新券交付】 五十錢	住友重工業(株) 一〇,〇〇〇 三菱重工業(株) 九、八〇〇 大連 〇
【資産負債】	株主資本	十二、九三三
	外部負債	一、六三三
	使用總資本	一、六三三
	固定資産	一、六三三
	流動資産	一、六三三
	平均拂込	一、六三三
	利益率	九分六厘
	配當率	五分
【株價】	(買物)	高値 七五〇 安値 七〇〇
【業績】	平均拂込	一、六三三
	利益率	九分六厘
	配當率	五分
【株價】	(買物)	高値 七五〇 安値 七〇〇
【業績】	平均拂込	一、六三三
	利益率	九分六厘
	配當率	五分
【株價】	(買物)	高値 七五〇 安値 七〇〇
【業績】	平均拂込	一、六三三
	利益率	九分六厘
	配當率	五分

### 龍山工作

【設立】大正八年八月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 朝鮮京城府漢江通七丁目一  
(支社) 朝鮮仁川府港町七丁目二

【引續き繁忙】五月末締切の上期成績は、操業引續き繁忙を呈し、前期より悪くなかつた様だ。朝鮮鐵道局は昭和十五年以降二十年迄の建設改良費として約四億六千萬圓の豫算を決定して居り、同十五年分だけでも一億六千五百萬圓を使ふ。當社などさしづめ之に要する資材製作に日も尙足らざる状態となる筈である。  
【拂込徴収申請】當社の第一期擴張計畫は今年一杯で完了の豫定であるが、之が所要資金に充當のため、目下新株四分の一の拂込徴収を申請中である。擴張完了の上は製作高も増加し、従つて利益も増加する。一割配當續行は勿論問題ない。

【資本金】	公稱	10,000
【株数】	(株)	100,000
【重役】	社長 鈴木忠之丞 専務 甲斐久三郎 取締役 大和田 謙三 石原 謙三 荒井 初太郎	取締役 田川常治郎 吉田 秀次郎 田中 虎雄 小林 幹三 小田 幹三
【大株主】	田川常治郎(株) 六〇〇〇 小田 幹三(株) 三〇〇〇 【事業成績】 十三年上 二、七〇〇 十三年下 二、七〇〇 十四年上 二、七〇〇 十四年下 二、七〇〇 【事業規模】 高橋 安値 【株價】 (買物) 高値 七五〇 安値 七〇〇	大和 謙三(株) 六〇〇〇 小田 幹三(株) 三〇〇〇 【事業成績】 十三年上 二、七〇〇 十三年下 二、七〇〇 十四年上 二、七〇〇 十四年下 二、七〇〇 【事業規模】 高橋 安値 【株價】 (買物) 高値 七五〇 安値 七〇〇
【資産負債】	株主資本	十二、九三三
	外部負債	一、六三三
	使用總資本	一、六三三
	固定資産	一、六三三
	流動資産	一、六三三
	平均拂込	一、六三三
	利益率	九分六厘
	配當率	五分
【株價】	(買物)	高値 七五〇 安値 七〇〇
【業績】	平均拂込	一、六三三
	利益率	九分六厘
	配當率	五分
【株價】	(買物)	高値 七五〇 安値 七〇〇
【業績】	平均拂込	一、六三三
	利益率	九分六厘
	配當率	五分

### 帝國製鉄

【設立】大正六年十一月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 大阪市港區八條通三ノ二四(電報港倉〇)  
(出張所) 東京市深川區森下町(電本所二二五)

【増資期待】當社の現在資本金は三百五十二萬五千圓拂込済であるが、當局者はこれを七百五十萬圓に増資したい意向である。言ふまでもなく、生産擴充の爲に新資金を必要とするからだ。周知の如く當社は本邦に於ける製鉄會社として最大なものだ。殊にドッグ、スバイク(大釘)には定評がある。それに、時局品並に航空機部品を製作してをる。製鉄部、精機部共に擴充を要請される。  
【一割配當續行】十四年上期に二分減配したが、別して業績が低下したからではない。その後は一割配當を續行してをり、増資後と雖も現行配當の踏襲は可能である。

【資本金】	拂込済	三、五二五	
【株数】	(株)	35,250	
【重役】	社長 島田徳太郎 専務 常務 岡松樹 取締役 山口定亮 監査 大野生太郎 井吉松 十四年十一月期	取締役 上田 喜一 江口 喜一 黒木 逸作 岩田 宗次郎 御薬袋 勝三三三 島田 商會 五、五〇〇 吉原 一郎 二、〇〇〇 【工場】 本社工場(鉄) 港區市岡元町 (自動車) 同七條通(電機) 名古屋 熱田(小型貨物三輪車) 名古屋 【名義書換】 十錢 【新券交付】 三十錢	専務 御 上田 喜一 江口 喜一 黒木 逸作 岩田 宗次郎 御薬袋 勝三三三 島田 商會 五、五〇〇 吉原 一郎 二、〇〇〇 【工場】 本社工場(鉄) 港區市岡元町 (自動車) 同七條通(電機) 名古屋 熱田(小型貨物三輪車) 名古屋 【名義書換】 十錢 【新券交付】 三十錢
【資産負債】	株主資本	三、五二五	
	外部負債	一、〇〇〇	
	使用總資本	一、〇〇〇	
	固定資産	一、〇〇〇	
	流動資産	一、〇〇〇	
	平均拂込	一、〇〇〇	
	利益率	九分六厘	
	配當率	五分	
【株價】	(買物)	高値 八七五 安値 八〇〇	
【業績】	平均拂込	一、〇〇〇	
	利益率	九分六厘	
	配當率	五分	
【株價】	(買物)	高値 八七五 安値 八〇〇	
【業績】	平均拂込	一、〇〇〇	
	利益率	九分六厘	
	配當率	五分	

### 廣澤製作所

【設立】昭和十一年  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市京橋區湊町三ノ四(電報橋六三)

【材料手當が問題】當社は拂込資本七十五萬圓の小會社で、經營は樂であらうが、他面原材料入手に相當の困難が伴ふ。重點主義の漸次加はりつゝある昨今、直接軍需品とは關係のない電氣關係機器の製作に従事してゐるのだから、他社よりも一層かうした不安が強いわけである。  
【利潤統制影響薄】他方、利潤統制の桎梏も少く、一般的な物價統制の影響を蒙るに過ぎない。それに一割配當なら格別高率でもないから、儲かれば配當維持には勿論問題がない。併し原材料の點から見て一割配當が安定してゐるとは云はれぬ。

【資本金】	拂込済	七、五〇〇
【株数】	(株)	75,000
【重役】	社長 廣澤 二郎 専務 廣澤 三郎 取締役 廣澤 三郎 監査 廣澤 三郎 尾崎 義暢	取締役 大波 復四郎 廣澤 春雄 尾崎 義暢
【大株主】	十四年十一月期	一、七〇〇名
【製品種目】	配電盤、高壓受電装置、流 量計、自動制御盤、遠方制御盤、機 械的及電氣的的水位計、其他電氣機 器器具	【事業規模】 従業員數 二〇〇名 湊町工場 京橋區湊町三ノ四 蒲田工場 蒲田區今泉町六四 下蒲田工場 同敷工數 二〇〇名
【資産負債】	株主資本	七、五〇〇
	外部負債	一、〇〇〇
	使用總資本	一、〇〇〇
	固定資産	一、〇〇〇
	流動資産	一、〇〇〇
	平均拂込	一、〇〇〇
	利益率	九分六厘
	配當率	五分
【株價】	(買物)	高値 八七五 安値 八〇〇
【業績】	平均拂込	一、〇〇〇
	利益率	九分六厘
	配當率	五分
【株價】	(買物)	高値 八七五 安値 八〇〇
【業績】	平均拂込	一、〇〇〇
	利益率	九分六厘
	配當率	五分



【機械製作業】

### 東京機械製作所

【設立】大正五年三月  
【決算期】四月、十月  
（本社）東京市芝罘三田四町一五（電）三田六〇一三

【内容】當社の特徴は製品の優秀性にある。印刷機械、煙草製造機械、自動包装機等に於ては全く独自の境地を開拓してゐる。事變以來工作機械の製作にも手を染め現在は寧ろこの方に主力を置いた状態で、R型旋盤、H型ターレットの専門製作に進進してゐる。だが何よりの強味は、時局景氣が將來後退しても直ちに平和向の製作に轉換し得る點である。

【上期及下期】四上期決算は利益金七十二萬三千圓で一割三分配當を据置いてゐる。目下一株十二圓五十錢の未拂込徴収を申請中で、その實現と共に下期末邊り一分減配が豫測される。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 700,000
【株数】	10,000	7,000
【重役】	社長 芝罘 西澤 廣太郎 専務 岡村 安一 常務 浅羽 大三郎 監査 小森 順造	取締役 池貝 杉一 平松 莊一
【大株主】	十五年四月期 芝罘 平 10,000 芝罘 太田 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000	芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000 芝罘 山一 10,000
【工場所在地】	三田 目黒 玉川 蒲田	
【名義書換】	十錢【新券交付】	五十錢

【資産負債】	十四年 十四年 十五年
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000 100,000
純資産	100,000 100,000 100,000
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000 100,000
純資産	100,000 100,000 100,000
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000 100,000
純資産	100,000 100,000 100,000

### 大連機械製作所

【設立】大正七年五月  
【決算期】六月、十二月  
（本社）大連市泰山町二三番地（電）大連九五一三  
（出張所）東京市麹町區丸ノ内九ビル

【拂込期待】當社の擴張工事は豫定より多少遅れはしたが、大體順調に進んでゐると云つてよい。工事資金は去る二月の第一新株の拂込金を充當したが、勿論それだけでは不足するので、近く第二新株の第二回拂込を徴収することになるだらう。

【前途】中心事業たる車輛の將來性は非常なものがある。現在の繁忙は少なくも今後数年は續きさうだ。唯資材が極端に不足してゐるので、思ふやうに製作出来ぬ弱點はあるが、それにしても現状からする限り、前途はなほ大いに期待される事業だ。鑛山用機械も又繁忙を呈してゐる。一割配當は當分拵ぐま。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 高田 友吉 専務 佐藤 忠一 常務 田島 豊治 監査 田中 知平	取締役 三瓶 勇佐 相生 常三郎 島岡 亮太郎 青柳 一太郎
【大株主】	十四年十一月期 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治	相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治
【工場所在地】	大連 青島 上海	
【名義書換】	五錢【新券交付】	二十錢

【資産負債】	十四年 十五年
株主資本	1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000
純資産	100,000 100,000
株主資本	1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000
純資産	100,000 100,000

【機械製作業】

### 帝國ニューヒューム鋼管

【設立】昭和九年八月  
【決算期】五月、十一月  
（本社）東京市麹町區大手町日清生命館五階（電）丸ノ内九六六  
（営業所）東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館八階

【増配】當社は昨年十一月決算に於て、利益金七萬一千圓、利益率一割九分を以て一分増の七分増配を行つたが、引續き本年五上期も一分増配期待にある。當社は永い間無配に呻吟したし、また、小型會社としては資産内容に穴がないから、右の如き引續く増配も特に批難する必要はない様だ。唯だ、親會社エタバイの動搖は間接作ら打撃を受けたが、最近は落付いて居る。

【大陸進出】當社は大陸の土木事業界へ進出すべく、目下具體化を急いで居る。尚エタ・バイとの合併機運にあり、その時期は當社配當が一割に引上げられる來年上期と想像される。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 高田 友吉 専務 佐藤 忠一 常務 田島 豊治 監査 田中 知平	取締役 三瓶 勇佐 相生 常三郎 島岡 亮太郎 青柳 一太郎
【大株主】	十四年十一月期 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治	相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治
【工場所在地】	東京 大阪 神戶	
【名義書換】	十錢【新券交付】	五十錢

【資産負債】	十二年 十四年 十五年
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000 100,000
純資産	100,000 100,000 100,000
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000 100,000
純資産	100,000 100,000 100,000

### 日本バルブ製造

【設立】昭和八年一月  
【決算期】五月、十一月  
（本社）東京市大森區大森三丁目八八  
（営業所）東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館八階

【拂込徴収】當社は去る四月一日に一株十二圓半、總額百萬圓の拂込を徴収した。これが使途は、新設千葉工場に注ぎ込まれた。千葉工場第一期計畫としては、特殊鋼、鑄鐵、合金の自家供給を目論むものだが、これには運轉資金を含めて約二百萬圓の資金が必要だ。従つて、最終拂込徴収も時期の問題で、恐らく年内には實現しよう。

【業績】千葉工場第二期計畫ではバルブから出發した鑛山機械、化學機械に進出せんとするものだ。この新資金を賄ふには増資が想像されるのだが、最近の情勢から推して、大分先きの話だ。尚、業績は順調で一割配當の持續は可能の見込である。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	10,000	10,000
【重役】	社長 高田 友吉 専務 佐藤 忠一 常務 田島 豊治 監査 田中 知平	取締役 三瓶 勇佐 相生 常三郎 島岡 亮太郎 青柳 一太郎
【大株主】	十四年十一月期 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治	相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治 相生 田島 豊治
【工場所在地】	東京 大阪 神戶	
【名義書換】	十錢【新券交付】	五十錢

【資産負債】	十二年 十四年 十五年
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000 100,000
純資産	100,000 100,000 100,000
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000 100,000
純資産	100,000 100,000 100,000







【機械製作業】

# 岡本工業

【設立】大正八年三月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】名古屋市中区東通七ノ一五（電話三三三）  
【出張所】東京市神田区末廣町一（電下谷三三）

【最終拂込】去る四月一日新株に對し總額八十一萬二千五百圓の拂込を徴収した。笠寺工場の擴張と相俟つて、買収した隣接地×萬坪にも工場建設が急がれ、全面的に擴張計畫が進められてゐる。必然、これら資金調達のために、今秋最終拂込を徴収するものと思はれる。更に第三段の擴張策として、變態増資の型體による岡本航空機との合併が考へられ、これに興味がかげられる。

【岡本航空機】岡本航空機は當社の子會社で、昨年下期までの配當は八分をつけてゐた。當社と同じ一割配當になるのを俟つて合併に進むものと思はれるが、その時機は餘り遠くない。

【資本金】公稱 六〇〇,〇〇〇 拂込 四〇〇,〇〇〇	【株數】新 一三三,〇〇〇
【重役】社長 松浦 取締 大澤 徳太郎 常務 岡本 徳松 中川 徳吉 岡本 直次郎 監査 水野 忠一 松崎 房吉 中野 忠一	【資産負債】十二月 十四年 株主資本 九三,〇〇〇 八三,〇〇〇 外部負債 一,〇〇〇 一,〇〇〇 使用總資本 一,〇〇〇 一,〇〇〇 固定資産 一,〇〇〇 一,〇〇〇 流動資産 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【大株主】十四年十一月期 八八名 岡本直次郎 一〇,〇〇〇 川崎航空機 一〇,〇〇〇 岡本直次郎 一〇,〇〇〇 川崎航空機 一〇,〇〇〇	【業績】平均拂込 利益率 配當率 十三年下 三,七九三 七.五% 三.七五% 十四年上 三,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十四年下 三,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十五年上 三,〇〇〇 七.五% 三.七五%
【事業成績】十三年下 五年上 十五年下 作業収入 (千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 製品原價 (千圓) 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 【名義書換】五錢 新券交付 三十錢	【株價】(實物) 高値 安値 十四年 六〇.〇〇 六〇.〇〇 十五年 六〇.〇〇 六〇.〇〇

# 光洋精工

【設立】昭和十年一月  
【決算期】三月、九月  
【本社】大阪府東成區中川町四（電天王子二四七六）

【擴充續行】當社は近く倍額増資を實現する筋合だ。言ふまでもなく、ベアリング事業の繁忙から當社の生産力擴充を要請されるのである。周知の如く、當社は日本精工、東洋ベアリング製造に次ぐ有力なベアリング會社だが、同業他社に比して膨脹發展が遅れてゐる。社長池田氏の性格があまりに獨裁的に過ぎるのではあるまいか。昨年十二月の拂込で資本金五百萬圓拂込済となつたが、必然増資にむかふものと思はれる。

【前途觀】左掲表示の如く、一割二分配當を繼續してゐる。業績は良好だが、時局柄増資後は二分減の一割配當と見るべきだ。

【資本金】公稱 五〇〇,〇〇〇 拂込 三〇〇,〇〇〇	【株數】新 一〇〇,〇〇〇
【重役】社長 池田 善一郎 取締 松浦 徳吉 常務 島田 徳太郎 小野 正次 吉田 直吉 監査 小川 徳吉 庫本 茂一郎 小前 信男	【資産負債】十二月 十四年 十四年 株主資本 九三,〇〇〇 九三,〇〇〇 外部負債 一,〇〇〇 一,〇〇〇 使用總資本 一,〇〇〇 一,〇〇〇 固定資産 一,〇〇〇 一,〇〇〇 流動資産 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【大株主】十四年九月期 二六名 池田善一郎 三〇,〇〇〇 庫本茂一郎 七,〇〇〇 北電業 七,〇〇〇 住友生 七,〇〇〇 日本生命 三,〇〇〇 吉田生 三,〇〇〇	【業績】平均拂込 利益率 配當率 十三年下 三,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十四年上 三,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十四年下 三,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十五年上 三,〇〇〇 七.五% 三.七五%
【株價】(實物) 高値 安値 十五年 二六.〇〇 二六.〇〇 十四年 二六.〇〇 二六.〇〇 十五年 二六.〇〇 二六.〇〇	【株主資本】 十三年上 七,〇〇〇 一〇,〇〇〇 十四年上 七,〇〇〇 一〇,〇〇〇 十四年下 七,〇〇〇 一〇,〇〇〇 十五年上 七,〇〇〇 一〇,〇〇〇

# 日本タイプライター

【設立】大正六年五月  
【決算期】四月、十月  
【本社】東京市京橋區寶町一ノ二（電京橋四二一五）

【經營の多角化】支那事變の進展に伴ひ平和産業が壓迫を余儀なくされる定石を免れるため、當社は従來の邦文タイプのほか、國策の線に沿うた××品や英文タイプ製造への進出を企圖してゐる。これら經營の多角化は、當社配賣網の充實及び常時四千名を擁するタイピスト養成機關の活動と相俟つて、愈々業礎の健全化を約束するものだ。

【先行き】然し乍ら、時局産業への進出は、同時に許可會社の性質の強要を意味する。早晚高率利潤の制限は必至であらう。増資若しくは未拂込の徴収を機として先行き多少の減配が豫測される。

【資本金】公稱 一五〇,〇〇〇 拂込 一〇〇,〇〇〇	【株數】新 一〇〇,〇〇〇
【重役】社長 櫻井 兵五郎 取締 福島 義行 常務 加藤 光三 監査 大内 敬 技監 川崎 光三 監査 大内 敬 大川 利雄 監査 大内 敬 中西 賢爾 監査 大内 敬	【資産負債】十四年 十四年 十五年 株主資本 九三,〇〇〇 九三,〇〇〇 九三,〇〇〇 外部負債 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 使用總資本 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 固定資産 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 流動資産 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【大株主】十五年四月期 七九名 北電業 一〇,〇〇〇 仁寿生命 一〇,〇〇〇 井上喜久治 一〇,〇〇〇 昭和生命 一〇,〇〇〇 【名義書換】五錢 新券交付 三十錢	【業績】平均拂込 利益率 配當率 十四年上 七,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十四年下 七,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十五年上 七,〇〇〇 七.五% 三.七五%
【工場】東京 稲ヶ谷 兵器工業其他	【投資會社】第二亞鉛精煉、中島機械

【機械製作業】

# ワシノ製機商事

【設立】昭和十三年三月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】名古屋市中區岩井通り五丁目三〇

【先行減配か】當社は従來、鑄鋼類、精密工作機械の代理販賣や委託取次を主業として來たが、最近此等の自社生産に乘出した會社だ。業績は左表の如く素晴らしい好成绩で一割四分の配當は余裕綽々だ。が高率配當の手前利潤統制を考慮すると先行き若干減配か。

【擴張進捗】名古屋工場電氣製鋼部と今村工場の擴張は引續いて行はれてゐる。増産の本格的稼働入期は來春であるが、材料關係は特殊向需要が多いので、不安はない。當社の製品が一般工作機械、航空機部品等多種にわたつてゐる關係上、業務の繁忙は勿論續くか第二段の擴張と共に本年末最終拂込二十五圓を徴収すると思はれる。

【資本金】公稱 一,〇〇〇,〇〇〇 拂込 一,〇〇〇,〇〇〇	【株數】新 一〇〇,〇〇〇
【重役】社長 高橋 彦二 取締 川村 辰吉 常務 眞野 榮治 監査 古坂 久市 井上 茂三 監査 上田 鐵哉 森川 傳次 監査 上田 鐵哉	【資産負債】十四年 十四年 株主資本 九三,〇〇〇 九三,〇〇〇 外部負債 一,〇〇〇 一,〇〇〇 使用總資本 一,〇〇〇 一,〇〇〇 固定資産 一,〇〇〇 一,〇〇〇 流動資産 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【大株主】十四年十一月期 二〇五名 【營業種目】工作機械、各種境界ゲージ 萬能研磨機、各種精密工具、各種電鑄 鋼、各種特殊鋼	【業績】平均拂込 利益率 配當率 十三年上 七,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十三年下 七,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十四年上 七,〇〇〇 七.五% 三.七五% 十四年下 七,〇〇〇 七.五% 三.七五%
【工場】名古屋工場 名古屋市中區 今村工場 電氣製鋼部 愛知縣碧海郡	【係會社】鷲野機械、瀨野機械







### 東洋高壓工業株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町二丁目三井ビル内(電日本橋三六六一)

【建設進行】昨秋から建設中の北海道砂川工場は、大體順調に進行してゐる。夏季中は大いに馬力を掛ける方針だ。現在に於ける諸機械類の發註濟額は既に二千萬圓を越へると言ふ。對獨註文分も若干あるが、之等は可及的に國內へ發註換へを行ひつゝある。第一期硫酸生産廿五萬噸能力は、現有の九州の設備とは同じだが、建設費は五千萬圓を越すべく、十六年末完成迄の過渡期の負擔は重い。

【成績稍向上】其處で成績の現況だが、昨年上下二期の不振の跡を受けた本年上期は、益金三百八十九萬五千圓—利益率一割九分五厘とやゝ向上した。然しまだ二期に回復せず、流石の當社も此の所延び悩み状態にある。而も當期の製品賣上代一千四百六十萬六千圓中には、一—三月の硫酸助成金約五十萬圓が含まれる。當期は後半に操業の順調さを取戻したが、メタノール其他硫酸以外の諸製品の賣行良好と、助成金に助けられた貌である。

【前途】九月末締切の今期は三月期よりも硫酸の生産は殖へる見込だから、利益率二割臺に達するは困難であるまい。それにしても擴張過渡期の壓迫はこれからの方が加重する。當局者は大牟田、彦島兩工場の操業向上に必死となつてをり、助成金も増加するから、一割配當を踏襲するであらう。

### 滿洲化學工業株式會社

(本社) 大連市郊外甘井子(電大連九二)  
(營業所) 東京市麹町區丸の内(電丸の内三六五)

【無配に轉落】昨年九月期に二分減の六分配當を行つた當社は、去る三月期決算に於て遂に無配當に陥つた。實は前者の六分も繰越金六十四萬圓の大部分を喰込んでのもので、著しく窮屈な配當であつた。この三月期は、期の後半に於てやゝ硫酸の生産が回復したが、大勢挽回に至らず、一—三月の政府助成金五十萬圓を得たにもかかわらず、結局無配となつた譯だ。表面は十三萬八千圓の純益を計上してゐるが、正當に償却すれば缺損となつたであらう。

【九月期如何】今期は前期に比べると相當條件がよい。助成金が殖へるし、石炭の割當でも多くなる。然し慾を言へば石炭の割當て量は當社の豫定する硫酸目標生産量に對比してまだ不充分だから、もう一段とその獲得に努力する必要がある。硫酸も不満足である。たゞ副産の賣行きがよいことは何よりだ。それにしてもどの程度の配當を復活し得るか、又は不幸にして續いて無配の餘儀なきか、今暫く情勢を見ないと断言しかねる。

【懸案】かうなつては、青森縣下の硫化鐵山開發、滿鐵保有の當社株の讓渡、北支方面への進出…等の計畫も當分見送られる外ない。右株式讓渡は例の滿洲硫酸會社が、建設不能に陥つたにによるもので同社の當社支配も從つて實現性に乏しくなつた。

【設立】	昭和八年四月
【決算期】	三月、九月
【事業】	硫酸、メタノール、合成アンモニア、其他窒素化合物の製造販賣
【資本金】	公稱1,000,000 拂込1,000,000
【株主】	新(五〇) 安(五〇) 三〇〇,〇〇〇
【役員】	會長 松田 範房 取締役 林 俊香 常務 長澤 一夫 監査 岡本 和作 取締役 原部 邦造 近藤 達三 高島 基江 橋本 三郎 柴田 勝太郎 植村 一郎
【株主数】	十四年上 十四年下 十五年上 十五年下
【大株主】	三井物産 山崎 八〇 電氣化學工業 九〇,〇〇〇 三井生命 六六,〇〇〇 日本生命 五〇,〇〇〇 第一生命 四〇,〇〇〇 富國生命 三〇,〇〇〇 第一生命 二〇,〇〇〇 愛國生命 一〇,〇〇〇
【事業規模】	工場所在地：福岡縣大牟田 年産能力：(十二年下) 三十七千噸 (十四年下) 三十七千噸 (十五年上) 三十七千噸 實上高(千圓)：三三,三七 製造費(%)：九,九三 九,五六 九,六七
【關係會社】	三井物産の子會社 【投資會社】 日本硫酸、新潟硫酸、日本發送電、北支那開發、中支那振興
【資本異動】	十二年三月(最終) 十圓拂込徴收十月終額増資第一回三圓五拂込徴收同月合成工業合併

【設立】	昭和八年五月
【決算期】	三月、九月
【事業】	硫酸其他各種肥料及化學工業品の製造、賣買並輸出
【資本金】	公稱1,000,000 拂込1,000,000
【株主】	新(五〇) 安(五〇) 三〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 貝瀬 壽吾 取締役 武部 石門 常務 堀川 義雄 監査 千石 大郎 取締役 奥村 秀幸 中村 房太郎 田村 羊三 島居 重夫
【株主数】	十四年上 十四年下 十五年上 十五年下
【大株主】	三井物産 三〇〇,〇〇〇 前田利為 七〇,〇〇〇 日本生命 七〇,〇〇〇 三井物産 五〇,〇〇〇 住友生命 五〇,〇〇〇 豊年製油 五〇,〇〇〇
【事業規模】	工場所在地：大連市甘井子 年産能力(年額)：(十二年下) 三十七千噸 (十四年下) 三十七千噸 (十五年上) 三十七千噸 實上高(千圓)：三三,三七 製造費(%)：九,九三 九,五六 九,六七
【關係會社】	三井物産の子會社 【投資會社】 日本硫酸、新潟硫酸、日本發送電、北支那開發、中支那振興
【資本異動】	十二年三月(最終) 十圓拂込徴收十月終額増資第一回三圓五拂込徴收同月合成工業合併

【資産負債】	株主資本 三十四年 九十四年 三十五年 積立金 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 外部負債 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 使用總資本 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 流動資産 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 流動負債 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 固定資産 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 固定負債 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 純資産 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 純負債 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 平均比率 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
【株主】	十四年上 十四年下 十五年上 十五年下 平均比率 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 無配
【名義書換】	十錢 新券交付附 三十錢 五錢 新券交付附 二十錢



### 電氣化學工業株式會社

(本社) 東京市豊野區有樂町三信ビル内(電報掛番六二一三)

【醋酸合併】去る六月末日を以て日本醋酸製造を合併、百五十萬圓(拂込済)を増資して、その株式三萬株を醋酸側の株主に、舊株に對しては一・二株、新株(四十圓拂込)に對しては〇・九六株の各割合で交附した。日本醋酸は明治卅五年七月創立の古い會社で、ホルマリン、醋酸及其の精製品を製造してゐた。が原料難の爲め遂に當電化に吸収されるに至つた。たゞ從來の成績は比較的良好で一割二分配當をつけてゐたから、當社の荷物になることはない。

【發展策】寧ろ當社としてはカーバイド工業の一環として、同社の技術と設備を有効に使ひ得る。當社では秋田縣下に於てメタノール工場建設の計畫があるのみならず、青梅工場ではカーバイド増産、ブタノール、アセトンの新生産を行ふべく目下工場擴張中だ。何れも自家用電力(水力)に依る點が強味である。尙大牟田工場でも電爐を利用して硅化石灰、金屬硅素、シイサイド等、時局製品で稼ぎ肥料類の不振を相當カバーしてゐる。

【上期一割】上期は肥料助成金の下附、時局製品の賣行増により、三百廿四萬三千圓の利益を計上した。利益率一割八分五厘で一割配當を踏襲した。前途に擴張工事を控へてゐるので、何れ拂込後收も問題化しよう。

【設立】	大正四年五月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	硫酸、石灰窒素、各種工業藥品 冶金、合金工業、鑛業及電力電燈供給
【資本金】	公稱1,000,000 拂込1,000,000
【株数】	新(500) 舊(500) 500,000
【重役】	會長 大橋新太郎 取締役 大仲齊太郎 近藤 謙次 監査 野村與市 常務 近藤 謙次 羽村 協輔 黒川 三郎 金子 武磨 伊東 二郎 牧田 環 伊東 二郎 久作 牧田 環
【株主数】	七三三
【大株主】	三井物産 六、六三三 富國徴兵 六、四三〇 藤原合資 三、八二六 武州銀行 三、〇〇〇 山崎種二 三、〇〇〇 大日本麥酒 三、〇〇〇 山崎種二 三、〇〇〇 大橋本店 八、〇〇〇
【年産能力】	(單位1日) 硫酸 一〇〇,〇〇〇 カーバイド 二五〇,〇〇〇 石灰窒素 一八〇,〇〇〇
【販賣高】	十年下 十年上 十四年上 硫酸(安) 三、三三三 三、三三三 三、三三三 石灰窒素(安) 三、三三三 三、三三三 三、三三三 カーバイド(安) 三、三三三 三、三三三 三、三三三 セメント(安) 三、三三三 三、三三三 三、三三三
【投資會社】	九州電力、黒部川電力 東洋高壓工業、北海電力工業、臺灣電 化、東北振興化學其他
【資本異動】	十五年四月五千六百萬圓に増資 八月第一回一〇二圓五拂込後收

【資産負債】	廿二年 廿四年 廿四年 廿四年
株主資本	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000







【肥料事業】

### 日東化學工業

【設立】昭和十二年八月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市豊町區丸之内二ノ一八(電九之内四七)

【操業開始】年初に設備を完成した當社では、先づ硫酸(能力五萬噸)の生産を行ひ、二―四月に於て九千七百餘噸を製造した。磷酸(土處理によるアルミナと副産化成肥料の生産も試運轉を終へ、愈よ本操業に入つたが、此の方の収益は下期以降からだ。

【好望】各製品とも、量はさして多くはないが刻下の需要上、右から左へ販賣し得るものだ。上期は右操業關係で、多少の利益は計上し得るにせよまだ無配の外ないが、下期から待望の初配當開始が確實となつた。現下の一般事業界にあつて、珍らしく恵まれた會社と言ひ得る。初配開始後第四回拂込が問題化するだらう。

【資本金】公稱 10,000 拂込 11,000

【株数】(株) 100,000

【重役】社長 藤山愛一郎  
常務 堀地 佑吉 取締役 渡邊 基吉  
取締役 金澤冬三郎 監査 藤名 和吉  
秋山孝之輔 藤原 九一  
赤司初太郎 西村房次郎  
山下 太郎 中村雄次郎

【大株主】十四年十一月期 八、八七名  
大日本製糖 100,000 藤山愛一郎 10,000  
藤山同族 八、二五林 莊 治 五、一〇三  
【工場所在地】青森縣八戸市  
【年産能力】化成肥料 100,000 題  
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢

【資産負債】

項目	十二	十四
株主資本	11,000	11,000
外部負債	1,000	1,000
流動負債	1,000	1,000
流動資産	1,000	1,000
固定資産	1,000	1,000
平均拂込	1,000	1,000
利益率	1,000	1,000
配当率	1,000	1,000
未配	1,000	1,000

【株價】(東長) 高値 六・一〇 安値 五・五〇  
【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢

### 帝國人造肥料

【設立】大正八年十二月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 大阪市大正區船町一〇(電櫻川七四二・三四六)

【増産計畫】當社は過磷酸、配合肥料、硫酸、クライオライト(人造水晶石)の製造を行つてゐるが、その他に日本鋼管のトーマス煉肥の一手販賣をしてゐる。而して當社は目下増産に懸命となつてゐるものにクライオライトがある。クライオライトはアルミ製造に不可欠のものである。

【前途】右のクライオライトは現在月産百五十噸を三百五十噸追加して五百噸の能力とする。新工場は十六年春に完成の豫定で、それまでは成績の積極的好轉は一寸期待薄と云はねばならない。それにも一割配當は不安ない。

【資本金】公稱 8,000 拂込 11,000

【株数】(株) 100,000

【重役】社長 白石元治郎 取締役 加島安治郎  
専務 田中榮八郎 監査 牧野謙二郎  
取締役 石川 一郎 井上幸二郎  
白石同族 三、七〇〇 山下岩衛 二、〇〇〇  
【大株主】十四年十一月期 一、〇六名  
白石同族 三、七〇〇 山下岩衛 二、〇〇〇  
【工場所在地】大阪市大正區船町  
【事業規模】去年下 七、六〇〇 今年上 七、七〇〇  
【名義書換】五錢 【新券交附】三十錢

【資産負債】

項目	十二	十四
株主資本	11,000	11,000
外部負債	1,000	1,000
流動負債	1,000	1,000
流動資産	1,000	1,000
固定資産	1,000	1,000
平均拂込	1,000	1,000
利益率	1,000	1,000
配当率	1,000	1,000
未配	1,000	1,000

【株價】(東長) 高値 六・一〇 安値 五・五〇  
【名義書換】十錢 【新券交附】二十錢

【曹達工業】

### 日本曹達株式會社

(本社) 東京市豊町區大手町二丁目八(電九ノ内三七一七)

【拂込から増資】四月一日に一株十二圓半總額一千六百四十二萬圓の最終未拂込金を徴収したが、これに次で七千六百萬圓の増資を行ふことになつた。即ち現在資本金一億四千萬圓を一億八千萬圓とするのであるが、この増資株百五十二万株は来る七月廿五日現在の株主に對し百株に付七十三株の比率を以て割り當てられる。その第一回四分の一の拂込金は八月廿日付から同廿四日に於る申込期間内の申込證據金一株十二圓半を以て振替られる。

【資金の使途】増資の目的は擴張、新設の兩部門を賄ふためである。即ち繼續事業としては大島、富山、米子等各製鋼所の増産計畫があり、新規事業としては新設田工場の建設その他がある。この内、最も資金を必要とするものは新設田工場であるが、子會社南日本化學及西鮮化學の拂込資金に充てられ、また問題の航空燃料事業への進出のためにも必要だ。

【資本膨脹と成績】今度の成績が資本の膨脹を克服して依然好調を持續し得るか否かには問題があらう。既に、利潤統制に先んじて二分の減配を行ふた事は確かに一つの不安點を解消するに役立つたが企業の重點をなす製鋼部門が利潤統制の影響を受け、曹達部門にも原料的問題のある折柄として今後の成行には注視の要がある。

【設立】大正九年二月  
【決算期】六月、十二月

【事業】曹達、硝粉、硫酸、電氣硝、硫酸、アルミニウム、ニツケル、染料、アルミニウム、工業藥品、

【資本金】公稱 100,000 拂込 100,000

【株数】(株) 100,000

【重役】社長 中野 友禮 取締役 小川 榮一  
常務 小長谷新太郎 監査 武田 元直  
取締役 神原 友修 遠山 義平  
辰澤 茂治 金井 文直  
竹中 忠實 相談 増田 寅彦  
木村 忠實 鈴木 寅彦

【大株主】(株主名) 去年下 三、八八三 今年上 三、八八三 今年下 三、八八三  
妙高企業 三、八八三 横濱取引 三、八八三  
中野友禮 三、八八三 横濱代利 三、八八三  
日本水産工業 三、八八三 九州曹達 三、八八三  
遠山 借成 三、八八三 富國徴兵 三、八八三

【事業規模】工場埼玉縣戸田村、新潟縣二本木、直江津、福島縣會津、江名、富山縣富山、高岡、東岩瀬、東京王子區大島町、横濱市、米子市、兵庫縣武庫郡粉月産能力 一九五噸  
苛性曹達月産能力 一九五噸

【投資會社】九州曹達、日曹工業、日曹ハルフ、臺灣製糖、其他三社

【資本異動】去年六月第二回三圓五拂込徴收十二月日曹製糖を合併三、四〇〇萬圓増資  
去年四月第三回十圓増資各三圓五拂込徴收

【資産負債】

項目	十二	十四
株主資本	100,000	100,000
外部負債	1,000	1,000
流動負債	1,000	1,000
流動資産	1,000	1,000
固定資産	1,000	1,000
平均拂込	1,000	1,000
利益率	1,000	1,000
配当率	1,000	1,000
未配	1,000	1,000

【株價】(東長) 高値 六・一〇 安値 五・五〇  
【名義書換】十錢 【新券交附】二十錢















【化學工業】

### 大日本セルロイド株式会社

(本社) 大阪府堺市七道西町二一七 (電報 五六〇一四)  
(出張所) 東京市向島區寺島四ノ一三七 (電報 田五九三二五)

【補充は活潑】當社が目下擴充中のもの或は計畫中のものは相當多  
い。新井工場(新潟縣)ではブタノール、アセトンの増産工事が進  
行中だし、カーバイド・アセチレン系統の特殊品製造工場の建設に  
も着手して居る。また硝化棉増産設備も着工中で、これは網干工場  
に於ても行はれて居る。此の他天津工場ではリントー並棉實油の増  
産設備を新設中だし、滿洲に於てはリントーと棉實油製造のため、  
滿洲棉花と折半仕資で、昨秋滿洲棉實工業(資本金五百萬圓、半額  
拂込)を設立したばかりである。

【増資問題】これ等に要する建設資金は相當巨額に上る。當面第一  
期計畫だけでも一千萬圓近くにはならう。これは假令一時借入金で  
賄ふとしても、結局増資は不可避であらう。その時期は今年中で、  
増資額は先づ一千萬圓程度となるかも知れぬ。

【原料】歐洲動亂勃發以來獨逸品の出廻減でセルロイドの引合は増  
大傾向にあるし、内需も金屬、皮革、ゴム等の代用品として増大し  
つゝあるが、肝腎の原料が不足して居るので躍進を抑へられて居る。  
原料は硝酸の入手難は稍や緩和されたが、樟腦、ボロ屑が不足して  
居り、高値を呼んで居る。尚ほ業績は良好だから、現行八分配當は  
今後も維持出來よう。

【設立】	大正八年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セルロイド生地、同製品、ダク トロイド、セルロファン
【資本金】	株式 10,000,000 拂込済 2,000,000
【株主数】	1,123
【役員】	社長 森田茂吉 副社長 西宗 常務 伊藤次郎 取締役 淺野修一、井上 松本五郎、橋爪善雄、松崎清吉、結城鐵 雄、藤田昌谷、安場保健、岩井豊治 矢崎徳治
【大株主】	岩井商店 5,500 第一生命 3,000 明治生命 3,000 三井生命 3,000 三井銀行 3,000 三友信託 3,000 東京工場セルロイド 3,000 セルロイド 2,000 神崎工場 2,000 新井工場 2,000 ラクトロイド 2,000 ラクトロイド 2,000 ラクトロイド 2,000
【事業成績】	十五年下 十四年上 十四年下 売上高(千圓) 2,200 1,350 1,400 製造費(〃) 850 500 550
【投資会社】	富士製鋼、三國セ ルロイド、東京セルロイド其他
【資本異動】	十二年七月三圓五拂込徴收 十三年一月三圓五拂込徴收

【資産負債】	廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
名義書換	十 十 十 十 十 十 十 十 十 十
【新券交附】	三十 三十 三十 三十 三十 三十 三十 三十 三十 三十

### 日本火薬製造株式会社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル (電九ノ内三七一)

【増資遅延】當社の増資も色々言はれてゐるが、實際は今迄認可申  
請されてゐなかつたのである。子會社朝鮮火薬(資本金五百萬圓拂  
込済)當社全株保有)の倍額増資は、朝鮮總督府に提出されてゐる  
が、之もまだ正式認可を得てゐない。兩社の増資は相前後して行は  
れる見込だから、朝火に認可が確定すれば、當社も申請手續を採る  
であらう。具體化までにはまだ三、四月の間であらう。

【朝火株割當】朝火株は増資後當社株に割當てられる筈だが、一  
對一とする限り増資新株の拂込を一舉にとるか、半額宛とるかによ  
り、割當て時期に遅速が生ずる。朝火は今年下期に初配當六分を開  
始し、順次増配してゆく豫想である。當社は増資後現行二割配當を  
一割五分に下げる筈だが、朝火株の配當で潤す譯である。

【成績】各地工場のこれ迄の擴張分は漸次稼働し始めてゐるので、  
原材料の手當不如意乍ら賣上はほゞ順調に伸びてゐる。去る四月一  
日から問屋への戻しを廢止したので、其の後の契約分に就てはそれ  
だけ賣上高が殖へる勘定だ。今上月の利益率は三割八分餘と、前二  
期のそれと略同様であり、二割配當が据置かれた。かくて二割配當  
も上期を名残に下期から五分減となる。か、株價は材料含みのこと  
とて目先尚波瀾を繰返すことであらう。

【化學工業】

【設立】	大正五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ダイナマイト、硝安爆薬、黒色 火薬、導火線、雷管類、薬莖、紙彈
【資本金】	株式 10,000,000 拂込済 1,000,000
【株主数】	1,000
【役員】	社長 石原豊太郎 取締役 長崎英造、安三郎、小倉禮三 飯森梅三郎、岡野健二、森田透一 飯森梅三郎、岡野健二、森田透一
【大株主】	山本武太郎 5,000 原安三郎 3,000 長崎英造 2,000 小倉禮三 2,000 久保田亮吉 2,000 山口縣厚狭町(爆薬) 朝鮮海州 兵庫縣四條村(火薬) 折尾七豊野(雷管) 東京、大阪、小倉、岩見澤、飯塚(火工品) 朝鮮火薬製造、中外火工品、帝國藥業製 造、帝國藥料製造、日本針布、山川製薬、 中外製薬、共和レザ、新中華火薬
【投資会社】	中外産業(證券保有會社) 朝鮮火薬製造、中外火工品、帝國藥業製 造、帝國藥料製造、日本針布、山川製薬、 中外製薬、共和レザ、新中華火薬
【資本異動】	十一年十月五圓拂込徴收。 十一月五圓増資第一回拂込三圓 五、十二月九月一七圓五、十三年七月二 圓、十四年七月最終三圓各拂込徴收

【資産負債】	廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
流動負債	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
固定負債	100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000
名義書換	十 十 十 十 十 十 十 十 十 十
【新券交附】	三十 三十 三十 三十 三十 三十 三十 三十 三十 三十



〔化學工業〕

# 大日本鹽業

〔設立〕 明治三十六年九月  
〔決算期〕 六月、十二月

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ六 (電九ノ内 二五六一)

〔業況〕 當社の關東州、朝鮮等の鹽田擴張はその後順調に進捗してゐる。昨年同期末に於いて鹽田面積は七千五百町歩と前年同期に比し約四百五十町歩の擴張を見た。天日製鹽も九萬餘噸を増し、結局昨年同期は利益金七十三萬圓を挙げ、率にして二分の向上だつた。

〔今後の見通し〕 本年上期も擴張鹽田の増收分があり、輸入鹽取扱量も増大したから、業績は前期より悪くない筈だ。三月の拂込徴収で資本負擔は加つたが、一割配當に不安はない。たゞ今後は歐洲情勢次第で外鹽取扱量に相當の影響を受ける。が他方新義州のマグネ工場も來春は完成するし、業績は先づ順調に推移しよう。

【資本金】	公稱 〃 六,〇〇〇	拂込 〃 三,八五〇
【株數】	新(〃) 〇,〇〇〇	舊(〃) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 一宮 銀生	取締役 柳 悅 志水 寅次郎 岩井 俊七 室谷 藤七
【大株主】	住田 正一 北山 博 山下 正一 住田 正一	住田 正一 北山 博 山下 正一
【事業成績】	昭和十一年 〇,〇〇〇	昭和十二年 〇,〇〇〇
【工場】	東京市品川區品川四六〇〇	東京市品川區品川四六〇〇
【名義書換】	十錢	新券交付 十錢

【資本金】	公稱 〃 五,〇〇〇	拂込 〃 三,〇〇〇
【株數】	新(〃) 〇,〇〇〇	舊(〃) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 高橋 安三郎	取締役 高橋 安三郎 高橋 善三郎 高橋 善三郎 高橋 善三郎
【大株主】	久保田 桐造 相模 義次 石坂 藤三郎 石坂 藤三郎	久保田 桐造 相模 義次 石坂 藤三郎
【事業成績】	昭和十一年 〇,〇〇〇	昭和十二年 〇,〇〇〇
【工場】	東京市品川區品川四六〇〇	東京市品川區品川四六〇〇
【名義書換】	十錢	新券交付 十錢

# 帝國染料製造

〔設立〕 大正五年一月  
〔決算期〕 五月、十一月

(本社) 東京市麹町區丸の内海上ビル (電九ノ内 六〇〇)

〔現行配當如何〕 當社は毎期四割前後の利益率を挙げ、餘裕裡に一割五分配當を慣行してゐる。資産内容は頗る充實し、事業は和戰兩用で市販、滿支向共に需要が繁忙を極めてゐるからだ。殊に大戰による獨乙染料の後退は、當社の主製品儲化系染料の進出を容易ならしめてゐる。此の上期も原料ベンゾールの入手難、價格抑制等の悪影響はあつたが、現行配當に支障はない。高配が抑制されれば別だが、業績からは減配不安はない。

〔前途〕 今後もベンゾールの誘導體の一部自給、新製品の増産、在支仔會社維新化學の好調等好材料があるので、業績は順調を辿らう。

【資本金】	公稱 〃 五,〇〇〇	拂込 〃 三,〇〇〇
【株數】	新(〃) 〇,〇〇〇	舊(〃) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 高橋 安三郎	取締役 高橋 安三郎 高橋 善三郎 高橋 善三郎 高橋 善三郎
【大株主】	久保田 桐造 相模 義次 石坂 藤三郎 石坂 藤三郎	久保田 桐造 相模 義次 石坂 藤三郎
【事業成績】	昭和十一年 〇,〇〇〇	昭和十二年 〇,〇〇〇
【工場】	東京市品川區品川四六〇〇	東京市品川區品川四六〇〇
【名義書換】	十錢	新券交付 十錢

〔化學工業〕

# 日本ペイント

〔設立〕 明治三十一年一月  
〔決算期〕 一月、七月

(本社) 大阪市西淀川區浦江北四丁目 (電福島五五二)

〔擴充政策〕 當社の積極的擴充政策は、子會社を通じて行はれて居り、當社自體としてはあまりやつてゐない様だ。即ち昨春設立した子會社滿洲日本ペイント(資本金四百萬圓、百萬圓拂込)を通じて天津、大連、南京方面に進出せんとして居り、近く具體化される模様だ。さうなると當社はまとまつた資金を必要とするから、當社の拂込徴収も問題化するだらう。

〔七月期〕 電力制限も大したことなく切り抜けた。原料難は問題だが、當社は業界一流の會社で、而も特殊需要向製品を多く生産してゐるのだから、その不安は比較的少なく配當據置に問題あるまい。

【資本金】	公稱 〃 六,〇〇〇	拂込 〃 三,八五〇
【株數】	新(〃) 〇,〇〇〇	舊(〃) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 小畑 源之助	取締役 田中 善七 吉原 定次郎 森 善七 吉原 定次郎
【大株主】	野村 生命 野村 生命 野村 生命	野村 生命 野村 生命 野村 生命
【事業成績】	昭和十一年 〇,〇〇〇	昭和十二年 〇,〇〇〇
【工場】	東京市品川區品川四六〇〇	東京市品川區品川四六〇〇
【名義書換】	十錢	新券交付 十錢

# 關西ペイント

〔設立〕 大正七年五月  
〔決算期〕 四月、十月

(本社) 兵庫縣尼崎市神崎町三三五 (電尼崎三〇)

〔發展急〕 滿洲關西ペイント(資本金百萬圓拂込)の設立、オリエンタルペイント(資本金百萬圓、五十四萬圓拂込)の實權掌握京城化學工業(資本金三百萬圓、半額拂込)の設立、三百萬圓増資等々、當社の發展は極めて急テンポで進められてゐる。そして、滿洲關西ペイントの株式の一部公開、當社株主への優先的割當期待等、可成りの好材料にめぐまれてゐる。

〔四月期〕 四月期の利益金は七十萬四千圓、その利益率三割三分一厘で、九分配當據置に問題なかつた。下期は資本負擔が相當加重するが、配當不安はない様だ。京城化學の建設工事も順調だ。

【資本金】	公稱 〃 七,〇〇〇	拂込 〃 五,〇〇〇
【株數】	新(〃) 〇,〇〇〇	舊(〃) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 岩井 雄二	取締役 石川 郁二郎 織田 秋之助 織田 秋之助
【大株主】	岩井 雄二 岩井 雄二 岩井 雄二	岩井 雄二 岩井 雄二 岩井 雄二
【事業成績】	昭和十一年 〇,〇〇〇	昭和十二年 〇,〇〇〇
【工場】	東京市品川區品川四六〇〇	東京市品川區品川四六〇〇
【名義書換】	十錢	新券交付 十錢



【化學工業】

### 日本理化工業

【設立】大正七年七月  
【決算期】五月、十一月

（本社）東京市東區橋本三ノ三（電報掛六二一六）  
（支社）大阪市東區今橋三ノ一五（電報掛三三六一九）

【蒲田工場の擴張】去る四月一日新株に第二回拂込を徴収した。一株に付廿五圓づゝ總額百五十萬圓で、蒲田工場の高壓化學機械の製作設備擴張に向けられるものだ。これに第二期擴張費は大體賄ひ得る筈だ。工事は既に半ば以上を終了し、既増設分は昨年夏から操業を開始してゐる。時局向製品なので需要に追はれ、収益も多い。

【業況】元來當社は酸素製造が本業だが、本年上期は大坂工場が電力制限の影響を若干受けた。併し右新部門の収益増でその不振をカバーし、利益率は裕に三割臺を維持した模様だ。資本負擔は加つても一割配當路費に支障はない。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】	【資産負債】
【重役】社長 高橋是實 常務 高橋	【株主資本】	【株主資本】
【大株主】十四年十一月期	【流動資産】	【流動資産】
【事業】酸素製造機	【固定資産】	【固定資産】
【名義書換】十錢	【新券交附】	【新券交附】

### 日本硫黄

【設立】明治四十年四月  
【決算期】六月、十二月

（本社）東京市東區丸の内一ノ六（電報掛六三六八）

【業況不調】人織界の不振で二硫化炭素の販賣量は依然低調である上に、精製硫黄も需要は相當旺んたが、勞力不足や諸物價高の影響で採算難にある。加ふるに之等主業不振の轉換策として企圖された北海道大榮金山の開發工事も資材難に災されて遅延してゐる等、未働資本の壓迫もあつて、當社の現状は引續き苦難の道程にある。

【硫黄値上】ただ五月中旬に二硫化炭素の値上が決定し、更に近く精製硫黄にも適正公價が設定されるから、一應今後の業勢低下は喰ひ止められよう。工事遅延の産金事業も來春は完成するから、之等を見越して、差詰相當窮屈ながら一割配當を維持する事とならう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】	【資産負債】
【重役】社長 近藤賢二 専務 石川	【株主資本】	【株主資本】
【大株主】十四年十一月期	【流動資産】	【流動資産】
【事業】硫黄加工	【固定資産】	【固定資産】
【名義書換】十錢	【新券交附】	【新券交附】

【化學工業】

### 東海電極製造

【設立】大正七年四月  
【決算期】五月、十一月

（本社）東京市東區丸の内海上ビル内（電報掛九ノ内三六九）  
（出張所）大阪市北區中ノ島三ノ三朝日ビル内

【擴張・新設相次ぐ】目下、特殊鋼と輕金屬部内の増産計畫を進めてゐる。名古屋工場、九州工場、エレマ工場等々、増産計畫は相當大きい模様である。之等製品の需要は依然旺盛だが、更に新製品に着手するため、工場の新設と研究所の設置も考へられてゐる。

【増資と配當】以上の所要資金は約一千萬圓の見込だが、資金調整方針の嚴重となつた今日、結局半額即ち五百萬圓増資を認められることになりそうだ。残りは借入金で賄ふわけだ。五月份は勿論配當据置。増資後利潤統制を陸軍案に準じて受けるにしても、株主資本が豊富だから、一割二分配當繼續の見込みである。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】	【資産負債】
【重役】社長 寒川恒吉 常務 竹内	【株主資本】	【株主資本】
【大株主】十四年十一月期	【流動資産】	【流動資産】
【事業】電極製造	【固定資産】	【固定資産】
【名義書換】十錢	【新券交附】	【新券交附】

### 日本カーボン

【設立】大正四年十二月  
【決算期】五月、十一月

（本社）横濱市東區川崎區神奈川通九丁目（電報掛三三三）  
（事務所）東京市東區丸の内有樂館内（電報掛九ノ内三〇一）

【金額拂込】去る五月一日、未拂込二十五萬圓、總額二百五十萬圓を徴収したので、資本金は一千萬圓全額拂込済となつた。従つて再増資が現實問題となつて來た。去る十月倍額増資した許りだが、この八月頃二千萬圓へ倍額増資する豫定である。一千萬圓の内六百五十萬圓は日本炭素工業、滿洲炭素工業へ投資し、残りは自社擴張に充當する。

【業績低下】かく膨脹が餘りに急であるから資本負擔が急増する。業績の低下は免れないと思ふ。更に相對的に縮小再生産は必至だ。現行一割二分配當の恒久的持續は困難であらう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】	【資産負債】
【重役】社長 近藤賢二 専務 石川	【株主資本】	【株主資本】
【大株主】十四年十一月期	【流動資産】	【流動資産】
【事業】カーボン製造	【固定資産】	【固定資産】
【名義書換】十錢	【新券交附】	【新券交附】







【化學工業】

### オリエンタル寫眞工業

【設立】大正八年九月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市淀橋區西落合二丁目四三〇（電大塚三五一七）

【引續き好調】製品の國産化時代に應じて原料對策に奏功した當社は、軍需用の増加と滿支等國プロック向輸出の旺盛で昨年同期は利益率三割二分一厘と前年同期に比し、實に一方の向上を示した。本年上期も未だ原料ストックは豊富だし、電力制限の影響も操業に左して支障なかつた。従つて成績は更に若干向上する。

【再増配か】當社は昨年同期一分増の九分増配を行つたばかりだが、本年五ヶ月の業績は引續きいゝのだから、當局の許可さへあれば一分再増配は可能だ。今般の所謂適正配當から見ても一割配當は妥當なのだから、上期に配當せねば、下期に實現とならう。

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 4,950,000

【株数】新(100.0) 100,000 舊(50.0) 50,000

【重役】社長 桂之助 常務 菊地 政治  
部長 菊地 久吉 取締役 荒井 建三  
常務 中鉢 直綱 監査 浅沼 龍吉  
安藤 國之助 小泉 壽太郎

【大株主】十四年十一月期 六六名  
菊地 友雄 八〇〇 極東 興業 六六名  
昭和寫眞 一八三 菊地 久吉 一五九

【事業規模】工場敷地 八〇、〇〇坪  
工場所在地 東京市中野區江古田

【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】

株主資本	11,200,000	十四年十一月
外部負債	5,500,000	十四年十一月
流動資産	7,500,000	十四年十一月
固定資産	2,500,000	十四年十一月
平均拂込	4,950,000	十四年十一月
平均利益	2,200,000	十四年十一月
平均配當	1,800,000	十四年十一月

【株價】(買物) 十四年十一月 三三・〇〇  
十四年十月 三三・〇〇  
十四年九月 三三・〇〇  
十四年八月 三三・〇〇  
十四年七月 三三・〇〇  
十四年六月 三三・〇〇  
十四年五月 三三・〇〇  
十四年四月 三三・〇〇  
十四年三月 三三・〇〇  
十四年二月 三三・〇〇  
十四年一月 三三・〇〇

### 富士寫眞フィルム

【設立】昭和九年一月  
【決算期】四月、十月  
【本社】神奈川県足柄上郡南足柄村中沼二〇（電南本五一三）  
【出張所】東京市京橋區銀座西二丁目三（電京橋六六一五）

【四月期順調】原料特に硝酸銀の不足甚しく且つ當期は石炭、電力減の影響もあつて操業上多少の支障は享けた。然し原材料の國産化で、前期程度の生産數量を維持し販賣高は却つて百萬圓を増した。フィルム、醫用乾板等軍需民需共に旺盛だつたからだ。利益率にして一分向上の四割二分八厘を示し、一割配當は餘裕裡に据置けた。

【拂込迫る】豫てより小田原、今泉工場と擴張工事に着手して、原材料の自給、増産計畫を進めてゐる。既に之等資金として六百萬圓の借入金があり、その返済の爲め近く最終拂込が徴收される筈だ。擴張分が収益期に入れば兎も角、増資は當分情勢の推移に俟たう。

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 6,150,000

【株数】新(100.0) 100,000 舊(50.0) 50,000

【重役】社長 浅野修一 常務 作間 政介  
取締役 平田篤太郎 西宗茂二  
井上 通吉 春木 榮 森田 茂雄 小林 節  
太郎 監査 伊藤 吉次郎 磯村 増雄

【大株主】十四年十一月期 六六名  
大日本 三三三 岩井 英夫 三三三  
浅野 修一 二二二 岩井 英夫 三三三

【工場】本社、鎌倉、小田原  
【事業規模】(千圓) 十四年十一月 三三三  
製造費(千圓) 十四年十一月 三三三

【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】

株主資本	13,200,000	十四年十一月
外部負債	7,500,000	十四年十一月
流動資産	8,500,000	十四年十一月
固定資産	2,500,000	十四年十一月
平均拂込	6,150,000	十四年十一月
平均利益	2,200,000	十四年十一月
平均配當	1,800,000	十四年十一月

【株價】(買物) 十四年十一月 三三・〇〇  
十四年十月 三三・〇〇  
十四年九月 三三・〇〇  
十四年八月 三三・〇〇  
十四年七月 三三・〇〇  
十四年六月 三三・〇〇  
十四年五月 三三・〇〇  
十四年四月 三三・〇〇  
十四年三月 三三・〇〇  
十四年二月 三三・〇〇  
十四年一月 三三・〇〇

【化學工業】

### 日本製錬

【設立】大正四年九月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】東京市江戸區小松川一ノ一（電墨田四四〇）  
【事務所】東京市本郷區駒込東片町（電小石川三六）

【操業】今年上期始めから、豫ねて擴張中の第一期分がほぼ完成し稼働期を迎へたが、曹達關係の方は工業鹽不足による我がアルカリ工業の受難を反映して、やゝ操業不如意の状態にある。クローム關係品は大きい變化はないが、その原嶺山開發も思ふ程進まぬ様だ。

【収益】然し賣行きは極めてよく、最近特に×需が殖へるので、民需向を減らしてゐる。今年上期は、昨秋十月二十日の拂込百九十三萬七千圓徴收の關係で、利益率は若干低下したが、一割配當維持には支障はなかつた。借入金の返済上、次の拂込期も遠くない見込である。然し懸案の増資は大ぶ先になる模様だ。

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 6,600,000

【株数】新(100.0) 100,000 舊(50.0) 50,000

【重役】社長 藤橋 實五郎 常務 大塚 寛治  
取締役 中野 芳太郎 取締役 橋本 圭三  
三郎 西脇 三郎 河内 三九郎 鈴木 徳三郎  
本留 次 貝塚 徳之助 相談 門野 重九郎

【大株主】十四年十一月期 一、〇六名  
藤橋 實五郎 三、〇七 大阪屋商店 七、〇〇〇  
重百 壽 四、〇〇〇 千代田生命 四、〇〇〇

【年産能力】(單位=千噸) 十一年下現在  
重クロム酸鹽類 三、二 黄赤鐵 一、一  
硫酸曹達 一、一 過マンガン 一、一

【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】

株主資本	12,200,000	十四年十一月
外部負債	6,000,000	十四年十一月
流動資産	7,500,000	十四年十一月
固定資産	2,500,000	十四年十一月
平均拂込	6,600,000	十四年十一月
平均利益	2,200,000	十四年十一月
平均配當	1,800,000	十四年十一月

【株價】(買物) 十四年十一月 三三・〇〇  
十四年十月 三三・〇〇  
十四年九月 三三・〇〇  
十四年八月 三三・〇〇  
十四年七月 三三・〇〇  
十四年六月 三三・〇〇  
十四年五月 三三・〇〇  
十四年四月 三三・〇〇  
十四年三月 三三・〇〇  
十四年二月 三三・〇〇  
十四年一月 三三・〇〇

### 松下乾電池

【設立】昭和十年十二月  
【決算期】四月、十月  
【本社】大阪府北河内郡三郷町大字高瀬（電堀川 五五二一五）

【比重】當社は松下電器産業の子會社中最も有力なもので、昭和十三年五月總株數十萬株のうち約二萬株を公開して株式に市場性を附した。主製品は乾電池で我國生産高の約七割を占めてゐる。原料中鉛が最も入手難だが、それによる減産は一割位の様だ。

【新製品】今春電解金屬滿庵の工場生産に我國最初の成功を収めた。輕合金用として極めて重要なもので、今後の擴充は此の部門に注がれる。業績内容共に良好だから、現配當は維持可能だが、利潤統制、配當制限等の關係もあり、次の拂込を機會に一割に改めるかも知れない。

【資本金】公稱 5,000,000 拂込 3,500,000

【株数】新(100.0) 100,000 舊(50.0) 50,000

【重役】社長 松下幸之助  
取締役 吉田 幸太郎 取締役 小松 隆一  
取締役 岡田 徳太郎 監査 龍山 武雄  
井植 進雄 井植 祐郎

【大株主】十四年十月期 三〇名  
松下幸之助 三、〇〇〇 松下電器産業 三、〇〇〇

【營業種目】乾電池、携帶電燈、特殊電極、人工滿庵の製造販賣、

【關係會社】松下電器産業の子會社

【資産負債】

株主資本	4,400,000	十四年十一月
外部負債	1,100,000	十四年十一月
流動資産	6,100,000	十四年十一月
固定資産	1,600,000	十四年十一月
平均拂込	3,500,000	十四年十一月
平均利益	2,200,000	十四年十一月
平均配當	1,800,000	十四年十一月

【株價】(買物) 十四年十一月 三三・〇〇  
十四年十月 三三・〇〇  
十四年九月 三三・〇〇  
十四年八月 三三・〇〇  
十四年七月 三三・〇〇  
十四年六月 三三・〇〇  
十四年五月 三三・〇〇  
十四年四月 三三・〇〇  
十四年三月 三三・〇〇  
十四年二月 三三・〇〇  
十四年一月 三三・〇〇







【製紙パルプ事業】

### 三菱製紙

【設立】大正六年十一月  
【決算期】四月、十月

(本社) 東京市豊町九ノ内二ノ六 (電九ノ内三三八)

【成績不墜】當社は三菱系の製紙部門を擔つてゐる會社で、三井系の王子製紙に次いで有力な本邦第二の製紙會社である。三菱の強力バックの故に、毎期業績の向上を示し、十四年下期は近來の最高成績であつた。今後はパルプ、麻等の製紙原料の入手難や價格騰貴によるコスト高も著しい爲成績の飛躍は望めぬが、當社の製品はバライタ紙、ケント紙、地圖用紙、電氣絶縁体、煙草用紙等の特殊紙が多く、それらは従前通りの製造高は維持されると思はれるし、堅實決算を以て聞えた會社であり、又手元余裕も多いから成績の早急な逆轉も考へられない。現状維持と云へよう。

【資本金】公稱 10,000 拂込済 10,000  
【株数】(株) 100,000

【重役】  
専務 會長 二國三樹三  
取締役 岩崎 信實 英藏 國本 達夫  
三島 隆彌 監査 加藤 武男  
三島 四郎 前田 幸太郎  
岩崎 久彌 七、六〇〇 明治生命 九、八八五  
東京海上火災 10,000 三井海上火災 五、〇〇〇

【事業規模】  
抄紙機(台) 十三年下 十三年上 十四年下  
製造高(千封度) 1,000 1,100 1,200  
販賣高(千封度) 1,000 1,100 1,200  
工場所在地 高砂、中川、三六  
【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢

【資産負債】

項目	十三年	十四年	十四年
株主資本	1,779	2,822	3,434
外部負債	635	433	433
使用総資本	2,414	3,255	3,867
固定資産	1,000	1,100	1,200
流動資産	1,414	2,155	2,667
平均拂込	1,000	1,100	1,200
利益率	10.0%	11.0%	12.0%

【株價】  
十五年 高値 安値  
十四年 高値 安値  
十三年 高値 安値  
五月 高値 安値

### 北越製紙

【設立】明治四十年五月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 長岡市蔵王町八〇〇 (三三三) (電日本橋四三二四)

【營業近況】當社の主業は板紙、ファイバー及び洋紙の生産である。板紙は歐洲戰亂の勃發に伴ふ印度方面への輸出増進と原料不足の故に國內に空前の品不足を齎したが、四月八日の公價引上げて原料入手の増加に伴つて生産の増量が期待される。ファイバーは皮革代用品としての重要さから、昨年同期五割方の増産が行はれ、洋紙は四月以降幾分の配炭増加がなされたとは云へ依然減産を免れぬ。當社の主力は寧ろ板紙とファイバーにあるので此の點惠まれてゐる。

【上期及び下期】コスト高の悩みは生産の増加でカバーされるので、五下期及び十一月期とも業績は従前並が期待される。

【資本金】公稱 10,000 拂込済 10,000  
【株数】(株) 100,000

【重役】  
専務 田村文吉 取締役 小川清  
田村文吉 中村恒 小林宗作 監査 山本  
留次 山口誠太郎 山口健造 相談  
大橋新太郎 山口政治  
【大株主】十四年十一月期 一、三三名  
山口誠太郎 六、八〇〇 反町文之助 五、〇〇〇  
田村文吉 四、八〇〇 田村文之助 四、〇〇〇  
【事業規模】抄紙機 二臺 碎木機 九臺  
亞硫酸木釜 三基 塗工機 一臺  
【工場】長岡 新潟 市川 沼垂 附船  
【名義書換】五錢 【新券交付】二十錢

【資産負債】

項目	十三年	十四年	十四年
株主資本	2,557	3,339	3,777
外部負債	1,000	1,000	1,000
使用総資本	3,557	4,339	4,777
固定資産	1,000	1,100	1,200
流動資産	2,557	3,239	3,577
平均拂込	1,000	1,100	1,200
利益率	10.0%	11.0%	12.0%

【株價】  
十五年 高値 安値  
十四年 高値 安値  
十三年 高値 安値  
五月 高値 安値

【製紙パルプ事業】

### 高崎板紙

【設立】大正三年三月  
【決算期】三月、九月

(本社) 群馬縣高崎市八島町一九二 (電三三三)

【業績向上】當社の三下期利益金は百六萬圓と前期より若干の増益を示し、依然一割五分といふ製紙會社中唯一の高率配當を維持した。東京及び日光の兩工場の完成で、從來の未働資本がフル運轉を始めたこと、三十年の熟練なる經營技術の合理性、原料パルプの自給目足及び採算不味の黄ボール、茶ボール等普通物の生産よりは特殊ボールの生産に主力をつくしてきたこと等によるものだ。

【九下期以後】配炭制限は苦痛だが、板紙公價の引上げ、官廳筋からのクラフトパルプ増産奨励は當社業績を有利ならしめる。未拂込の徴收の實現までは現行配當維持は可能だらう。

【資本金】公稱 10,000 拂込済 10,000  
【株数】(株) 100,000

【重役】  
専務 小柏朝光 常務 黒崎義平  
高木千尋 取締役 櫻井伊兵衛 藤原定吉  
木村重三郎 井上房一郎 相澤吉平 秋  
伊藤常七 清水新一郎 前田利定 相談  
矢坂寛 廣藤大兵衛  
【大株主】十五年三月期 一、六四名  
井上房一郎 一、七〇〇 芥川辰次郎 八、八八五  
前田 利一 一、七〇〇 秋山 辰吉 八、八八五

【事業規模】抄紙機 八臺 蒸釜 一七個  
【年産能力】板紙 六、四〇〇 題  
クラフトパルプ 二、〇〇〇 題  
【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢

【資産負債】

項目	十四年	十四年	十五年
株主資本	2,557	3,339	3,777
外部負債	1,000	1,000	1,000
使用総資本	3,557	4,339	4,777
固定資産	1,000	1,100	1,200
流動資産	2,557	3,239	3,577
平均拂込	1,000	1,100	1,200
利益率	10.0%	11.0%	12.0%

【株價】  
十五年 高値 安値  
十四年 高値 安値  
十三年 高値 安値  
五月 高値 安値

### 日本紙業

【設立】大正二年八月  
【決算期】六月、十二月

(本社) 東京市四谷區元町五九 (電四谷八〇一)

【昨年同期業績】昨年同期の利益は三十七萬六千圓で同年前期と略々同額の利益を計上してゐる。だがこれは多額の償却を行つた後の純益であつて、償却前の利益は百五十五萬八千圓に達し、利益率は三割四分五厘といふ高率のものであつた。當社にとつて最大の痛は不良資産の存在であつて、それさへなかつたら相當の配當を行ひ得た筈である。

【見越し】電力の制限は大して受けてゐず、石炭の不足も木屑等の利用で相當カバーされて居り、好採算のものを選び食ひでる便宜も持つてをるから、上期下期共従前並の業績は期待される。

【資本金】公稱 10,000 拂込済 10,000  
【株数】(株) 100,000

【重役】  
専務 加藤 正雄 取締役 高見幸次郎  
常務 中内 鹿吉 山本 留次  
川崎 清男 監査 宇田龜代滿  
河路 寅三 宮口 竹雄  
【大株主】十四年十二月期 一、五三名  
安田銀行 一、〇〇〇 丸内商事 一、三二〇  
安田保壽社 二、〇〇〇 京橋商事 三、〇〇〇  
【事業規模】工場 東京、高知、山口  
【年産能力】紙(千封度) 十三年上 十三年下  
紙(千封度) 十三年上 十三年下  
和紙(千封度) 十三年上 十三年下

【資産負債】

項目	十三年	十四年	十四年
株主資本	2,557	3,339	3,777
外部負債	1,000	1,000	1,000
使用総資本	3,557	4,339	4,777
固定資産	1,000	1,100	1,200
流動資産	2,557	3,239	3,577
平均拂込	1,000	1,100	1,200
利益率	10.0%	11.0%	12.0%

【株價】  
十五年 高値 安値  
十四年 高値 安値  
十三年 高値 安値  
五月 高値 安値



### 日曹人絹パルプ

〔設立〕昭和十二年三月  
〔決算期〕四月、十月

〔本社〕東京市麹町区大手町二ノ八（電丸ノ内野五六）

〔原材料自給化〕當社のパルプが、品質極めて優良であることは此所に改めて言ふまでもない。原木を自給し、薬品は親会社日曹よりの供給を受けてゐることは當社の強味として知られてゐるところであるが、最近石炭の自給を目ざして福岡縣の某炭礦を買収せんとしてゐることも注目されねばならぬ。

〔拂込近し〕此のため、當社は相當の資金を要するので、近く拂込を徴収する筈だ。遅くとも今年九月までにはこれは實現するものと見られる。徴収金額は一株につき十二圓五十錢、總額七百五十萬圓である。拂込徴収後も配當維持には問題はないものと思ふ。

【資本金】公稱 20,000 拂込 25,000

【株数】(株) 200,000

【役員】社長 武田次郎 常務 山田昌作 副社長 藤田正治 取締役 古庄健兵衛 山崎正三 古庄健兵衛 山崎正三 古庄健兵衛 山崎正三

【事業規模】工場 福岡縣(人絹加工) 工場(スパン) 福岡縣(人絹加工) 工場(スパン) 福岡縣(人絹加工)

【事業能力】二萬噸

【資産負債】十四年 十四年 十四年

株主資本 18,000 18,000 18,000

外部負債 1,000 1,000 1,000

流動資産 1,000 1,000 1,000

固定資産 1,000 1,000 1,000

平均純益 1,000 1,000 1,000

平均配当 1,000 1,000 1,000

【株主】(株主) 1,000 1,000 1,000

【業績】(業績) 1,000 1,000 1,000

【名義書換】(名義書換) 1,000 1,000 1,000

### 北鮮製紙化學工業

〔設立〕昭和十一年  
〔決算期〕三月、九月

〔本社〕成鏡北道吉州郡 吉州邑營基洞  
〔出張所〕東京市麹町区有樂町一丁目三信ビル（電銀座四六）

〔三月期業績〕當社の三月期決算は、擴張工事の完成で生産數量一萬三千七百噸と、前二期の何れよりも増産を示してゐるに拘らず、利益金は八十三萬圓でなほ前年同期に比し却て二十二萬圓の減益だ。原木價格の無統制によるコスト高と製品價格の公定による利益分留り減少の爲めだ。

〔九月期業績〕擴張設備の運轉開始は昨年十二月で、九月期は期の全体を通じて増産に恵まれ、一萬五千噸の生産は確實だ。だが、歐洲戰亂の擴大で晒用原鹽等の輸入難は前記の制約諸事情と共に増産の成果を相殺する。下期業績は前期並みで一割配當強行の方針。

【資本金】公稱 20,000 拂込 10,000

【株数】(株) 200,000

【役員】社長 高島勇次郎 副社長 取正 藤原重雄 横井三郎 取締役 大橋新太郎 田中治朗 井上三郎 古庄健兵衛 山崎正三 古庄健兵衛 山崎正三

【事業規模】工場 朝鮮咸鏡北道吉州 工場(スパン) 朝鮮咸鏡北道吉州

【事業能力】三萬噸

【資産負債】十四年 十四年 十四年

株主資本 18,000 18,000 18,000

外部負債 1,000 1,000 1,000

流動資産 1,000 1,000 1,000

固定資産 1,000 1,000 1,000

平均純益 1,000 1,000 1,000

平均配当 1,000 1,000 1,000

【株主】(株主) 1,000 1,000 1,000

【業績】(業績) 1,000 1,000 1,000

【名義書換】(名義書換) 1,000 1,000 1,000

### 満洲パルプ工業

〔設立〕昭和九年五月  
〔決算期〕二月、八月

〔本社〕満洲國牡丹江省牡丹江市柳林  
〔支社〕東京市麹町区丸の内二ノ六八重洲ビル（電丸ノ内野五六）

〔拂込徴収〕當社は去る三月一日、一株につき十二圓五十錢、總額二百五十萬圓の拂込徴収を行った。工場擴張と人絹パルプの晒機械設備に要した借入金五百萬圓の半額返済に充てられた。借入金利子は年四分に當り、配當は五分だから一分の負擔増となる。

〔下期業績〕三月期の利益は十六萬圓で、前々期に比し一萬圓の減益だ。九月は、外國パルプの輸入難が傳へられる折柄日滿一体のパルプ増産が予想され、當社も一萬五千噸の生産を目指してゐる。また、人絹用七、製紙用三の割合だから、かなりの業績向上が見込まれるが、之は大體拂込負擔で相殺される。五分配當踏襲だらう。

【資本金】公稱 20,000 拂込 25,000

【株数】(株) 200,000

【役員】社長 寺田元之助 常務 寺田元之助 副社長 寺田元之助 取締役 寺田元之助 寺田元之助 寺田元之助

【事業規模】工場 満洲國 工場(スパン) 満洲國

【事業能力】二萬噸

【資産負債】十四年 十四年 十四年

株主資本 18,000 18,000 18,000

外部負債 1,000 1,000 1,000

流動資産 1,000 1,000 1,000

固定資産 1,000 1,000 1,000

平均純益 1,000 1,000 1,000

平均配当 1,000 1,000 1,000

【株主】(株主) 1,000 1,000 1,000

【業績】(業績) 1,000 1,000 1,000

【名義書換】(名義書換) 1,000 1,000 1,000

### 大日本セロファン

〔設立〕昭和六年六月  
〔決算期〕四月、十月

〔本社〕名古屋市西區光音寺町字旭一〇〇（電東三六）

〔操業平調〕公定價格の設定で國內向の採算は一杯、のみならずパルプ割當が生産能力の六、七割に過ぎないから、輸出品がこのところ唯一の収入源だ。五月末を以て終る上期の生産高は約三萬連、電力制限も全期を通じてみた場合大した影響とならず、八割餘の操業率となつて利益金は大體前期並、六分配當は据置かれやう。

〔今後〕歐戰の成行で輸出の前途如何が問題だ。しかし公定價格引上げの要望強くこれが實現すれば輸出如何にか、はらず前途は明るくならう。原料パルプおよび薬品の配給減、工員の雇入制限など障害は少くないが、現在程度の業績を維持するに困難はない。

【資本金】公稱 20,000 拂込 10,000

【株数】(株) 200,000

【役員】社長 中野友輔 常務 高木嘉六 副社長 高木嘉六 取締役 高木嘉六 高木嘉六 高木嘉六

【事業規模】工場 人絹日産能力 透明紙抄造機

【事業能力】二萬噸

【資産負債】十四年 十四年 十四年

株主資本 18,000 18,000 18,000

外部負債 1,000 1,000 1,000

流動資産 1,000 1,000 1,000

固定資産 1,000 1,000 1,000

平均純益 1,000 1,000 1,000

平均配当 1,000 1,000 1,000

【株主】(株主) 1,000 1,000 1,000

【業績】(業績) 1,000 1,000 1,000

【名義書換】(名義書換) 1,000 1,000 1,000



【製紙パルプ事業】

### 日曹人絹パルプ

〔設立〕昭和十二年三月  
〔決算期〕四月、十月

(本社) 東京市豊町区大手町二ノ八(電丸ノ内四七英)

【原材料自給化】當社のパルプが、品質極めて優良であることは此所に改めて言ふまでもない。原木を自給し、薬品は親會社日曹よりの供給を受けてゐることは當社の強味として知られてゐるところであるが、最近石炭の自給を目ざして福岡縣の某炭礦を買収せんとしてゐることも注目されねばならぬ。

【拂込近し】此のため、當社は相當の資金を要するので、近く拂込を徴収する筈だ。遅くとも今年九月までにはこれは實現するものと見られる。徴収金額は一株につき十二圓五十錢、總額七百五十萬圓である。拂込徴収後も配當維持には問題はないものと思ふ。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 11,500,000
【株数】	(株) 100,000	60,000
【重役】	社長 中野友輔 常務 山田昌作 取締役 武藤次郎 岸本吉左衛門 伊藤忠兵衛 石橋正二郎 小泉俊三 金井 藤田大助 馬場正治 小松三郎 古庄健太郎 岸本吉左衛門 伊藤忠兵衛 石橋正二郎 小泉俊三 金井 藤田大助 馬場正治 小松三郎	

【資産負債】	十二年	十四年	十四年
株主資本	11,500,000	11,500,000	11,500,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
使用総資本	12,500,000	12,500,000	12,500,000
流動資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定資産	2,500,000	2,500,000	2,500,000
平均株価	115	115	115
平均配当	12.5%	12.5%	12.5%
【業績】	十二年	十四年	十四年
売上	10,000,000	10,000,000	10,000,000
利益	1,000,000	1,000,000	1,000,000
【株価】	十二年	十四年	十四年
高値	120	120	120
安値	110	110	110
【名義書換】	十錢	【新券交付】	二十錢

### 北鮮製紙化學工業

〔設立〕昭和十一年  
〔決算期〕三月、九月

(本社) 威鏡北道吉州郡 吉州邑營基洞  
(出張所) 東京市豊町区有楽町一丁目三信ビル(電銀座二四充)

【三月期業績】當社の三月期決算は、擴張工事の完成で生産數量一万三千七百噸と、前二期の何れよりも増産を示してゐるに拘らず、利益金は八十三萬圓でなほ前年同期に比し却て二十二萬圓の減益だ。原木價格の無統制によるコスト高と製品價格の公定による利益分留り減少の爲めだ。

【九月期業績】擴張設備の運轉開始は昨年十二月で、九月期は期の全体を通じて増産に恵まれ、一万五千噸の生産は確實だ。だが、歐洲戰亂の擴大で晒用原鹽等の輸入難は前記の制約諸事情と共に増産の成果を相殺する。下期業績は前期並みで一割配當強行の方針。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 10,000,000
【株数】	(株) 100,000	80,000
【重役】	社長 高島菊太郎 副社長 足立正 藤原喜藏 横井三郎 取締役 大橋新太郎 田中治朗 井上憲一 朴興植 益田平藏 監査 松本弘造 韓相龍 田邊武次 下津謙藏 金原邦光 相談 多田榮吉	

【資産負債】	十四年	十四年	十四年
株主資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
使用総資本	11,000,000	11,000,000	11,000,000
流動資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
平均株価	110	110	110
平均配当	11%	11%	11%
【業績】	十四年	十四年	十四年
売上	10,000,000	10,000,000	10,000,000
利益	1,000,000	1,000,000	1,000,000
【株価】	十四年	十四年	十四年
高値	115	115	115
安値	105	105	105
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

【製紙パルプ事業】

### 満洲パルプ工業

〔設立〕昭和九年五月  
〔決算期〕二月、八月

(本社) 満洲國牡丹江省牡丹江市柳林  
(支社) 東京市豊町区丸ノ内二ノ六八重州ビル(電丸ノ内四七英)

【拂込徴収】當社は去る三月一日、一株につき十二圓五十錢、總額二百五十萬圓の拂込徴収を行った。工場擴張と人絹パルプの晒機械設備に要した借入金五百萬圓の半額返済に充てられた。借入金利子は年四分に當り、配當は五分だから一分の負擔増となる。

【下期業績】三月期の利益は十六萬圓で、前々期に比し一萬圓の減益だ。九月は、外國パルプの輸入難が傳へられる折柄日滿一体のパルプ増産が予想され、當社も一萬五千噸の生産を目指してゐる。また、人絹用七、製紙用三の割合だから、かなりの業績向上が見込まれるが、之は大體拂込負擔で相殺される。五分配當踏襲だらう。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 11,500,000
【株数】	(株) 100,000	60,000
【重役】	社長 寺田元之助 常務 木下莊之助 社長 高橋 一 南郷三郎 岸本五兵衛 取締役 藤田大助 馬場正治 小松三郎 監査 信貴英藏 奥田保次 眞 植村家治 玉荆山 相談 大橋新太郎 植村澄三郎	

【資産負債】	十四年	十四年	十四年
株主資本	11,500,000	11,500,000	11,500,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
使用総資本	12,500,000	12,500,000	12,500,000
流動資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定資産	2,500,000	2,500,000	2,500,000
平均株価	115	115	115
平均配当	12.5%	12.5%	12.5%
【業績】	十四年	十四年	十四年
売上	10,000,000	10,000,000	10,000,000
利益	1,000,000	1,000,000	1,000,000
【株価】	十四年	十四年	十四年
高値	120	120	120
安値	110	110	110
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

### 大日本セロファン

〔設立〕昭和六年六月  
〔決算期〕四月、十月

(本社) 名古屋市西區光音寺町字旭一〇〇(電東三六)

【操業平調】公定價格の設定で國內向の採算は一杯、のみならずパルプ割當が生産能力の六、七割に過ぎないから、輸出物がこのところ唯一の収入源だ。五月末を以て終る上期の生産高は約三萬連、電力制限も全期を通じてみた場合大した影響とならず、八割餘の操業率となつて利益金は大體前期並、六分配當は据置かれやう。

【今後】歐戰の成行で輸出の前途如何が問題だ。しかし公定價格引上げの要望強くこれが實現すれば輸出如何にか、はらず前途は明るくならう。原料パルプおよび薬品の配給減、工員の雇人制限など障害は少くないが、現在程度の業績を維持するに困難はない。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 11,000,000
【株数】	(株) 100,000	80,000
【重役】	社長 中野友輔 常務 下野 義雄 取締役 青木留次郎 高木 嘉六 監査 片山孝之助 藤田大助 兵三 片山孝之助 加藤 兵三	

【資産負債】	十二年	十四年	十四年
株主資本	11,000,000	11,000,000	11,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
使用総資本	12,000,000	12,000,000	12,000,000
流動資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定資産	2,000,000	2,000,000	2,000,000
平均株価	110	110	110
平均配当	11%	11%	11%
【業績】	十二年	十四年	十四年
売上	10,000,000	10,000,000	10,000,000
利益	1,000,000	1,000,000	1,000,000
【株価】	十二年	十四年	十四年
高値	115	115	115
安値	105	105	105
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢



【製紙パルプ事業】

# ラサパルプ工業

【設立】昭和十三年五月  
【決算期】三月、九月

(本社) 大阪市西淀川區高見町一ノ六四

【上期増配】 當社は昨年度下期六分の初配當をつけ、今年上期には一分増の七分配當に改めた。成績が良好であつたからだ。下期も依然悪くない見込だから、一分増の八分配當が期待される。

【前途】 原料「ワラ」の集收に一抹の不安が感ぜられたが、漸く打開策を確立したので、前途は安心してよからう。薬品關係ではラサ工業より少なからぬ援助があるので、他社よりは有利な地位にある譯である。彼れはれ考へ合せて見ると、將來手放しに樂觀出來ぬとして、大勢に先づ不安はないやうである。代用パルプ會社として當社は先づ成功の部に屬する一つだ。

【資本金】 公稱 二、五〇、〇〇〇 拂込 一、三〇〇、〇〇〇

【株数】 (五〇〇) 五〇、〇〇〇

【重役】  
社長 小野 義夫  
専務 小野 小次郎  
取締役 小野 大次郎、小野 三郎、小野 四郎、小野 五郎、小野 六郎、小野 七郎、小野 八郎、小野 九郎、小野 十郎、小野 十一郎、小野 十二郎、小野 十三郎、小野 十四郎、小野 十五郎、小野 十六郎、小野 十七郎、小野 十八郎、小野 十九郎、小野 二十郎、小野 二十一郎、小野 二十二郎、小野 二十三郎、小野 二十四郎、小野 二十五郎、小野 二十六郎、小野 二十七郎、小野 二十八郎、小野 二十九郎、小野 三十郎、小野 三十一郎、小野 三十二郎、小野 三十三郎、小野 三十四郎、小野 三十五郎、小野 三十六郎、小野 三十七郎、小野 三十八郎、小野 三十九郎、小野 四十郎、小野 四十一郎、小野 四十二郎、小野 四十三郎、小野 四十四郎、小野 四十五郎、小野 四十六郎、小野 四十七郎、小野 四十八郎、小野 四十九郎、小野 五十郎、小野 五十一郎、小野 五十二郎、小野 五十三郎、小野 五十四郎、小野 五十五郎、小野 五十六郎、小野 五十七郎、小野 五十八郎、小野 五十九郎、小野 六十郎、小野 六十一郎、小野 六十二郎、小野 六十三郎、小野 六十四郎、小野 六十五郎、小野 六十六郎、小野 六十七郎、小野 六十八郎、小野 六十九郎、小野 七十郎、小野 七十一郎、小野 七十二郎、小野 七十三郎、小野 七十四郎、小野 七十五郎、小野 七十六郎、小野 七十七郎、小野 七十八郎、小野 七十九郎、小野 八十郎、小野 八十一郎、小野 八十二郎、小野 八十三郎、小野 八十四郎、小野 八十五郎、小野 八十六郎、小野 八十七郎、小野 八十八郎、小野 八十九郎、小野 九十郎、小野 九十一郎、小野 九十二郎、小野 九十三郎、小野 九十四郎、小野 九十五郎、小野 九十六郎、小野 九十七郎、小野 九十八郎、小野 九十九郎、小野 百郎

【資産負債】

株主資本	十四年	九十四年	十五年
外部負債	一、二〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	一、三〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

【資本金】 公稱 二〇、〇〇〇、〇〇〇 拂込 一〇、〇〇〇、〇〇〇

【株数】 (二〇〇) 二〇、〇〇〇

【重役】  
社長 高島 菊次郎  
専務 高島 長次郎  
取締役 高島 三郎、高島 四郎、高島 五郎、高島 六郎、高島 七郎、高島 八郎、高島 九郎、高島 十郎、高島 十一郎、高島 十二郎、高島 十三郎、高島 十四郎、高島 十五郎、高島 十六郎、高島 十七郎、高島 十八郎、高島 十九郎、高島 二十郎、高島 二十一郎、高島 二十二郎、高島 二十三郎、高島 二十四郎、高島 二十五郎、高島 二十六郎、高島 二十七郎、高島 二十八郎、高島 二十九郎、高島 三十郎、高島 三十一郎、高島 三十二郎、高島 三十三郎、高島 三十四郎、高島 三十五郎、高島 三十六郎、高島 三十七郎、高島 三十八郎、高島 三十九郎、高島 四十郎、高島 四十一郎、高島 四十二郎、高島 四十三郎、高島 四十四郎、高島 四十五郎、高島 四十六郎、高島 四十七郎、高島 四十八郎、高島 四十九郎、高島 五十郎、高島 五十一郎、高島 五十二郎、高島 五十三郎、高島 五十四郎、高島 五十五郎、高島 五十六郎、高島 五十七郎、高島 五十八郎、高島 五十九郎、高島 六十郎、高島 六十一郎、高島 六十二郎、高島 六十三郎、高島 六十四郎、高島 六十五郎、高島 六十六郎、高島 六十七郎、高島 六十八郎、高島 六十九郎、高島 七十郎、高島 七十一郎、高島 七十二郎、高島 七十三郎、高島 七十四郎、高島 七十五郎、高島 七十六郎、高島 七十七郎、高島 七十八郎、高島 七十九郎、高島 八十郎、高島 八十一郎、高島 八十二郎、高島 八十三郎、高島 八十四郎、高島 八十五郎、高島 八十六郎、高島 八十七郎、高島 八十八郎、高島 八十九郎、高島 九十郎、高島 九十一郎、高島 九十二郎、高島 九十三郎、高島 九十四郎、高島 九十五郎、高島 九十六郎、高島 九十七郎、高島 九十八郎、高島 九十九郎、高島 百郎

【資産負債】

株主資本	十四年	十四年	十五年
外部負債	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
流動負債	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇

【上期無配】 十四年度下期末の風水害で工場浸水の憂目を見たが、その後の復舊工事で、本年上期早々操業を開始し、期初以来人絹パルプ規正品の抄造を見るに至つた。然し乍ら設備未完成の故に、四月期の決算は利益金三十三萬七千圓に止まり、利益率又六分七厘にすぎず、遂に無配を續行した。

【下期に配當か】 工場各部機械、就中製薬及び木釜關係の設備に對する擴張及び改良、廢液處理設備の改修等の諸工事は目下着々と進捗しつつあり、下期中には大體の完成見込であるから、今期は五分程度の配當開始可能な業績を挙げ得ると思はれる。

# 日本パルプ工業

【設立】昭和十二年六月  
【決算期】四月、十月

(本社) 東京市京橋區銀座四ノ三富士ビル(電京橋九五セ)

【製紙パルプ事業】

【セメント事業】

# 淺野セメント株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館(電丸ノ内五〇一九)

【上期一分増配】 當社は上期決算を四月で締切つた。從來の決算期は六月であつたが、五月一日土佐セメントとの合併を考慮して四月にした譯だ。四ヶ月間のセメント出荷高は約五十二萬噸で、これを六ヶ月の前期と對照すれば略々同數量となる。共販會社設立と公價改訂に惠まれて賣値は良かつた。即ち、應當り差益は前期に比し五十錢方の向上を示す三圓五十錢弱みだ。セメント益は約八十二萬圓に達し、スレート益八十萬圓、有價證券投資、電氣製鋼益五十萬圓を合して、上期總利益は三百二萬圓を計上した。之を六ヶ月に引き直すと總利益四百五十三萬圓となり、利益率又前期に比し六厘方の向上となり、豫想の如く一分増の六分配當を行つた。

【漸やく好調に入る】 業界の前途は一に石炭の入手額如何にかかるが、四一九月期の石炭割當量は操短率五割五分を可能ならしむる額に上る。尤も實際入手の段にならざるも樂觀を許されたいが、斯業は過般物動計畫の指定品目の中に編入されることになつたので、從來より石炭配給に惠まれる事は疑ひない。生産の過小に對し、需要は急増一路を辿つて居るのだから、當社の出荷増加には期して俟つ可きものがある。下期豫定出荷百萬噸とされて居るのに徴しても、これからは若干情勢がよくなるものと思ふ。

【設立】 大正元年十月  
【決算期】 六月、十二月

【資本金】 セメント、スレート  
【株数】 (二六、三〇〇) 二六、三〇〇

【重役】  
社長 淺野 總一郎  
専務 淺野 八郎  
取締役 淺野 三郎、淺野 四郎、淺野 五郎、淺野 六郎、淺野 七郎、淺野 八郎、淺野 九郎、淺野 十郎、淺野 十一郎、淺野 十二郎、淺野 十三郎、淺野 十四郎、淺野 十五郎、淺野 十六郎、淺野 十七郎、淺野 十八郎、淺野 十九郎、淺野 二十郎、淺野 二十一郎、淺野 二十二郎、淺野 二十三郎、淺野 二十四郎、淺野 二十五郎、淺野 二十六郎、淺野 二十七郎、淺野 二十八郎、淺野 二十九郎、淺野 三十郎、淺野 三十一郎、淺野 三十二郎、淺野 三十三郎、淺野 三十四郎、淺野 三十五郎、淺野 三十六郎、淺野 三十七郎、淺野 三十八郎、淺野 三十九郎、淺野 四十郎、淺野 四十一郎、淺野 四十二郎、淺野 四十三郎、淺野 四十四郎、淺野 四十五郎、淺野 四十六郎、淺野 四十七郎、淺野 四十八郎、淺野 四十九郎、淺野 五十郎、淺野 五十一郎、淺野 五十二郎、淺野 五十三郎、淺野 五十四郎、淺野 五十五郎、淺野 五十六郎、淺野 五十七郎、淺野 五十八郎、淺野 五十九郎、淺野 六十郎、淺野 六十一郎、淺野 六十二郎、淺野 六十三郎、淺野 六十四郎、淺野 六十五郎、淺野 六十六郎、淺野 六十七郎、淺野 六十八郎、淺野 六十九郎、淺野 七十郎、淺野 七十一郎、淺野 七十二郎、淺野 七十三郎、淺野 七十四郎、淺野 七十五郎、淺野 七十六郎、淺野 七十七郎、淺野 七十八郎、淺野 七十九郎、淺野 八十郎、淺野 八十一郎、淺野 八十二郎、淺野 八十三郎、淺野 八十四郎、淺野 八十五郎、淺野 八十六郎、淺野 八十七郎、淺野 八十八郎、淺野 八十九郎、淺野 九十郎、淺野 九十一郎、淺野 九十二郎、淺野 九十三郎、淺野 九十四郎、淺野 九十五郎、淺野 九十六郎、淺野 九十七郎、淺野 九十八郎、淺野 九十九郎、淺野 百郎

【資産負債】

株主資本	十四年	十四年	十五年
外部負債	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
流動負債	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇



【セメント事業】

### 小野田セメント製造

〔設立〕 明治十四年五月  
〔決算期〕 五月、十一月  
〔本社〕 山口縣厚狭郡小野田町六二七六(電小野田一三)  
〔出張所〕 東京市京橋區銀座西三丁目建築會館内(電京橋四九)

【石炭事情稍々好轉】 當社は洋灰製造一本輪の經營を續けてゐて、同業他社に見られる如き多角經營の妙味には乏しい。その中で朝鮮、關東洲及び滿洲に子會社を有することは大きな強味だ。洋灰界に重要産業統制法が適用される過渡期の混亂時代に、當社は所謂アウトサイダーの盟主として華々しい開争を展開し、外地への進出を積極的行つたが、今やこれが實を結び外地はフル運轉を行つてゐる。内地の業界は石炭事情如何にかゝつてをるが、石炭配給も増量されつゝあり、稍々好轉を期待される。前途は必ずしも悲觀を要しない。【一割配當持續】 されば、當面一割配當を繼續しよう。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 10,000,000
【株數】	(單位千株) 100,000	(單位千株) 100,000
【役員】	社長 河野宗三 常務 河野宗三 専務 河野宗三 監査 河野宗三 河野宗三	社長 河野宗三 常務 河野宗三 専務 河野宗三 監査 河野宗三 河野宗三
【大株主】	山本義人 三澤廣忠 坂本章三 吉本義人 三澤廣忠 坂本章三	山本義人 三澤廣忠 坂本章三 吉本義人 三澤廣忠 坂本章三
【事業成績】	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000
【株價】	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000

### 磐城セメント

〔設立〕 明治四十年十一月  
〔決算期〕 五月、十一月  
〔本社〕 東京市麹町區丸の内九ビル内(電丸の内三六一八)  
〔出張所〕 青森縣青森市古川町一七

【上期業績】 五月期の出荷高は季節的減少の上に、原料炭の配給もまだ大した改善も現はれないので、大體十三萬噸と押へられる。前年同期に比し二萬噸の減少で、セメント益は六十五萬圓程度であらう。之に餘剰電力利用に依る合金鐵製造、有價證券投資収益を加へて恒例の百六萬圓の利益計上をなし、八分配當には變りあるまい。【富國を合併】 來る九月一日を期して任會社富國セメントを合併する。合併理由は經營の合理化に盡きる。合併比率は對等富國の現行配當は六分だから、富國は上期一分増配し、合併後の當社配當を現行八分の据置とする意圖のやうである。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 10,000,000
【株數】	(單位千株) 100,000	(單位千株) 100,000
【役員】	社長 岩崎清三 常務 岩崎清三 岩崎清三 監査 岩崎清三 岩崎清三	社長 岩崎清三 常務 岩崎清三 岩崎清三 監査 岩崎清三 岩崎清三
【大株主】	山本義人 三澤廣忠 坂本章三 吉本義人 三澤廣忠 坂本章三	山本義人 三澤廣忠 坂本章三 吉本義人 三澤廣忠 坂本章三
【事業成績】	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000
【株價】	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000

### 秩父セメント

〔設立〕 大正十二年一月  
〔決算期〕 五月、十一月  
〔本社〕 東京市麹町區丸の内日本工業俱樂部内(電丸の内三二五七)

【上期堅調】 上期のセメント出荷高は前期に比し若干増轉し十六萬噸程度に推定される。當社の如き山元工場は共販會社設立に依り惠まれる事多く、セメント益は七十萬圓程度であらう。投資収入十萬圓、スレート十二萬圓その他を加へ、總利益は百萬圓は動くまい。利益率三割四分を越える。當社は低評價資産と高収益力をもち、適正配當も大體一割三分と推算されるから、現行配當に難はない。【副業狀況】 休轉業利用に依る製鐵にも石炭が配給される運びになつたので、今後注目される。然し他方スレート事業の方は小規模な上に、アスベストの入手難が加はり芳しくない様だ。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 10,000,000
【株數】	(單位千株) 100,000	(單位千株) 100,000
【役員】	社長 大友幸助 常務 大友幸助 大友幸助 監査 大友幸助 大友幸助	社長 大友幸助 常務 大友幸助 大友幸助 監査 大友幸助 大友幸助
【大株主】	山本義人 三澤廣忠 坂本章三 吉本義人 三澤廣忠 坂本章三	山本義人 三澤廣忠 坂本章三 吉本義人 三澤廣忠 坂本章三
【事業成績】	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000
【株價】	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000

### 大阪窯業セメント

〔設立〕 昭和元年十二月  
〔決算期〕 五月、十一月  
〔本社〕 大阪市北區堂島渡通二丁目一四(電北二〇一四)  
〔出張所〕 東京市神田區錦保町一丁目(電神田二〇三二)

【難局打開】 セメント業界に於ける最大の悩みも亦、石炭不足の問題である。最近では、業界に對する石炭事情は幾分好轉しつゝあるかに見えるが、なほ先き行き樂觀はゆるされぬ。そこで當社はこの難局打開の爲に、既に經營の多角化に進んでゐることは續報の通りである。回轉業による製鐵事業、アルミナ製造、合金鐵、特殊鋼への進出計畫、回轉業で明礬石を處理し加里肥料の生産計畫等々、多岐に亘つてをる。内容の含みと經營の妙味を發揮するわけだ。【現配當持續】 當社は現在一割六分と云ふ高率配當を行つてゐるので不安視されるが、當面これを繼續するものと思ふ。

【資本金】	公稱 10,000,000	拂込 10,000,000
【株數】	(單位千株) 100,000	(單位千株) 100,000
【役員】	社長 浅田平蔵 常務 浅田平蔵 浅田平蔵 監査 浅田平蔵 浅田平蔵	社長 浅田平蔵 常務 浅田平蔵 浅田平蔵 監査 浅田平蔵 浅田平蔵
【大株主】	山本義人 三澤廣忠 坂本章三 吉本義人 三澤廣忠 坂本章三	山本義人 三澤廣忠 坂本章三 吉本義人 三澤廣忠 坂本章三
【事業成績】	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000
【株價】	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000	十三年下 平均 1,000,000 十三年上 平均 1,000,000 十三年中 平均 1,000,000

【セメント事業】



### 宇部セメント製造

〔設立〕大正十二年九月  
 〔決算期〕五月、十一月  
 (本社) 山口縣宇部市大字小串一九七八(電字部八八)  
 (出張所) 東京市麹町區丸之内三ノ二二二二(電丸之内三九)

〔子會社に期待〕當社の子會社朝鮮セメント(資本金千四百萬圓、内拂込八百萬圓)は今後相當有望である。まだ四分配當を附してをるに過ぎないけれど、漸次内容も充實して来るし、業績も向上線を進ることと思はれる。内地業界は石炭事情如何に支配され、幾分好轉を見ながらも樂觀はゆるさぬに對し、朝鮮は生産制限がないからだ。子會社がいつかは、親會社當社の樂觀材料だ。

〔八分配當は安泰〕十三年上期一分減配して、その後八分配當を繼續してをる。内地洋灰界も漸く底をついたかとも思はれるから、當面成績は樂ではないが、八分配當は維持可能。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】新 100,000
【役員】社長 渡邊 宗七、取締役 高橋 宗七、山川 康之助、大津 隆二、渡邊 隆二、高橋 宗七、大津 隆二、高橋 宗七、大津 隆二	【重役】渡邊 宗七、高橋 宗七、山川 康之助、大津 隆二、渡邊 隆二、高橋 宗七、大津 隆二、高橋 宗七、大津 隆二
【事業成績】十三年下期 売上高 1,200,000、利益 100,000、十三年上期 売上高 1,100,000、利益 90,000	【株價】(東高) 100、(東低) 80、(東中) 90
【名義書換】五十錢	【新券交付】五十錢

### 豊國セメント

〔設立〕大正七年十二月  
 〔決算期〕四月、十月  
 (本社) 東京市麹町區丸之内海上ビル(電丸之内一三)

〔四月期一分増配〕從來、市場狭小に苦しみ來つた九州方面も需要旺盛を前に漸やく立直り、市價も上向くに至つた。尤も四月期出荷高は石炭不足の爲に十三万五千噸と昨年同期に比し七百餘噸の減少を見たが、適當り差益は五圓でセメント益は六十七萬圓を突破した。計上利益は七十三萬七千圓、利益率は一割九分六厘強で餘裕裡に一分増の七分配當を決定した。

〔新事業計畫〕餘利電力三千キロは依然流して居るが、之を利用して新規事業を計畫中だ。今の所内容は判然としなが、何れ具体化すれば資金問題にも展開することゝならう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】新 100,000
【役員】社長 村瀬 末一、取締役 木下 剛、高橋 宗七、山田 隆二、大津 隆二、高橋 宗七、大津 隆二、高橋 宗七、大津 隆二	【重役】村瀬 末一、木下 剛、高橋 宗七、山田 隆二、大津 隆二、高橋 宗七、大津 隆二、高橋 宗七、大津 隆二
【事業成績】十三年下期 売上高 1,500,000、利益 150,000、十三年上期 売上高 1,400,000、利益 140,000	【株價】(東高) 120、(東低) 100、(東中) 110
【名義書換】五十錢	【新券交付】五十錢

### 七尾セメント

〔設立〕大正十五年十一月  
 〔決算期〕五月、十一月  
 (本社) 東京市麹町區丸之内九ビル(電丸之内三三)  
 (支社) 石川縣金澤市白銀町一四

〔拂込徴收〕六月一日七十五萬圓の最終拂込を徴收した。第一基盤改造費七十萬圓及その他借入金の返済に充當する。

〔上期堅調〕上期出荷は、季節的關係から悪いのを通例とするが、それでも北陸地方の需要は強く五萬六千噸に上つた。計上利益は配當收入七萬圓を加へて前期と變らず四十萬圓程度にはならう。利益率約一割九分七分配當は余裕含みだ。ニッケル製練は進行して居るが、愈々賣價の問題も一、二ヶ月中には解決を見る豫定だから、下期邊りから成績に寄與しよう。第二基目の改造も行はれて居る。ニッケル製練の本格化と共に増資氣運も盛頭せん。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】新 100,000
【役員】社長 岩崎 清七、取締役 山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一	【重役】岩崎 清七、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一
【事業成績】十三年下期 売上高 1,000,000、利益 100,000、十三年上期 売上高 900,000、利益 90,000	【株價】(東高) 100、(東低) 80、(東中) 90
【名義書換】五十錢	【新券交付】五十錢

### 東洋セメント工業

〔設立〕昭和九年五月  
 〔決算期〕六月、十二月  
 (本社) 大阪市北區堂島濱通一ノ一五(電北堂島一六)  
 (事務社) 東京市麹町區丸之内三三二二(電丸之内三三)

〔優秀な設備〕當社は小型セメント會社ではあるが、諸設備は一流會社並みに優秀である。業界の混亂時代には小野田セメント製造と共にアウトサイダーとして活躍したものである。昭和十年九月から操業を開始し、同年十二月期以降ずつと一割配當を續けてゐるが、新式な優秀設備に負ふ處が大きい。

〔業種安定〕昨年六月には天津スレート工場が操業を開始したし、副業部門は小さいけれども、業績には寄與する。業界も石炭配給が幾分でも増量されることとなつたし、従つて限産率も漸次緩和される方向にあるから、現行一割配當は今後も續けられるものと思ふ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株數】新 100,000
【役員】社長 阿部 善三、取締役 山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一	【重役】阿部 善三、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一、山田 元一
【事業成績】十三年下期 売上高 1,200,000、利益 120,000、十三年上期 売上高 1,100,000、利益 110,000	【株價】(東高) 120、(東低) 100、(東中) 110
【名義書換】五十錢	【新券交付】五十錢

【セメント事業】



【セメント事業】

### 東洋産業

【設立】明治三十一年四月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】名古屋市中區廣小路通り二朝日ビル(電本局四三二一)  
【事務所】東京市麹町區丸の内三丁目(電九ノ内三六五)

【三社合併】三河洋灰は四月一日子會社の東海洋灰、南海炭礦、南海汽船の三社を對等條件で吸收合併を行ひ、社名を東洋産業と改稱した。合併後資本金は千二百二十萬圓、拂込額八百十五萬圓となるが、適當な時機に資本金百二十萬圓、拂込額八十五萬圓を減資し、資本金一千百萬圓拂込七百三十萬圓とする意圖である。

【上期九分】合併による基準配當は九分強となり、合併前の各社の成績から推察して、上期の九分配當は動かぬとみてよい。

【前途觀】石原産業との提携をはじめ、最近松坂屋資本の浸潤によつて一段と堅實味を加へるに至つたやうである。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 100,000	舊 100,000
【役員】	社長 山内卓郎	取締役 荒川長太郎、山内政市、小嶋和四郎
【大株主】	十四年十一月期	山内卓郎 300,000、小嶋和四郎 100,000、大須賀實藏 100,000、今井清之助 100,000
【事業成績】	去年下	去年上
【工場】	田原(期末月産能力 1,200,000)	新券交付 100,000

【資産負債】	十三年	十四年	十五年
株主資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
平均株価	100	100	100
株價(高値)	100	100	100
株價(安値)	100	100	100

### 滿洲セメント

【設立】昭和九年二月  
【決算期】十一月(年一回)  
【本社】滿洲瀋陽市大通り三〇

【拂込徴收】當社は七月一日一株十二圓半、總額百八十七萬五千圓の拂込を徴收し、これを借入金返済に充當する。昨年末の長短期借入金は六十餘萬圓に上るが、増設廠の運轉も接近もしたので、借入金を拂込に振替へる事となつた譯だ。

【二分増配か】年産能力十八萬噸廠の増設工事は暑々完成したが、本格的運轉はもう暫らく遅れる様だ。それにしても今年度出荷は二十萬噸は越へるし、適當り差益も過般の値上げて一圓方多くならうから、總利益百二十萬圓は動くまい。すると利益率は二割四分に達し、四分配當は余裕含みとなるので二分増の一割配當期待。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 100,000	舊 100,000
【役員】	社長 岩崎清七	取締役 服部兵次郎、金子喜代太、山田三郎
【大株主】	十四年十一月期	山田三郎 300,000、金子喜代太 100,000、岩崎清七 100,000
【事業成績】	去年下	去年上
【工場】	田原(期末月産能力 1,200,000)	新券交付 100,000

【資産負債】	十三年	十四年	十五年
株主資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
平均株価	100	100	100
株價(高値)	100	100	100
株價(安値)	100	100	100

### 哈爾濱セメント

【設立】昭和九年八月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】滿洲國哈爾濱道裡水道街二三號  
【出張所】東京市日本橋區吳服橋三ノ七(電日本橋四〇八)

【上期凡例】上期は一―四月の間が結氷期で搬出困難な上に、一基工場たる爲め、出荷は極めて悪い。需要は旺盛なのだが、供給は思はしくなく前年同期同様二萬噸程度と押へられる。差益は若干良く、結局計上利益は九萬圓弱みだとすれば、拂込の増加があるので利益率は四分五厘となり、四分配當は苦しむ。

【牡丹江工場】年産十五萬噸の牡丹江工場は諸資材入手難に祟られて又々今年中の完成は六ヶしと見られる。建設費六百餘萬圓を賄ふため、四月一日最終拂込一株十二圓半總額百萬圓を徴收したが、勿論不足で増資が氣構へられる。時期は早ければ今年末とならう。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 100,000	舊 100,000
【役員】	社長 玉置英次郎	取締役 上田源三郎、北林悠吉、高橋正吉
【大株主】	十四年十一月期	玉置英次郎 300,000、高橋正吉 100,000、北林悠吉 100,000
【事業成績】	去年下	去年上
【工場】	牡丹江(年産能力 1,500,000)	新券交付 100,000

【資産負債】	十三年	十四年	十五年
株主資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
平均株価	100	100	100
株價(高値)	100	100	100
株價(安値)	100	100	100

### 大阪窯業

【設立】明治十五年一月  
【決算期】五月、十一月  
【本社】大阪市北區堂島濱通二ノ一四(電北二一四)

【増資問題】當社は、同業他社と同様に、事業勃發以來赤煉瓦の生産から白煉瓦の生産へ重點を移行し、専ら耐火煉瓦の生産擴充に努めて來た。十三年六月倍額増資をしたのも右の事情に基く。しかも耐火煉瓦の需要は旺盛で、その生産擴充を要請されるから、第二段の増資が問題となる。處が、折角工場設備を擴張したが、電力石炭不足等で、フル運轉が阻止されるのは困る。資材不足の折柄當社の増資問題も行儀みの状態である。

【現配當安泰】しかし、業績は良好だ。現行一割二分配當は持續し得る筈だ。白煉瓦界は今後も繁忙を續けやう。

【資本金】	公稱 1,000,000	拂込 1,000,000
【株数】	新 100,000	舊 100,000
【役員】	社長 渡田平藏	取締役 白井善三郎、野村浩一、山田三郎
【大株主】	十四年十一月期	渡田平藏 300,000、野村浩一 100,000、山田三郎 100,000
【事業成績】	去年下	去年上
【工場】	大阪(年産能力 1,500,000)	新券交付 100,000

【資産負債】	十三年	十四年	十五年
株主資本	1,000,000	1,000,000	1,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
平均株価	100	100	100
株價(高値)	100	100	100
株價(安値)	100	100	100

【セメント事業】

【煉瓦事業】



〔煉瓦事業〕

### 川崎窯業

〔設立〕昭和五年六月  
〔決算期〕四月、十月

〔本社〕神奈川県川崎市扇町六（電川七三二一）

〔拂込徴収〕四月一日第二回拂込一株二十五圓、總額七十五萬圓を徴収した。満洲普蘭店及び瓦房店の各工場が運轉し始めたので、此の擴張費に充當するためである。

〔二割二分維持〕前記満洲二工場の運轉は四月期業績に寄與するが、電力制限のため本社工場が全能力を發揮し得なかつた。總收入の飛躍的增加は望めず、利益は前期に變らず七十三萬圓弱と推定される。四月の拂込徴収で資本負擔は増すが、一割二分配當に不安はない。川崎第二トンネルキルンの運轉の本格化は下期以降の成績に寄與しようから、今後の好轉が期待される譯だ。

【資本金】公稱 六、〇〇〇、〇〇〇	拂込 五、五〇〇、〇〇〇
【株数】新 一〇〇、〇〇〇	舊 一〇〇、〇〇〇
【重役】社長 白石元治郎	取締役 松島喜市郎
専務 三浦嘉一	高松誠
事務 今泉貫治	高良淳
支那人 松島三久	監査 前田利定
取締役 岡島三久	香田五郎
大株主 十四年十月期	五、六〇〇
鐵鋼證券 〇、〇〇〇	香田五郎 一、八〇〇
三浦嘉一 〇、〇〇〇	香田五郎 一、八〇〇
工場所在地 川崎、普蘭店	三、五〇〇
【関係能力】月産 三、五〇〇	噸
【設備能力】日本鋼管の子會社	三、五〇〇
【名義書換】二十號（新券交付）	五十號

【資産負債】	十二年	十四年	十四年
株主資本	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
平均株価	一〇〇	一〇〇	一〇〇
【業績】	平均株価	利益率	配當率
十二年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十三年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十六年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十六年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十六年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十七年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十七年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十七年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十八年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十八年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十八年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十九年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十九年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十九年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二十年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇

【資本金】公稱 二、〇〇〇、〇〇〇	拂込 一、五〇〇、〇〇〇
【株数】新 一〇〇、〇〇〇	舊 一〇〇、〇〇〇
【重役】社長 伊藤天助	取締役 寺澤増太郎
専務 上野野村	監査 青木文治郎
取締役 岡谷惣助	鬼頭幸七
高橋虎三	寺澤増太郎
大株主 十四年五月期	三、〇〇〇
伊藤天助 〇、〇〇〇	荒川長太郎 一、八〇〇
寺澤増太郎 〇、〇〇〇	上野野村 一、二〇〇
岡谷惣助 〇、〇〇〇	上野野村 一、二〇〇
工場所在地 本社、故坪、山田、鳴海	
工場敷地 〇、〇〇〇	坪
【主要製品】陶磁器、タイル、磁器、海外	
（主として米國）	

【事業規模】十四年上期現在	素燒窯 二基		
本工場	電氣窯 二基		
輸付窯	電氣窯 二基		
【資産負債】	十二年	十四年	十四年
株主資本	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
平均株価	一〇〇	一〇〇	一〇〇
【業績】	平均株価	利益率	配當率
十二年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十三年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十六年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十六年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十六年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十七年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十七年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十七年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十八年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十八年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十八年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十九年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十九年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十九年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二十年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇

〔業績漸次回復〕例のパネー號事件による對米輸出の杜絶で急轉、受難期に迫込まれた當社も、本年五月期はどうやら赤字決算から脱却し得た模様だ。燃料の入手難に加ふるに、節電の傷手があつたにかゝらず、この立直りを得たのは、それだけ海外環境の良化が著しかつたことを物語る。

〔今後の問題〕鳴海の新設工場を勞働力不足で充分に運轉し兼ねてゐるのが最大の悩みだ。尙又米國が参戰することになれば、當社は悪材料だ。しかし耐火煉瓦、内地向製品の好調、新市場の開拓などに期待が懸けられる。配當復活はいま暫らく先きか。

### 名古屋製陶

〔設立〕大正六年八月  
〔決算期〕五月、十一月

〔本社〕名古屋市東區東野町二ノ七八（電東二二）

〔支社〕東京市芝區新橋四ノ六（電芝二六）

【資本金】公稱 二、〇〇〇、〇〇〇	拂込 一、五〇〇、〇〇〇
【株数】新 一〇〇、〇〇〇	舊 一〇〇、〇〇〇
【重役】社長 伊藤天助	取締役 寺澤増太郎
専務 上野野村	監査 青木文治郎
取締役 岡谷惣助	鬼頭幸七
高橋虎三	寺澤増太郎
大株主 十四年五月期	三、〇〇〇
伊藤天助 〇、〇〇〇	荒川長太郎 一、八〇〇
寺澤増太郎 〇、〇〇〇	上野野村 一、二〇〇
岡谷惣助 〇、〇〇〇	上野野村 一、二〇〇
工場所在地 本社、故坪、山田、鳴海	
工場敷地 〇、〇〇〇	坪
【主要製品】陶磁器、タイル、磁器、海外	
（主として米國）	

### 旭硝子株式會社

〔本社〕東京市麹町區丸の内八重洲ビル内（電丸九内三〇一）  
〔支社〕東京市京橋區京橋二丁目明治屋ビル（電京橋三〇一）

〔増資運轉〕倍額増資は當局との折衝に手間取つたが、今秋實現の見込で十月か十一月に増資新株第一回拂込二十五圓を徴収することにならう。配當をどこ迄下げるかが問題となつてゐた模様だが、もう一期（十月期）一割五分を据置き、來年四月期に三分減配して一割二分となる。この下期は一割五分配當の名残となる譯だ。

〔賣上新記録〕上期製品賣上代三千九百卅四萬圓は新記録で、普通板の高率操短、石炭、電力、原料鹽等の不足を克服して、此の好調を見た事は注目に値ひする。綜合經營の賜物に外ならず、ヒシライト硝子纖維、特殊硝子板、コルハート煉瓦等は、他の不振部門を補つて餘りあるものであつた。利益率も三割八厘に回復し、過去三期の低下傾向を更めた。然し乍ら、工業鹽の不足は尙緩和されず、これが下期の成績に相當影響する懸念がある。大局の見地に立つても、減配して前途に備へた方が賢明と思はれる。

〔日化問題〕日本化成工業の倍額増資は既に決定し八月一日第一回拂込二十五圓を徴収する。當社の引受新株卅萬の處分も中々最後の決定に至らぬが、何等かの形で公開されるものと思ふ。當社株主に割當てるほか、一部を市場に出すものと想像される。當社株の採算上注目すべき點だ。

〔硝子事業〕

【資本金】公稱 一、〇〇〇、〇〇〇	拂込 一、〇〇〇、〇〇〇
【株数】新 一〇〇、〇〇〇	舊 一〇〇、〇〇〇
【重役】社長 大野政吉	取締役 岩井秀男
専務 林好重	監査 岩井長良
取締役 河手三郎	加藤武男
池田直一	二川末吉
山田直一	二川末吉
大株主 十四年十月期	二、〇〇〇
林好重 〇、〇〇〇	岩井長良 一、〇〇〇
河手三郎 〇、〇〇〇	加藤武男 一、〇〇〇
池田直一 〇、〇〇〇	二川末吉 一、〇〇〇
山田直一 〇、〇〇〇	二川末吉 一、〇〇〇
工場所在地 本社、故坪、山田、鳴海	
工場敷地 〇、〇〇〇	坪
【主要製品】陶磁器、タイル、磁器、海外	
（主として米國）	

【事業規模】十四年上期現在	素燒窯 二基		
本工場	電氣窯 二基		
輸付窯	電氣窯 二基		
【資産負債】	十二年	十四年	十四年
株主資本	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
平均株価	一〇〇	一〇〇	一〇〇
【業績】	平均株価	利益率	配當率
十二年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十三年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十五年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十六年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十六年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十六年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十七年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十七年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十七年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十八年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十八年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十八年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十九年中	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十九年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十九年下	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二十年上	一〇〇	一〇〇	一〇〇



【硝子事業】

### 日本板硝子

【設立】大正七年十一月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 大阪市東區北濱五丁目住友ビル内(電北濱二六三〇)  
(出張所) 東京市麹町區丸の内丸ビル内(電丸ノ内三三三)

【曹達灰の不足】電力制限、石炭不足に續いて、曹達灰の不足だ。去る四月一日から曹達灰の割當制が實施されたが、當社は板硝子の生産に於ては重點會社だから、曹達灰割當も有利に導かれた。だが原鹽輸入難から曹達灰の生産が絶對的に減少してゐるのだから困る。ストックも喰潰した今日、板硝子の減産も必至だ。

【前途觀】それに、板硝子の採算は悪化してゐる。製品の値上げを許されず、コストが増嵩したからだ。含みがある當社のこととして、一割配當を續けてゐるが、何らかの打開策を講ぜねば減配を不可避としよう。耐火煉瓦部門の擴充を急いでゐる所以だ。

【資本金】公稱 10,000 拂込 5,500

【株数】新(株) 10,000 舊(株) 10,000

【役員】社長 小倉正恒  
常務 稲井 勲造 取締役 宇田 重  
取締役 中村 文夫 監査 岡橋 保  
小畑 忠良 大原 教

【大株主】十四年十一月期 吳五名  
住友本社 三、三三三 住友五左衛門 三、三三三  
旭硝子 三、三三三 住友青左衛門 三、三三三

【事業成績】十四年下 十四年上 十五年上  
製造高(千圓) 三、三三三 三、三三三 三、三三三  
売上高(千圓) 三、三三三 三、三三三 三、三三三

【名義書換】十錢【新券交付】三十錢

【資産負債】 廿二年 廿三年 廿四年

株主資本 七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇

外部負債 一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇

使用總資本 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇

流動資産 五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇

固定資産 四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇

平均株主利益率 一〇・〇〇% 一〇・〇〇% 一〇・〇〇%

株價(實物) 株 高値 安値 株 高値 安値 株 高値 安値

十四年中 六〇・〇〇 五〇・〇〇 六〇・〇〇 五〇・〇〇 六〇・〇〇 五〇・〇〇

十五年中 六〇・〇〇 五〇・〇〇 六〇・〇〇 五〇・〇〇 六〇・〇〇 五〇・〇〇

### 品川白煉瓦

【設立】明治三十六年十二月  
【決算期】三月、九月  
(本社) 東京市麹町區丸の内二丁目二番地(電丸ノ内三五六一)  
(支社) 大阪市北區中ノ島三丁目三番地

【一割配當】三月期の利益金は昨年同期に比し三萬四千圓減の八十二萬八千圓であつた。かかる減益の原因は主力の岡山第三工場の作業が努力、石炭、電力等の不足の爲に思ふに任せなかつたのに因る。拂込資本が九百五十萬圓から一千百萬圓に膨張したので利益率は一割七分四厘と前期に比し二分八厘方の低下となり、一割配當を踏襲したものだけだけ決算内容は低下した。

【拂込・増資接近】北支の耐火煉瓦工場設立計畫の具體化、利賣煤鐵会社の増資の接近するに伴ひ、早晚最終拂込徴収、増資も考へられる譯で、前途は比較的明るさ。

【資本金】公稱 10,000 拂込 11,000

【株数】新(株) 10,000 舊(株) 10,000

【役員】社長 青木 均  
専務 藤田新三郎 取締役 洲川 愛造  
取締役 西村 直 監査 白石喜太郎  
高津伊兵衛 橋本寛三  
馬場 忠俊 石毛竹治郎

【大株主】十五年三月期 一、六〇〇名  
高津株式 20,000 品川企業 三〇,〇〇〇  
安田信託 一〇,〇〇〇 第一 徹兵 10,000

【事業成績】年産能力 (三〇,〇〇〇圓)  
耐火煉瓦 四、〇〇〇千個 (三〇,〇〇〇圓)

【名義書換】十錢【新券交付】三十錢

【資産負債】 廿二年 廿三年 廿四年

株主資本 八、八〇〇 八、八〇〇 八、八〇〇

外部負債 一、二〇〇 一、二〇〇 一、二〇〇

使用總資本 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇

流動資産 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇

固定資産 四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇

平均株主利益率 一〇・〇〇% 一〇・〇〇% 一〇・〇〇%

株價(實物) 株 高値 安値 株 高値 安値 株 高値 安値

十四年中 八〇・〇〇 七〇・〇〇 八〇・〇〇 七〇・〇〇 八〇・〇〇 七〇・〇〇

十五年中 八〇・〇〇 七〇・〇〇 八〇・〇〇 七〇・〇〇 八〇・〇〇 七〇・〇〇

【其他事業】

### 日本エタニツトパイプ

【設立】昭和六年二月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市麹町區大手町日清ビル内(電丸ノ内四八八)

【問題】當社は今問題渾山である。石綿、洋灰の原料供給難に加へて例の水道凝結に端を發した動搖がそれだ。尤も、召喚された當社重役は大部分無罪歸社を許され、現在は勤務してゐる。だが、疑獄事件が解消しても、重役間の軋轢が残るのだが、それも近く解決する模様である。即ち五ヶ月期決算重役會に於て、當社主権部若干名が辭任し、新重役に依つて再建に向ふ筈だ。

【業績】だが原料不足の折柄、當社がよく活躍し得るか、何うかは問題だが、差當つての本年五ヶ月期成績は、利益金約七十萬圓見當を擧げて一割配當を据置く模様である。

【資本金】公稱 10,000 拂込 5,500

【株数】新(株) 10,000 舊(株) 10,000

【役員】社長 藤塚 宗吉 取締役 大西虎之助  
常務 大野 萬夫 監査 高田 道信  
坂下 政治 監査 松浦 孝治  
林 卯之助 監査 石黒七三郎

【大株主】十四年十一月期 三、三三三名  
土橋三三三 藤原宗吉 三、三三三  
大阪商事 三、三三三 大西虎之助 三、三三三

【事業成績】十四年下 十四年上 十五年上  
製造高(千圓) 三、三三三 三、三三三 三、三三三  
売上高(千圓) 三、三三三 三、三三三 三、三三三

【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】 十二年 十四年

株主資本 七、七〇〇 七、七〇〇

外部負債 一、三〇〇 一、三〇〇

使用總資本 九、〇〇〇 九、〇〇〇

流動資産 五、〇〇〇 五、〇〇〇

固定資産 四、〇〇〇 四、〇〇〇

平均株主利益率 一〇・〇〇% 一〇・〇〇%

株價(實物) 株 高値 安値 株 高値 安値

十四年中 六〇・〇〇 五〇・〇〇 六〇・〇〇 五〇・〇〇

十五年中 六〇・〇〇 五〇・〇〇 六〇・〇〇 五〇・〇〇

### 日本コンクリート・ボール

【設立】昭和九年九月  
【決算期】五月、十一月  
(本社) 東京市足立區千住關谷町三八(電足立三六三)  
(営業所) 東京市京橋區銀座西五共同建物ビル(電銀座四四八)

【調味】事業以來鐵材が不足で、特にボールの大口需要先たる東電から鐵材が支給されぬことはボール部にとつて相當の痛手だ。當社はこれが対策として目下東電と折衝中である。加へて洋灰飢饉から洋灰の供給が激減でなくなつた。而も資産内容に稍や堅實味を缺いて居る個處が見受けられ、それが資本効率を縮めて居ることも見逃せない。かくて業績は大體利益率一割三、四分を以つて八分配當を持續して居るが樂な決算とは云ひ兼ねる。

【強味】當社製品は鐵鋼及木材の代用品となるもので、鐵飢饉、木材飢饉の今日、事業としては惠まれたる立場にある。

【資本金】公稱 10,000 拂込 11,000

【株数】新(株) 10,000 舊(株) 10,000

【役員】社長 吉澤 兵左  
取締役 大塚 見長 取締役 福島 茂富  
取締役 田中 兵衛 監査 伊藤 精吉  
加賀山 五郎 監査 米本 卯吉  
香田 三郎 監査 大谷 順之助  
河西三九郎 松 下 榮

【大株主】十四年十一月期 九、七〇〇名  
吉澤 兵左 六、〇〇〇 茶谷豊三郎 一、〇〇〇  
中原證券 一、〇〇〇 茶谷豊三郎 一、〇〇〇

【工場所在地】堺市、新木原葛生、東京

【事業成績】十四年下 十四年上 十五年上  
製造高(千圓) 三、三三三 三、三三三 三、三三三  
売上高(千圓) 三、三三三 三、三三三 三、三三三

【名義書換】十錢【新券交付】五十錢

【資産負債】 十二年 十四年

株主資本 八、八〇〇 八、八〇〇

外部負債 一、二〇〇 一、二〇〇

使用總資本 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇

流動資産 六、〇〇〇 六、〇〇〇

固定資産 四、〇〇〇 四、〇〇〇

平均株主利益率 一〇・〇〇% 一〇・〇〇%

株價(實物) 株 高値 安値 株 高値 安値

十四年中 八〇・〇〇 七〇・〇〇 八〇・〇〇 七〇・〇〇

十五年中 八〇・〇〇 七〇・〇〇 八〇・〇〇 七〇・〇〇











【紡績事業】

### 富士瓦斯紡績株式會社

(本社) 東京市日本橋區本町二ノ一(電日本橋三三三)

【綿布輸出】昨秋目覺しい好轉を見せた綿布輸出が、今年に入つて著しく伸縮み、數量に就ては前年同期を下廻る状態にあり、滞貨問題が喧しくなつた。當社は昨年八月末にも二箇月分の滞貨を擁して苦しんでゐたのを、大戦勃發によつて救はれたのだから、今回とても滞貨少しとはいへまい。唯、製品の平均番手が三十八番手平均で比較的高級品を扱つてゐるので、滞貨状態も他會社と稍々趣を異にし、輸出先も米國を筆頭に、印度、近東、中南米と廣範且つ浮動的だ。最近の輸出値下りも高級品は下級品よりは輕微だ。それにしても、全生産の六割方を輸出してゐる當社が、輸出不振によつて受ける打撃は大きい。但し、先約定のお蔭で問題は下期に持越される。

【五期期成續】綿業は當社固定資産の七割を占め、残りの三割が絹と人織で折半されてゐる。絹紡は生糸の値上りで昨年同期より遙かに良いが、人織はス・フ、人絹共に予想された程良くない。子會社富士纖維の合併は八對五の條件だつたから、負擔にはならないが、ス・フの品質は改善しなければならぬ。昨年同期末復興完了した青島工場が五割程度の運轉だ。混沌とした北支經濟界にあつて予測は立たぬが、利益減もあるまい。結局全体としての五期期利益率は幾分向上しやうが、配當は据置きた。

### 日清紡績株式會社

(本社) 東京市日本橋區本町二ノ七(電東田二二二)

【滞貨問題】輸出向生産が全生産高に對して占める割合では紡績加盟會社中第一位の當社は、リンク制の提案者といはれ、社運を一途に輸出にかけてゐる。製品平均番手は三十七で、富士紡と共に高級品に集中してゐる。滞貨は主に中小紡績と東洋紡、大日本紡の生産する太番手物に多いのだから、優秀な技術と鞏固な輸出地盤を持つ當社にとつては、他會社ほど大きな打撃はない。現に、昨秋の大戦勃發で大巾値上りを見た際にも、當社は手持ちが少かつたため、その恩恵に浴し得なかつたのだ。電力制限は四月以降解除されたが、將來手放しに樂觀出來ず、石炭配給も依然問題だ。當社二十四工場中の二十「迄が、輸出専門工場として認可申請中で、既に指定を受けたものもあることは大きな強味だ。

【青島工場】昨年同期決算で事業の損害を一舉に填補したが、五期は原棉不足で操業率がせいぜい六割程度なので、減益は免れぬ。

【前途觀】輸出商況の良否が成績を左右する最大要因だけに、當社の前途は多難だ。磅ブロック内の綿布市場は漸次自由市場から制限市場に轉化しつつある。五期は期初の輸出が良かっただけに利益金も昨年同期より幾分増加しやうが、特殊事情のあつた昨年同期よりは勿論低下する。然し一割二分配當は當分續行されやう。

【紡績事業】

設立	明治二十九年三月
決算期	五月、十一月
事業	綿紡績、絹紡績、加工
資本	公稱100萬圓 拂込100,000
株主	新(50) 100,000
役員	會長 日比谷平左衛門 常務 木内一隆 取締役 安川 豐三 戸坂 隆吉 取締役 澤田 退藏 川崎 榮助 監査 棚橋 謙之助 友田 久雄 津田 五郎 阿河 孝平 登山 武市郎
株主數	1,234
大株主	明治生命 100,000 日比谷平左衛門 38,000 森村 同族 3,000 川崎 榮助 20,000 岩崎 久彌 2,000 森村 左衛門 10,000 和田 文吾 10,000 千代田 生命 8,000
事業規模	13年下 14年上 14年下 綿紡績(圓) 2,500 2,500 2,500 絹紡績(圓) 1,500 1,500 1,500 襪業(圓) 1,000 1,000 1,000 織機(臺) 1,000 1,000 1,000 生産高(圓) 1,000 1,000 1,000 平均番手 37 37 37 綿布(千疋) 100 100 100 絹布(千疋) 100 100 100 絹絲(千疋) 100 100 100 綿絲(千疋) 100 100 100
投資會社	富士電力滿洲紡績 資本異動 十四年十二月富士纖維合併 五元萬圓増資

【資産負債】	13年 14年 14年
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
社債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 100%
負債比率	10% 10% 10%
平均株主	100 100 100
業績	13年上 14年上 14年下
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
支拂手形	10,000 10,000 10,000
使用總資本	130,000 130,000 130,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
固定資産	30,000 30,000 30,000
投資助定	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
收支助定	10,000 10,000 10,000
支出入	10,000 10,000 10,000
利出	10,000 10,000 10,000
固定消却	10,000 10,000 10,000
消却率	10% 10% 10%
社内保留	10,000 10,000 10,000
構成比率	10% 10% 10%
流動比率	100% 100% 100%
固定比率	100% 100% 1







【紡績事業】

### 錦華紡績株式會社

(本社) 金澤市大田町新町一(電三九三)  
(營業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル五階(電北波 七七)

【輸出率】輸出専門工場の指定問題は目下行き悩みの状態にあるが、當社の輸北向綿糸布の生産比率は最近の實績からすれば次の如くだ。即ち、糸の方は福井工場が一〇〇%、金澤、佐賀の兩工場が約八〇%、浪速工場が六五%で、綿布の方は佐賀工場が一〇〇%、金澤工場が九〇%となつてゐる。最も能率的な福井工場に綿糸生産を集中して、綿布は佐賀と金澤でやる方針らしいが、當社としては當然の措置だらう。ス・フ糸の方も専門紡機をもつ福井工場に集中する様にならう。輸北向は少々相場が下つても製品が極めて優れたものだから、當社としてはそれ程心配は要らぬ。

【五月期】五月期の輸北向綿糸出来高は工場の關係で電力制限の打撃を殆んど受けてないから、前期並に二萬五千捆とし、相當り四十五圓の利益として三十萬圓は期待出来る。内地向綿糸、人絹糸、ス・フ糸等で百八十萬圓内外の利益が擧がれば、合計して少なくとも三百十萬圓位の利益は計上出来る。配當収入、雑収入を加へれば三割近い利益率は示し得るから配當は勿論大丈夫だ。

【青島】青島の東亞重工業は×越半の電氣爐完成につゞいて、この秋には×越半の出来上る予定で、収益期を迎へるのも遠くない。

【紡績事業】

### 同興紡織株式會社

(本社) 支那上海楊樹浦路第二〇八六  
(出張所) 大阪市北區宗是町一(電土佐堀 七四七)

【六分増配】四月末締切りの今年上期決算で六分増の一割六分配當を断行した。計上利益金は三百八十六萬四千圓、その利益率五割一分五厘で、固定資産償却に百六十六萬圓(對前期約三十萬圓増)を振り向け、普通配當を二分増とした他、創立二十周年記念特配四分をつけた。法幣の動搖、不慮の災禍の準備に特別積立金五十萬圓を新たに計上する等、決算は全面的に余裕たつてあつた。普配の二分増は既定の事實であつたが、特配を含めて一割六分増配したのは如何に前期の成績が良好であつたかを物語するものだ。假令法幣の評價益を見込んで、實際利益は六百萬圓以上のものであつた筈だ。

【今期も順調か】十ヶ月も現在迄のところ大体順調だ。上海は原棉手當が樂いで、操業率は一〇〇%である。法幣の動搖著しく、従つて商内も荒いが、利益は相當ある。殊に前期末頃は有利な先約を行ひ得たから、持越された利益も多い。何しろ換物人氣で綿糸布の受渡指圖書が轉々と賣買されてゐる位だから、實際に消費されるか否かは別にして賣値は良いのだ。それだけに現物のストックも多く問題と言へば問題だが大して心配はなからう。青島の方は原棉手當難で操業率は五、六〇%にしか達しないが利益は見込める。特配をどの程度普配に直すかは別として、十ヶ月の一割二分据置は充分可能だ。

【設立】	大正六年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績及綿織布
【資本金】	公稱110,000 拂込113,650
【株主数】	新(1,235) 舊(2,000) 7,735
【重役】	社長 加藤 正人 常務 酒井 宗吾 取締 川 恒二 藤田 宗二 取締 野 清 門田 鐵吉 監査 高 島 伊作 中島 道一 監査 北 西 野 義一 大 幸 作
【株主数】	十三年下 五、六九三 十三年上 五、七九一
【大株主】	江商株式會社 三、六〇〇 野 澤 清 三、〇〇〇 西野 幸作 一、六〇〇 佐 藤 進 六、二五五 北川 同族 九、五〇〇 望 月 太 郎 七、八八八 大阪 商 事 七、五七九 加 藤 正 人 七、二〇〇
【事業規模】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
【精紡績(錠)】	五七、〇〇〇 五七、〇〇〇 五七、〇〇〇 五七、〇〇〇
【混紡績(錠)】	三三、〇〇〇 三三、〇〇〇 三三、〇〇〇 三三、〇〇〇
【原棉消費(千圓)】	七、一七三 七、一七三 七、一七三 七、一七三
【原糸消費(千圓)】	一、七三三 一、七三三 一、七三三 一、七三三
【投資會社】	錦華毛糸、東亞重工業
【資本異動】	十三年七月錦華人約合併 7,000千圓増資

【資産負債】	十三年 十四年
株主資本	三、八二〇 三、七〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
收入	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
支出	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【流動比率】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
負債比率	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【名義書換】	十三年 十四年
五 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇
四 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇
三 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇
二 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇
一 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇

【設立】	大正九年五月
【決算期】	四月、十月
【事業】	綿紡績、綿織布
【資本金】	公稱100,000 拂込済100,000
【株主数】	新(1,000) 舊(1,000) 2,000
【重役】	社長 立川 國三 取締 江 島 良雄 常務 鳥羽 智加 監査 山 崎 清三 平井 晴雄 監査 坂 中 幹太 三島 龍三郎 監査 谷 口 豊三郎 河 瀬 富 助 監査 谷 口 豊三郎
【株主数】	十三年下 二、九二五 十三年上 二、九二五
【大株主】	谷口豊三郎 一七、〇〇〇 中國銀行 五〇、〇〇〇 立川國三 一七、〇〇〇 東洋紡績 八〇、〇〇〇 竹中源三 一七、〇〇〇 飯尾一 一七、〇〇〇 谷口豊三郎 一七、〇〇〇 野瀬清 一七、〇〇〇 谷口豊三郎 一七、〇〇〇 野瀬清 一七、〇〇〇
【事業規模】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
【精紡績(錠)】	三六、〇〇〇 三六、〇〇〇 三六、〇〇〇 三六、〇〇〇
【混紡績(錠)】	三六、〇〇〇 三六、〇〇〇 三六、〇〇〇 三六、〇〇〇
【原棉消費(千圓)】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【原糸消費(千圓)】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【投資會社】	上海文登路工場
【資本異動】	十三年二月五圓拂込徴収

【資産負債】	十三年 十四年
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
收入	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
支出	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【流動比率】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
負債比率	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【名義書換】	十三年 十四年
五 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇
四 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇
三 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇
二 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇
一 月	一、〇〇〇 一、〇〇〇











紡績事業

豊田紡織

【設立】大正七年一月  
【決算期】三月、九月

(本社)名古屋西區米田町一七一六(電西三三)

【火災の被害】四月末南工場の火災で紡機二萬八千錠、織機三百臺を焼いたが、過去の償却で一錠當りに換算した建設費は二十圓以下になつてゐるから、これから受ける損害はそんなに苦にならぬ。しかも焼出された従業員を本社、刈谷の兩工場に送り、それだけ兩工場の能率が擧つてゐるから、作業上の苦痛も少い。資材難の折柄復舊費は相當高くつかうが、受取保険金の範圍内で済まして置かうとの豫定だから何れの點からみても火災の被害は少い。

【前途】輸出の前途不明朗で採算も悪いが、資産内容はよいし關係會社への投資一千餘萬圓も六分近くに廻るので、當分懸念はない。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 100,000
【重役】社長 豊田喜一郎 取締役 林 虎雄 常務 岡本善次郎 監査 豊田 平吉 西川 潤吉 寺田 退三 松岡 健三 藤野 勝太郎 西川 秋次 石田 退三	
【事業規模】工場 1 棟、織機 4,500 錠	
【大株主】十四年九月期 豊田喜一郎 50,000 株 藤野勝太郎 20,000 株 東洋棉花 10,000 株 藤野勝太郎 10,000 株 新券交付	
【事業成績】平均株区利益率 19.2%	
【株價】(實物) 高値 100 安値 70	
【名義書換】十錢 新券交付 三十錢	

日華紡織

【設立】大正七年七月  
【決算期】五月、十一月

(本社)上海常生路九八號  
(出張所)大阪市東區備後町三ノ八綿業會館内(電本町一五〇)

【繰込徴収】七月一日最終拂込一株につき十圓、總額二百二十萬圓を徴収した。使途は負債の整理だ。昨年同期末現在で負債總額は約一千六百萬圓に達してゐるが、今年一月以降既に二百萬圓を負債整理に充當してゐるから、七月以降は多くて一千二百萬圓程度のものとならう。來年一杯にはこれを五百萬圓以下に片付けて了ふ筈だ。

【見透し】斯くて當社は倉紡の傘下に入つてから著しく内容を刷新される譯だ。五年期成績は今迄のところ順調で、四百五、七十萬圓の利益は充分計上出来よう。然し配當は据置いて内容刷新に邁進する筈だ。浦東工場の復興が許されれば見透しは更によくなるらう。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 100,000
【重役】社長 林 桂二郎 取締役 寺田 平治 常務 友水藤三郎 監査 横屋 憲 森本 將虎	
【大株主】十四年十一月期 倉敷紡績 20,000 株 日本棉花 10,000 株 田邊 輝雄 8,000 株 綿紡機 10,000 株 三井物産 10,000 株 綿紡機 10,000 株 三井物産 10,000 株 綿紡機 10,000 株 三井物産 10,000 株 綿紡機 10,000 株 三井物産 10,000 株	
【事業規模】十四年十一月期 倉敷紡績 20,000 錠 日本棉花 10,000 錠 田邊 輝雄 8,000 錠 綿紡機 10,000 錠 三井物産 10,000 錠 綿紡機 10,000 錠 三井物産 10,000 錠 綿紡機 10,000 錠 三井物産 10,000 錠	
【株價】(實物) 高値 100 安値 70	
【名義書換】十錢 新券交付 四十錢	

紡績事業

近江帆布

【設立】明治三十年四月  
【決算期】五月、十一月

(本社)滋賀縣蒲生郡八幡町大字宮内二〇九(電八幡四六)  
(営業所)大阪市東區淡路町三ノ二〇(電北濱四四)

【配當安泰】輸出率から言へば當社は大したものではない。最近の實績から見ると輸出向綿糸生産は三瓶工場が八七%、宇和島工場が七三%、味野、彦根の兩工場は五十%台或はそれ以下だ。主に特需品乃至内地向製品に依存してゐる譯である。然し帆布關係の需要は依然旺盛で利益は充分ある。百五、六十萬圓の利益は結構計上出来るし、九分配當の据置も問題なく出来る。

【前途】軍需品の單下切下げは近く行はれる模様で、心配と言へば心配だが、配當に影響を及ぼす様なことは萬々ない。内容の刷新も出来たから、下期以降も充分やつて行けさうだ。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 100,000
【重役】社長 森五郎兵衛 取締役 西川七右衛門 専務 森 謙治 小澤七兵衛 取締 阿部市太郎 監査 小西 梅三 小澤七兵衛 十四年十一月期 森五郎兵衛 70,000 株 辻井亮太郎 40,000 株 京都證券 30,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株	
【事業規模】工場 1 棟、織機 4,500 錠	
【大株主】十四年十一月期 森五郎兵衛 70,000 株 辻井亮太郎 40,000 株 京都證券 30,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株	
【株價】(實物) 高値 100 安値 70	
【名義書換】十錢 新券交付 三十錢	

和歌山紡織

【設立】明治二十六年二月  
【決算期】五月、十一月

(本社)和歌山市傳法橋南ノ丁一(電三)

【割維持せん】電力制限の打撃が去つた後へ今度は輸出難で當社も樂でない。上期は前半の利益が相當あつた筈だから、平均すれば月十一、二万圓程度の利益は出せさうで、その限り一割配當の維持は困難ではないだらう。

【今後の問題】下期以降は相當問題だ。第一輸出が芳しくなく、それに當社の固定資産は割高(昨年同期末現在の評價は一錠當り四十二圓弱)であるから、収益力はあまり大ではない。尤も當社は特殊向製品の生産高が相當あるから、これとス・フ絲で何とか凌いければよいが、さもなければ減配の懸念なしとしない。

【資本金】公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	【株数】新 100,000
【重役】社長 南 榮次郎 取締役 川口 義宏 専務 南 榮次郎 川口 義宏 取締 南 榮次郎 川口 義宏 南 榮次郎 川口 義宏 南 榮次郎 川口 義宏 南 榮次郎 川口 義宏	
【事業規模】工場 1 棟、織機 4,500 錠	
【大株主】十四年十一月期 南 榮次郎 70,000 株 川口 義宏 40,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株 綿紡機 10,000 株 原棉消費 10,000 株	
【株價】(實物) 高値 100 安値 70	
【名義書換】十錢 新券交付 三十錢	



【紡績事業】

### 東華紡績

【設立】大正九年四月  
【決算期】三月、九月

(本社) 中華民國上海華德路一六七號(電五二〇九)  
(出張所) 大阪市北區堂島北町三六(電北二四〇)

【三月期順調】三月期は三十七万七千圓の利益金を計上、利益率は三割一分四厘で、一割配當措置とした。昨年九月期に比し相當の減益を豫想されたが、實際は六万五千圓の増益であつた。當地の生産綿絲が二十手中心であるため、實需關係から言つて好成績は豫想されなかつたのだが、換物人氣の對照となるのは、融通性の多い二十手であるため、右の如き成績になつたのだ。

【増資問題】今津工場を整理して上海に全力を注ぎ、そのため五百万圓程度に増資したいらしいが、増設するにしても内地工場のない當社としては中々むづかしからう。従つて増資問題も行儀みだ。

【資本金】	拂込済	二,四〇〇,〇〇〇
【株数】	(五〇〇)	四,〇〇〇
【重役】	社長 石田 秀一	
	取締役 河崎助太郎 監査 永橋 友定	
	小谷 一郎 横尾 孝	
	宗三郎 近江岸助	
【大株主】	十五年三月份	三三〇名
	石田 秀一 三〇〇 横尾 孝 三〇	
	近江岸助 三〇 河崎助太郎 一〇〇	
	上海工場 精紡機 ミニール	
	今津毛織工場 一〇〇	
【事業規模】	十一年上 十一年下	
	綿絲出來高(粗) 二,三三〇 二,一九〇	
	名義書換 十錢 【新券交付】五十錢	

【資本金】	公稱 10,000	拂込 7,500,000
【株数】	(100,000)	七五,〇〇〇
【重役】	社長 前田辰之助	
	常務 仲谷 芳雄 取締役 大谷 健三	
	玉置吉之助 監査 清水與兵衛	
	藤原 林平 池田 時和	
	藤原 林平 上野山 公太	
【大株主】	十四年十一月期	六六〇名
	前田辰之助 二七,〇〇〇 玉置吉之助 一〇,〇〇〇	
	東洋棉花 二七,〇〇〇 名平由兵衛 三〇,〇〇〇	
	工場 内海、廣、尾崎、岐、海	
【名義書換】	十錢 【新券交付】五十錢	

### 内海紡織

【設立】大正三年九月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 和歌山縣海南市名高八  
(営業所) 大阪市東區高麗橋二ノ一(電北濱二六一九)

【新株賣出し】當社の新株(二十五圓拂込)の中、重役の持株となつてゐた約九千株が賣り出された。當社は東棉の子會社で小型ながら紡織染色加工の一貫作業を行つてゐる。

【拂込徴收】七月一日に新株の第三回拂込總額百二十五萬圓を徴收して、岐阜工場建設のための借入金返済に充當した。資本負擔はグツと増すが、經驗の深い新興織維製品主としてカゼイン羊毛と作製絲、麻等との混紡織——が良好な賣れ行きを示してゐるから、大して心配はない。綿布輸出はあまり得意ではないが、内地向製品で一割配當は大体維持出來さうだ。

【資本金】	公稱 10,000	拂込 7,500,000
【株数】	(100,000)	七五,〇〇〇
【重役】	社長 前田辰之助	
	常務 仲谷 芳雄 取締役 大谷 健三	
	玉置吉之助 監査 清水與兵衛	
	藤原 林平 池田 時和	
	藤原 林平 上野山 公太	
【大株主】	十四年十一月期	六六〇名
	前田辰之助 二七,〇〇〇 玉置吉之助 一〇,〇〇〇	
	東洋棉花 二七,〇〇〇 名平由兵衛 三〇,〇〇〇	
	工場 内海、廣、尾崎、岐、海	
【名義書換】	十錢 【新券交付】五十錢	

### 帝國人造絹絲株式會社

(本社) 大阪市北區中之島二ノ二五江商ビル内(電北濱三二一八)  
(支社) 東京市日本橋區室町四ノ五近三ビル内(電日本橋一八五)

【原料問題】人絹及びス・フ會社は、當面せる原料問題をどう解決するか、その成行きが頗る注目せられてゐる。バルブの不足に加へて、二硫化炭素の窮乏、更に苛性曹達の減少となつては前途は容易ならざること、云はねばならぬ。一日も早く當局者の確固たる對策が待たれる所以である。

【當社の場合】當社は凡ゆる點で同業他社に優れてゐることは既に周知の事實だが、右のやうに原料類が漸次窮乏化して來ては、當社として安泰たり得ぬ譯だ。今期は兎も角、來期以降が問題であるが、果してどうなるか、今期の成績は人絹十六万八千圓、ス・フ四万九千圓とみて、この利益金は凡そ四百九十三、四萬圓の見込みだ。之に子會社の配當收入を加へると約五百二十四萬圓となる。利益率は三割二分となるから、高率だが一割五分配當は據置ける。

【前途】原料問題がどう解決されるか判らぬが、假りに一部で希望する苛性のリンク制が實施されることになつても、その効果は大きく期待出來ぬだらう。輸出力を持つ當社のことだから、或は當面の難局をなんとか打開するにしても、バルブが充分得られぬとすれば操業率の低下は必至だ。原料問題の成行き如何によつては、永年續行して來た一割五分に傷が付くこととなるかも知れない。

【人絹人絹事業】

【設立】	大正七年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	グイスコース人絹製造販賣
【資本金】	公稱 10,000 拂込 7,500,000
【株数】	(100,000) 新(75,000)
【重役】	社長 久村 清太 取締役 東川 義房
	常務 永田 興 監査 宇田 成和
	吉岡 逸三 横田 義夫
【大株主】	十二年下 七六八 十一年下 七〇七
	臺灣銀行 大株代 三、八〇〇
	野瀬清 三、二〇〇 帝國生命 一〇、〇〇〇
	日本生命 三、三〇〇 富國 八、三三三
	名古屋取引所 一〇、〇〇〇 富國 八、三三三
【事業規模】	工場所在地
	廣島工場 廣島市南千田町
	岩國工場 山口縣玖波郡廣里布町
	三原工場 三原市河内郡廣里布町
	麻布里工場 山口縣玖波郡廣里布町
	生産設備 人絹紡績機 三〇,〇〇〇機
【生産能力】	十四年五月現在
	人絹 八織 八織
【生産高】	十一年下 十一年上 十一年中
	人絹(高) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
	人絹(廣) 一三,〇〇〇 一三,〇〇〇 一三,〇〇〇
【取引銀行】	三和銀行、臺灣銀行
【投資會社】	第二帝國人絹、近江絹絲
【資本異動】	九年十一月三圓五拂込徴收、十二年七月三圓五拂込徴收

【資産負債】	十二年 十三年 十一年
株主資本	九,八八〇 九,八八〇 九,八八〇
外部負債	三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇
使用總資本	六,八八〇 六,八八〇 六,八八〇
流動資産	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
固定資産	五,八八〇 五,八八〇 五,八八〇
現金預金	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
流動負債	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
固定負債	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
流動比率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
固定比率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
平均拂込	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
利益率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
償還率	一〇〇% 一〇〇% 一〇〇%
株價(東) 高値	九・六
株價(東) 安値	九・六
株價(新) 高値	二・二
株價(新) 安値	二・二
【名義書換】	十錢 【新券交付】三十錢



【人組人職事業】

### 倉敷絹織株式會社

（本社）岡山縣倉敷市元町四九七ノ四  
（營業所）大阪市東區今橋三愛信ビル（電北濱六〇三—三）

【原料問題】岡山工場にバルノの自給設備を持つてゐるから、バルノの方は多少他社より安心出来る境地にあるが、然し苛性とか二硫化等が窮乏化すれば、他社同様の條件に追いつける心配がある。

【成績】五月期の成績は概して良好の見込みだ。昨年下期末にリシク制が改正されて、輸出織物用糸の採算が好轉してゐるからだ。生産高は人絹十二万二千函、ス・フ六万五千函と予想される。兩當り利益は人絹二十三圓、ス・フ十三圓とみて、全体では三百六十五萬圓となる。之に雑益を加へると大体四百萬圓の利益とならう。拂込資本に對し二割七分の利益率となるから、一割配當は充分据置き可能とみられる。

【前途】下期以降は他社同様依然樂觀は出来ない。今のうちに苛性の入手難が何んとか打開される見込が立てば、残るはバルノ不足の問題だが、この方は前記の如く當社が岡山で一部バルノ自給を行つてゐることを考慮すれば、先づ心配せぬでよいだらう。苛性はリンク制實施が考へられてゐるが、まだどうなるか判らな。假りにこれが早急に實施されることになつても、操業低下は避けられぬだらう。とすれば原料問題の如何によつては、當社と雖も或は一割配當持續に動搖を來すことになるかも知れない。

### 東洋レーヨン株式會社

（本社）東京市日本橋區室町三井物産内（電日本橋二五二）  
（事務所）滋賀縣大津市石山北大路町（電大津二五二—五）  
（出張所）大阪市北區中之島三（三井物産内）

【原料問題】歐洲第二次大戰が愈々本格化して來た爲めに、工業用原料鹽の輸入が急減したし、更にバルノの輸入も不圓滑となつて來た。人絹、ス・フ會社に與へる影響は今の所では尙ほ確然と判らぬが、然し原料鹽の苛性曹達の問題が先行きどう解決されるか、その成行き如何によつては、人絹、ス・フ會社は根本的に悲觀せざるをえないのではあるまいかと思はれる。

【當社の場合】當社として原料問題がどう解決されるか、その成行如何によつては決して樂觀は出来ない。尤も當社は子會社にレーヨン曹達を持ち、苛性曹達の手當には比較的恵まれてゐる方であるから突速困るやうなことはないと思はれる。だが原料鹽で締められるとなれば、體ては當社も操業に支障を來すこととなるだらう。此社に比し時間的に影響を蒙るのが遅れても、結局は同業他社と同様の運命を辿らねばならぬだらう。

【五月期成績】生産高と採算關係からみる限り、五月期の成績は前期より多少優るかも知れない。従つて一割二分配當は据置ける見込だ。問題は下期以降にある。即ち原料問題の先行き如何によつては、當社と雖も一割二分配當を据置ることが困難となるかも知れない。當分警戒を要する所以だ。

【人組人職事業】

【設立】	大正十五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	人造絹絲其他各種化學纖維並各種織物製造加工及販賣
【資本金】	公稱 50,000,000 拂込 30,000,000
【株主数】	新 275 舊 50
【重役】	社長 大原總一郎 取締役 柳原得一、高橋雄吉、藤田三村、吉井郁三、相澤中村純一郎、吉井仲助、大原孫三郎
【大株主】	住友銀行 20,000,000、大友銀行 10,000,000、大塚代 10,000,000、住友化學工業 10,000,000、中國銀行 10,000,000、住友銀行 10,000,000、新居 10,000,000、西條 10,000,000、山崎 10,000,000、新居 10,000,000、生産設備 10,000,000、人絹精紡機 10,000,000、工場別日産能力(單位:函)
【生産高】	人絹 5,000,000、ス・フ 3,000,000
【資本異動】	十年十一月中國レーヨンを合併 2,000,000 増資

【設立】	大正十五年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ワイスコース人絹、人絹織
【資本金】	公稱 30,000,000 拂込 20,000,000
【株主数】	新 300 舊 100
【重役】	社長 淺野 取締役 佐羽大三郎、小澤 取締役 伊藤三郎、石田 取締役 成瀬三郎、田代 取締役 秋庭、高木 取締役 千原
【大株主】	三井物産 10,000,000、東洋銀行 10,000,000、帝國生命 10,000,000、三井生命 10,000,000、日本生命 10,000,000、第一生命 10,000,000、千代田生命 10,000,000
【事業規模】	滋賀工場 大津市石山北大路町、日産能力 人絹 8,000 函、ス・フ 3,000 函、瀬田工場 滋賀縣栗太郡瀬田町、日産能力 人絹 1,000 函、ス・フ 500 函、紡機 3,000 機、織機 1,500 機
【生産高】	人絹 5,000,000、ス・フ 3,000,000
【投資會社】	レーヨン曹達、東洋絹織
【資本異動】	十年三月二五五拂込徴収、十二年九月二三五拂込徴収

【資産負債】	十三年 十四年 十五年
株主資本	12,000,000 13,000,000 14,000,000
積立金	1,000,000 1,500,000 2,000,000
外部負債	1,000,000 1,500,000 2,000,000
流動負債	1,000,000 1,500,000 2,000,000
流動資産	1,000,000 1,500,000 2,000,000
固定資産	1,000,000 1,500,000 2,000,000
現金預金	1,000,000 1,500,000 2,000,000
【収支勘定】	十三年 十四年 十五年
収入	10,000,000 11,000,000 12,000,000
支出	9,000,000 9,500,000 10,000,000
利益	1,000,000 1,500,000 2,000,000
【名義書換】	十三年 十四年 十五年
株主資本	12,000,000 13,000,000 14,000,000
積立金	1,000,000 1,500,000 2,000,000
外部負債	1,000,000 1,500,000 2,000,000
流動負債	1,000,000 1,500,000 2,000,000
流動資産	1,000,000 1,500,000 2,000,000
固定資産	1,000,000 1,500,000 2,000,000
現金預金	1,000,000 1,500,000 2,000,000

【資産負債】	十三年 十四年 十五年
株主資本	12,000,000 13,000,000 14,000,000
積立金	1,000,000 1,500,000 2,000,000
外部負債	1,000,000 1,500,000 2,000,000
流動負債	1,000,000 1,500,000 2,000,000
流動資産	1,000,000 1,500,000 2,000,000
固定資産	1,000,000 1,500,000 2,000,000
現金預金	1,000,000 1,500,000 2,000,000
【収支勘定】	十三年 十四年 十五年
収入	10,000,000 11,000,000 12,000,000
支出	9,000,000 9,500,000 10,000,000
利益	1,000,000 1,500,000 2,000,000
【名義書換】	十三年 十四年 十五年
株主資本	12,000,000 13,000,000 14,000,000
積立金	1,000,000 1,500,000 2,000,000
外部負債	1,000,000 1,500,000 2,000,000
流動負債	1,000,000 1,500,000 2,000,000
流動資産	1,000,000 1,500,000 2,000,000
固定資産	1,000,000 1,500,000 2,000,000
現金預金	1,000,000 1,500,000 2,000,000











【人相人織事業】

# 太陽レィオン

【設立】昭和九年一月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 大阪市東區南久太郎町二ノ一三阿部市ビル(電話場二七〇一八)

【原料問題】當社は愈々經營が苦しくなりさうだ。運管が極めて不利であつた所へ、更に原料問題と品質改善問題に當面したので、この成行如何によつては根本的な打撃を蒙ることになりさうだ。

【成績】當社の成績は元々芳しくないのだ。八分配當も正常な償却を行ふとすれば既に或る程度の減配を必要としてゐるのだ。五月份とても大した向上は期待出来ないから、八分配當は依然として窮屈を免れまい。下期に入れば原料問題でどう言ふ難局に當面するか判らないのだ。ことによると或は大巾の減配が免れないやうなことになるかも知れない。先行き警戒を要する。

【資本金】公稱 10,000 拂込 10,000	【株数】(株) 100,000	【重役】社長 塚脇政次郎、取締役 藤本彌治郎、伊藤萬助、阿部竹太郎、高田榮治郎、朝野勲、濱田勇三
【大株主】十四年十一月期 田村商店 10,000、朝野勲 10,000、帝國製麻 10,000、朝野勲 10,000、生産高 10,000、人相(人) 10,000、人織(人) 10,000	【新券交付】五十錢	【名義書換】十錢
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】
十二年度 12,000	十二年度 12,000	十二年度 12,000
十四年度 14,000	十四年度 14,000	十四年度 14,000
十五年 15,000	十五年 15,000	十五年 15,000
十六年 16,000	十六年 16,000	十六年 16,000
十七年 17,000	十七年 17,000	十七年 17,000
十八年 18,000	十八年 18,000	十八年 18,000
十九年 19,000	十九年 19,000	十九年 19,000
二十年 20,000	二十年 20,000	二十年 20,000

# 第二帝國人絹

【設立】四月、十月  
【決算期】昭和九年九月

(本社) 大阪市北區中之島二ノ二五江商ビル内(電北濱三六一九)

【原料問題】當社として苛性曹達とバルブの窮屈化は痛手である。この成行如何によつては、他社同様に重大關心を持つべきであること言ふ迄もない。

【成績】然し當社の収益力は頗る強固であり且つ優れてゐる。従つて時局以來と雖も裕々と一割二分配當を繼續してゐる。此の點からする限り、四月份も大體配當据置き可能と見てよからう。だが問題は下期である。原料關係が當面何とか早く解決出来れば、或は此の難局を切抜けることが出来るかも知れぬが、それにしても、この問題が根本的に解消されぬ限りは、二分位減配となるかも知れない。

【資本金】公稱 10,000 拂込 10,000	【株数】(株) 100,000	【重役】社長 永田興、取締役 大村久、大屋清三、大橋巨、吉岡登、東川義房、宇田成和、間室壽人、岡崎旭
【大株主】十四年十一月期 人相(人) 10,000、人織(人) 10,000、生産高 10,000、事業規模 10,000、日産能力 10,000、製品(人) 10,000	【新券交付】五十錢	【名義書換】十錢
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】
十二年度 12,000	十二年度 12,000	十二年度 12,000
十四年度 14,000	十四年度 14,000	十四年度 14,000
十五年 15,000	十五年 15,000	十五年 15,000
十六年 16,000	十六年 16,000	十六年 16,000
十七年 17,000	十七年 17,000	十七年 17,000
十八年 18,000	十八年 18,000	十八年 18,000
十九年 19,000	十九年 19,000	十九年 19,000
二十年 20,000	二十年 20,000	二十年 20,000

【八潮人織事業】

# 日本人造羊毛

【設立】昭和九年二月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 東京市麹町區内幸町大阪ビル内(電話場 四三三)

【業況】「業況」ス・フ生産は依然極度の制限を余儀なくされてゐるが、問題の石炭不足を工場附近の石油礦區から得られる天然瓦斯、石油ピッチの利用によつて補足してゐる。併し結局龍蝦より減産は免れまい。製品のス・フは品質優良で、親會社東洋紡織を通じて輸出してゐるが、この輸出も他の織維同様最近思はしくない。

【配當】昨年度下期は二割七分の利益率で七分配當を行つた。償却も充分に餘裕ある決算といへる。資金調整で増資が行はず、固定資産の一部を借入金で賄つてゐるため利益率は高い。増配不能ではないが、苛性曹達問題等で業界の前途不安の折柄期待しないうが良からう。

【資本金】公稱 10,000 拂込 10,000	【株数】(株) 100,000	【重役】社長 青木一葉、取締役 竹村吉、井上房吉、洲上太郎、鈴木吉十、伊藤十、鈴木吉十、伊藤十、鈴木吉十、伊藤十
【大株主】十四年十一月期 太陽生命 10,000、事業規模 10,000、日産能力 10,000、紡織機 10,000、名義書換 10,000	【新券交付】五十錢	【名義書換】十錢
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】
十二年度 12,000	十二年度 12,000	十二年度 12,000
十四年度 14,000	十四年度 14,000	十四年度 14,000
十五年 15,000	十五年 15,000	十五年 15,000
十六年 16,000	十六年 16,000	十六年 16,000
十七年 17,000	十七年 17,000	十七年 17,000
十八年 18,000	十八年 18,000	十八年 18,000
十九年 19,000	十九年 19,000	十九年 19,000
二十年 20,000	二十年 20,000	二十年 20,000

# 新潟人絹工業

【設立】昭和九年八月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 新潟市外大形村河渡新田

【業況】ス・フ生産は依然極度の制限を余儀なくされてゐるが、問題の石炭不足を工場附近の石油礦區から得られる天然瓦斯、石油ピッチの利用によつて補足してゐる。併し結局龍蝦より減産は免れまい。製品のス・フは品質優良で、親會社東洋紡織を通じて輸出してゐるが、この輸出も他の織維同様最近思はしくない。

【配當】昨年度下期は二割七分の利益率で七分配當を行つた。償却も充分に餘裕ある決算といへる。資金調整で増資が行はず、固定資産の一部を借入金で賄つてゐるため利益率は高い。増配不能ではないが、苛性曹達問題等で業界の前途不安の折柄期待しないうが良からう。

【資本金】公稱 10,000 拂込 10,000	【株数】(株) 100,000	【重役】社長 原野次、取締役 中野四郎、白野重太郎、松坂重太郎、宗像善雄、古澤欽治、瀧澤逸作、橋爪庸蔵、高杉儀平
【大株主】十四年十一月期 東洋紡織 10,000、事業規模 10,000、日産能力 10,000、製品(人) 10,000、名義書換 10,000	【新券交付】二十錢	【名義書換】十錢
【資産負債】	【株主資本】	【外部負債】
十二年度 12,000	十二年度 12,000	十二年度 12,000
十四年度 14,000	十四年度 14,000	十四年度 14,000
十五年 15,000	十五年 15,000	十五年 15,000
十六年 16,000	十六年 16,000	十六年 16,000
十七年 17,000	十七年 17,000	十七年 17,000
十八年 18,000	十八年 18,000	十八年 18,000
十九年 19,000	十九年 19,000	十九年 19,000
二十年 20,000	二十年 20,000	二十年 20,000







【入組人職事業】

### 壽織維工業

【設立】昭和十年十月  
【決算期】四月、十月

(本社) 大阪市北區根崎上二ノ四共同ビル(電北三〇一五)

【増配】去る四上期一分増配。計上利益は九十萬六千圓、利益率割三分六厘で、その前期に比し八萬七千圓の増益、利益率で一分二厘の向上だから、一分増配は先づ妥當と云つてよい。成績向上の主因は中心事業たるス・フ一貫作業及び附属事業としての炸薬絲の紡績並びにバーチメントペーパーの製造が共に軌道に乗つて来た點に求められる。

【問題】人絹及びス・フ會社共通の問題として原料バルブ及び苛性曹達の逼迫があるから、前途を手放しに樂觀出來ないが、現配當は當面維持出來る見込だ。

【資本金】公稱 10,000 拂込 13,150  
【株数】新(10,000) 100,000  
【役員】會長 菊本直次郎 社長 常田健次郎 常務 北田彦三郎 河野泰雄 東門源次郎 取締役 田村駒治郎 遠山元一 小林中 瀧野多三郎 中村信馬 家七兵衛 寺田甚吉 相談 下郷博平 監査 今村奇男 矢次省三

【資産負債】十四年 十四年 十五年  
株主資本 10,000 10,000 10,000  
外部負債 1,000 1,000 1,000  
使用總資本 11,000 11,000 11,000  
固定資産 2,000 2,000 2,000  
流動資産 9,000 9,000 9,000  
平均株式 110 110 110  
利益率 10% 10% 10%

### 日本織維工業

【設立】昭和十二年六月  
【決算期】五月、十一月

(本社) 新潟市長岡市王町五八〇  
(營業所) 大阪市東區南久太郎町二河部ビル(電船場五五)

【打撃】原料及びバルブ苛性曹達の供給逼迫からは、當然當社へのス・フ割當量の減退を來す筈だから、何等かの打開策がなければ打撃は相當深刻と云つてよい。

【対策】然し當社は昨年始めから他織維の混紡に着手し、現在では主として絹織維の紡績に専念して居るし、更に麻とス・フの混紡も行つて居る。これ等の混紡は特需向にも多量に出るので、前途は相等期待されてゐる。これでス・フの缺陷を補ふこととなれば、成績は寧ろ伸張を見るであらう。斯様なわけだから、現配當は何とか維持出來ると思ふ。

【資本金】公稱 11,000 拂込 11,000  
【株数】新(11,000) 110,000  
【役員】會長 寺田甚吉 社長 岸本彦衛 常務 原邦彦 下郷保 坂井新次 佐藤行雄 林正治 山崎種一 井上相如 監査 岩田宗太郎 小林中 町田徳之助 豊田喜一郎 鷺尾徳之助

【資産負債】十二年 十四年 十五年  
株主資本 11,000 11,000 11,000  
外部負債 1,000 1,000 1,000  
使用總資本 12,000 12,000 12,000  
固定資産 2,000 2,000 2,000  
流動資産 10,000 10,000 10,000  
平均株式 120 120 120  
利益率 10% 10% 10%

【製絲事業】

### 片倉製絲紡績株式會社

(本社) 東京市京橋區京橋三ノ二(電京橋三六一九)

【三上期決算】當社の三月決算は非常に良かった。利益金は八百一十七千圓、利益率は五割四分八厘を示し一分増の割配當を行つた。これを昨年九上期に比較すれば、利益金は二百八萬圓、利益率は一割三分三厘の大巾向上に當る。

【實際利益】然し實際業績の向上はこれしきの事ではない。記者の推算は依れば一千五百萬圓の利益は擧がつてゐなければならぬ。四萬一千俵の販賣に對し、一俵當り平均四百圓近くの利益が出たのではないかと思はれるからだ。たとすれば、右の計上利益は實際利益の略々半分しか當らぬわけだ。注目すべき現象であらう。

【下期如何】ところで九上期だがこれはまだ確然たることは言はれない。なる程政府決定の最高價格は一千七百圓、最低價格は一千三百五十圓と決定したが、これだけでは何とも言はれない。新繭の相場はかなり高くなるさうだからである。然し當社の前途を悲觀する必要はない。前期に七百萬圓見當の利益が、繰越品の評價切下げとか、固定資産の内面償却の形で内部に保留されてゐるから、これを吐き出しても一數回は現行配當を維持する事が出來るからだ。それに新繭は如何に高くとも製絲の赤字を出さねばならぬやうな高値とはなるまいから當分當社の割配當は不動と見てよい。

【設立】大正九年三月  
【決算期】三月、九月  
【事業】製絲、蠶種、生絲輸出  
【資本金】公稱 1,000 拂込 1,000  
【株数】新(1,000) 10,000  
【役員】會長 片倉兼太郎 社長 片倉兼太郎 常務 片倉兼太郎 取締役 片倉兼太郎 片倉兼太郎 片倉兼太郎 監査 片倉兼太郎 片倉兼太郎

【資産負債】十四年 十四年 十五年  
株主資本 1,000 1,000 1,000  
外部負債 1,000 1,000 1,000  
使用總資本 2,000 2,000 2,000  
固定資産 1,000 1,000 1,000  
流動資産 1,000 1,000 1,000  
平均株式 100 100 100  
利益率 10% 10% 10%